

社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート合同調査

**第4回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
(2009)
報告書**

雇用形態の変容と労働観の変化。無業者増加問題をはじめ、若者への職業観育成指導は今、日本が取り組むべき大きな課題となっています。行政、学校教育はむろんですが、若者にとって最も身近な大人である「保護者」ができることはなんでしょうか。

進路に関する保護者と子のコミュニケーションのあり方と、大人ができる高校生のよりよい進路選択へのサポートを探りたい——。社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対して、コミュニケーションの実態と様々な進路観に関するアンケート調査を2003年より隔年で実施してきました。その4回めとなる調査の分析結果をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

社団法人全国高等学校PTA連合会
会長 高間専逸
進路対策委員会委員長 小出邦彦

株式会社リクルート
進学カンパニー
カンパニー長 井上 智生

▼本調査に関するお問合せは、下記までお願いします▼

(株)リクルート キャリアガイダンス編集室
TEL:03-6835-4068/e-mail:career@r.recruit.co.jp

※この調査結果については、キャリア教育専門誌「キャリアガイダンス」No.30(リクルート)にも掲載しています。
※出版・印刷物等へデータ転載する際には、“(社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。

調査結果トピックス

■進路選択に関する保護者の態度を「ちょうどいい」と感じている高校生は63% 「干渉」を感じるのは23%、「無関心」は13%

進路選択に関する保護者の態度について、「干渉しすぎる」「やや干渉しすぎる」と感じている高校生は23%、「無関心すぎる」「やや無関心」は13%。「ちょうどいい」が63%と最も多かった。進路について保護者と話をしている層ほど「ちょうどいい」が多く、話していない層では「無関心」が多くなる傾向が見られた(p.11)。

■保護者に望む行動は「私の考えを尊重する」「私の話をちゃんと聞く」「具体的なアドバイス」 やめてほしいのは「望みを高くもちすぎる」「勉強や成績の話ばかり」「考えの押しつけ」

進路に関して高校生が保護者に望むことで最も多かったのは「私の考えを尊重する」で、次に「私の話をちゃんと聞く」「具体的にアドバイスする」が続いた(p.13)。一方、やめてほしい行動・態度については、「望みを高くもちすぎないでほしい」「勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい」「自分の考えを押しつけないでほしい」などの回答が多かった(p.14)。

■「進路について考えている」という高校生は80% 「いろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそう」という高校生は68%

高校2年生の秋に進路選択についてどの程度考えているか、高校生本人の回答によると「かなり考えている」は18%で、「ある程度考えている」と合わせると80%を超えた(p.21)。また、これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそうかという質問については、「歩んでいけそう思う」は14%で、「ややそう思う」との合計は68%だった(p.22)。

■子どもの進路選択についてのアドバイスを「難しい」と感じる保護者が増加 理由は「社会がどのように変わっていくか予測がつかないから」

保護者の73%が子どもの進路選択についてのアドバイスを「難しい」と感じており、2005年以降増加が続いている。理由は「社会がどのように変わっていくか予測がつかないから」がトップ。前回もトップだったが、数値が前回52%から62%へ大幅な増加となった(p.27)。

■保護者の8割が進路情報収集に意欲。理由は「子どもと一緒に考えたいから」

子どもの進路選択に関する様々な行動について「おこなったことがある」「今後おこないたい」という保護者の割合を見ると、「どんな学校があるか調べる」は83%、「どんな学部、学科、コースがあるか調べる」は82%、「興味をもった学校の入試方法を調べる」は80%と、情報収集に関する項目への高い意欲が目立った。このように保護者が自ら行動する理由には、「子どもと一緒に考えたいから」「具体的な情報を知らないとな進路の会話ができないから」が上位にあがり、子どもと一緒に考え、話し合うために情報収集する姿がうかがえる(p.36・37)。

◆◆◆ コンテンツ ◆◆◆

【調査概要】	3
【回答者プロフィール】	3

I. 親子コミュニケーションの実態

1. 進路について話す頻度	高校生の75%、保護者の89%が「話をする」と回答	4
2. 進路について話す内容・話さない理由	話す内容は「高卒後の具体的な進路」が55%で最多	5
3. 保護者がよく使う言葉	高校生・保護者とも「自分の好きなことをしなさい」が最多	6
4. 希望進路・進路の悩みの共有度	高校生の83%、保護者の89%が「保護者は希望進路を知っている」と回答	7
5. 保護者からのアドバイス	高校生の59%がアドバイスを希望。保護者の76%はアドバイスしている	8
6. 進路選択における相談相手	「母親」が最多で78%、「父親」は40%	9
7. 進路選択で影響を受けている人・もの	1位は「母親」35%、2位は「父親」27%	10
8. 進路選択に関する保護者の態度の感じ方	「ちょうどいい」と感じている高校生が63%	11
9. 進路に関する保護者の行動・態度	「あたたく見守っている」と感じている高校生が60%	12
10. 保護者にしてほしい行動・態度	最も望むのは「私の考えを尊重」で34%が回答	13
11. 保護者にやめてほしい行動・態度	やめてほしいのは「過度な期待」と「勉強の話」	14

II. 進学に関する考え

12. 進学についての価値観	「知名度」よりも「やりたいこと」「個性や能力」を重視	15
----------------	----------------------------	----

III. 働くことに関する考え

13. 高校生ががつきたい職業	「モノづくり」「公務員」「教師」が人気	16
14. 高校生が目指す人	「目指している人やあこがれている人がある」という高校生は28%	17
15. 保護者がついてほしい職業	「公務員」が前回に続きトップ	18
16. 高校生ががつたくない職業とフリーター	がつたくない職業のトップは「フリーター」	19
17. ニートに関する考え	「なる人がいても不思議ではない」と高校生・保護者とも約4割が回答	20

IV. 進路にまつわる期待と不安

18. 進路選択の意識	「進路について考えている」という高校生は80%	21
19. 自分の将来への自信	自分の進路を歩む自信をもつ高校生は約7割	22
20. 進路を考える時の気持ち	「楽しい」という高校生は26%、「不安になる」は49%	23
21. 進路選択に関する気がかり	「学力不足」が54%で最大の気がかり	24
22. 働くことの気がかり	高校生の69%、保護者の66%が「気がかりがある」と回答	25
23. 未来社会への認識	「好ましくない」という高校生は75%、保護者は83%に増加	26
24. 保護者がアドバイスすることの困難	「アドバイスが難しい」という保護者は73%に増加	27
25. 保護者の印象	父親を「楽しそう」と感じる高校生は66%、母親を「楽しそう」と感じる高校生は71%	28

V. 家庭教育と自立意識

26. 家庭教育	「ほめられてきた」高校生は48%、「ほめてきた」保護者は73%	29
27. なぜ学び・なぜ働くかについての話し合い	「勉強する意味を話し合った」という高校生は17%、保護者は53%	30
28. 保護者の仕事についての会話	「保護者は仕事の話をしている」という高校生は45%、保護者は68%	31
29. 自立についての認識	「自立しなさい」と保護者に言われたことがある高校生は49%	32
30. 経済的自立・精神的自立	「すでに精神的には自立している」という高校生は17%	33

VI. 保護者の動きと学校への要望

31. 進学情報の必要性・入手方法	「入試制度」「進学費用」「職業との関連」についての情報が重要	34
32. 進学先検討の重視点	「子どもの学びたい学部・学科・コースがある」が84%で最多	35
33. 保護者の進路選択行動	学校見学に「行ったことがある」は22%、「今後行きたい」は49%	36
34. 家庭と学校の役割に関する認識	「学力をつけさせる」「経済や企業の動向を伝える」は学校への期待大	38
35. 進路指導への要望	「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」という高校生は39%、保護者は41%	39
36. キャリア教育の認知と期待	キャリア教育の認知率は28%とほぼ前回並み	40

【調査概要】

- 調査実施者 社団法人全国高等学校PTA連合会／株式会社リクルート
- 調査対象 全国の高校2年生とその保護者
(全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校27校
第2学年2クラス分の高校生と保護者)
- 調査期間 2009年9月28日～10月30日
- 調査方法 学校通しの質問紙による自記式調査
①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生分と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数 高校生1953人 ※全問無回答5人を除く
保護者1495人 ※全問無回答11人を除く

【回答者プロフィール】

■高校生

- 性別： 男子 55.0% 女子 42.3% 無回答 2.7%
- 高校タイプ： 普通科 61.5% 専門学科 32.9% 総合学科 5.6%
- 地域分布： 北海道 10.7% 山形県 10.8% 埼玉県 12.0% 東京都 10.8% 石川県 11.1%
三重県 11.3% 京都府 11.2% 愛媛県 10.3% 鹿児島県 11.8%
- 高校卒業後の希望進路： 大学・短大進学 55.8% 専門学校進学 15.0% 就職 25.5%
フリーター 0.4% 留学 0.3% その他 1.1% (無回答 2.0%)

■保護者

- 続柄： 父親 12.9% 母親 83.8% その他 0.9% 無回答 2.4%
- 地域分布： 北海道 7.1% 山形県 12.3% 埼玉県 13.0% 東京都 6.0% 石川県 13.1%
三重県 11.2% 京都府 12.2% 愛媛県 11.6% 鹿児島県 13.3%
- 子どもの高校卒業後に希望する進路：
大学・短大進学 51.6% 専門学校進学 10.2% 就職 16.5%
留学 0.1% その他 1.0% 子どもが希望する進路なら何でもよい 19.3%
(無回答 1.3%)

<注>

- ※第2回調査(2005年)は、2005年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
(有効回答：高校生2478・保護者2181)
- 第3回調査(2007年)は、2007年10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
(有効回答：高校生1802・保護者1541)

※グラフ内の数値は小数点2位以下を四捨五入
本文中の数値はグラフ内の数値の小数点1位以下を四捨五入して使用

※フリーコメント末尾のカッコ内の内容は下記のとおりです
高校生コメント→(都道府県・性別・希望進路)
保護者コメント→(都道府県・続柄、子どもの性別)

I. 親子コミュニケーションの実態

1. 進路について話す頻度

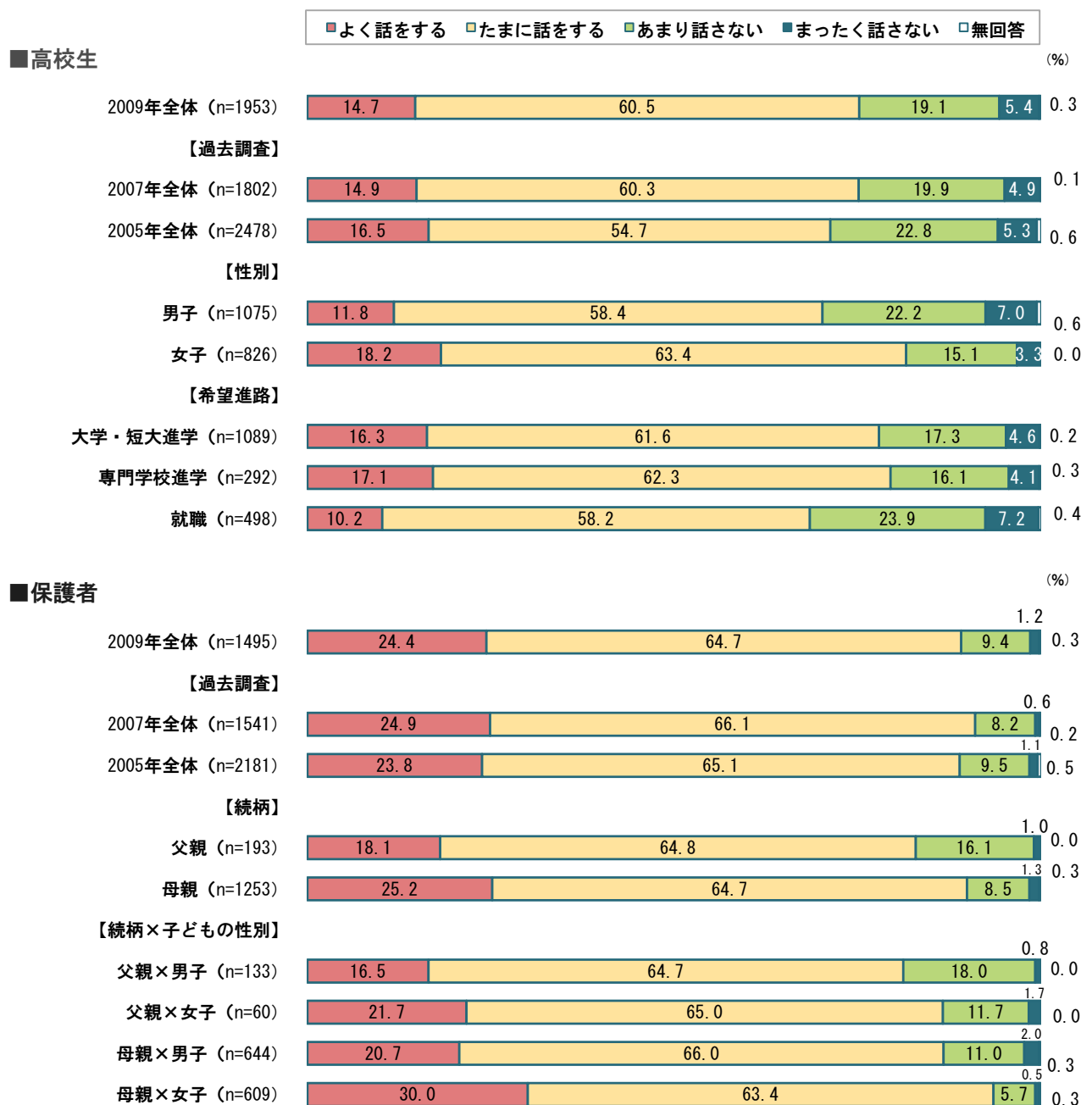
■ 高校生の75%、保護者の89%が「話をする」と回答

■ 就職希望者が最も会話が少ない

高卒後の進路について、高校2年生は保護者とどれぐらい話しているだろうか。高校生の回答は「よく話をする」が15%で、「たまに話をする」を合わせると75%(図1)。前回の調査結果と比べて大きな変動は見られない。男女別では女子のほうが「話をする」が多く、【希望進路】別では就職希望者に「話をする」が少なめなのが目につく。

一方、保護者の回答は「よく話をする」が24%、「たまに話をする」を含めると89%で、どちらも高校生の回答より多い。前回からは横ばい状態である。特に母親は「話をする」が多く、母親と娘の組合せは93%に及ぶ。父親と息子は最も話していないが、それでも81%に達しており、進路に関する親子の会話はおおむね活発なようだ。

図1 進路について高校生と保護者は話しているか



2. 進路について話す内容・話さない理由

■話す内容は「高卒後の具体的な進路」が55%で最多

■話さない理由のトップは「めんどくさいから」

進路について保護者と話をすると回答した高校生に、どんな話をしているのか質問したところ、多い順に「高卒後の具体的な進路について」「将来どんな職業につきたいか」「現在の成績について」と並んだ(図2)。男女別に見ると全体的に女子のスコアが高めで、女子は幅広い話題について話をしていることがわかる。特に「高卒後の具体的な進路」「将来の自分の夢」は男子を大きく上回る。男子は「経済や企業の動き」が女子よりやや高い。

また、進路について親子で話さないという高校生にその理由をたずねると、「めんどくさい」が38%と突出(図3)。2番めは「自分があまり考えていない」という高校生自身の問題だが、次には「話しても何も変わらない」「もともと会話がない」など保護者との関係に問題が感じられる項目が続く。男女別に見ても上位3項目は同じだが、男子は「めんどくさい」が突出して多かった。

図2 進路について保護者とどんな話をしているか (図1「よく話をする」「たまに話をする」「あまり話さない」の回答者/複数回答)

■高校生

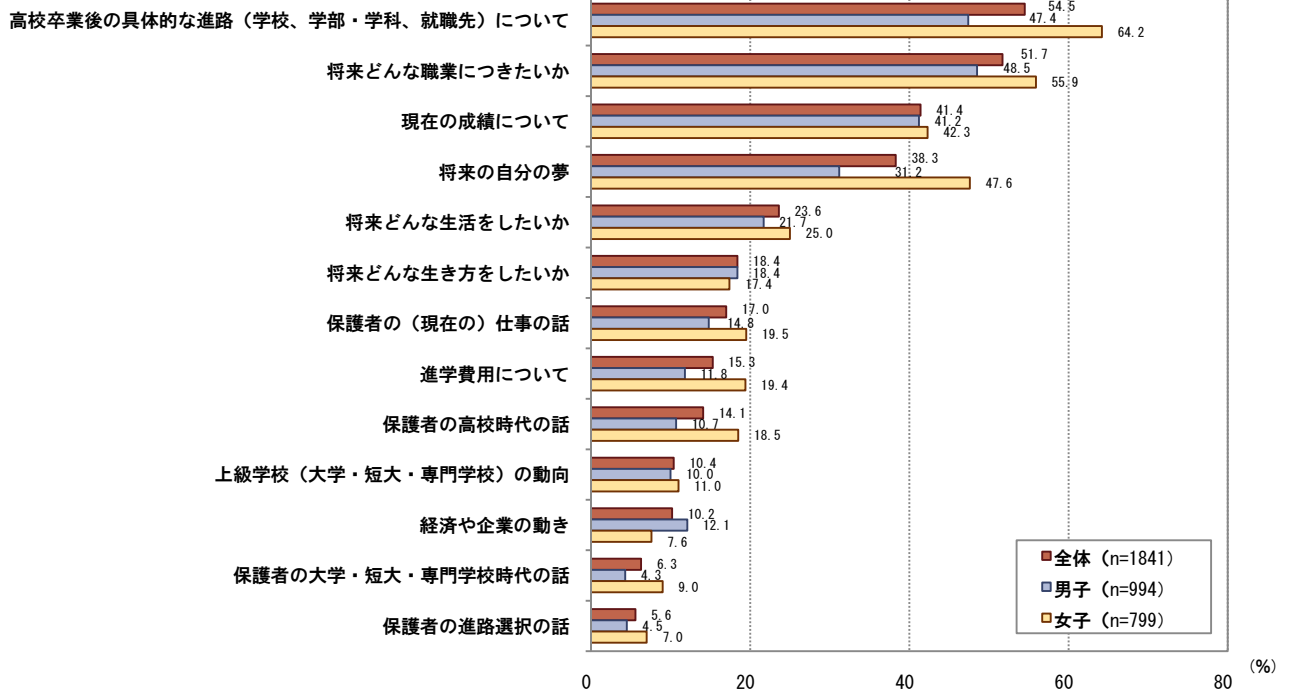
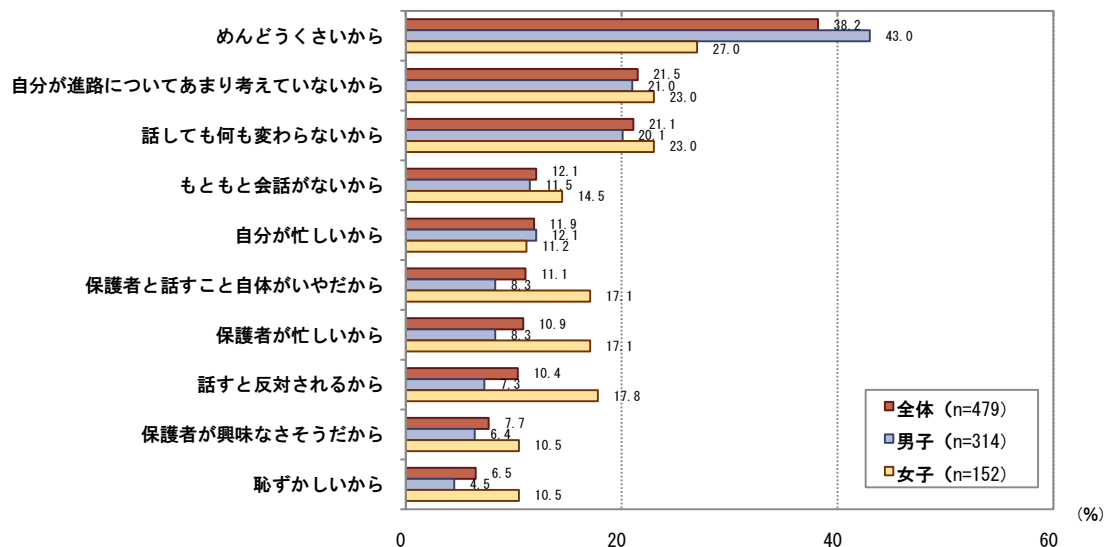


図3 進路について話さないのはなぜか (図1「あまり話さない」「まったく話さない」の回答者/複数回答)

■高校生



3. 保護者がよく使う言葉

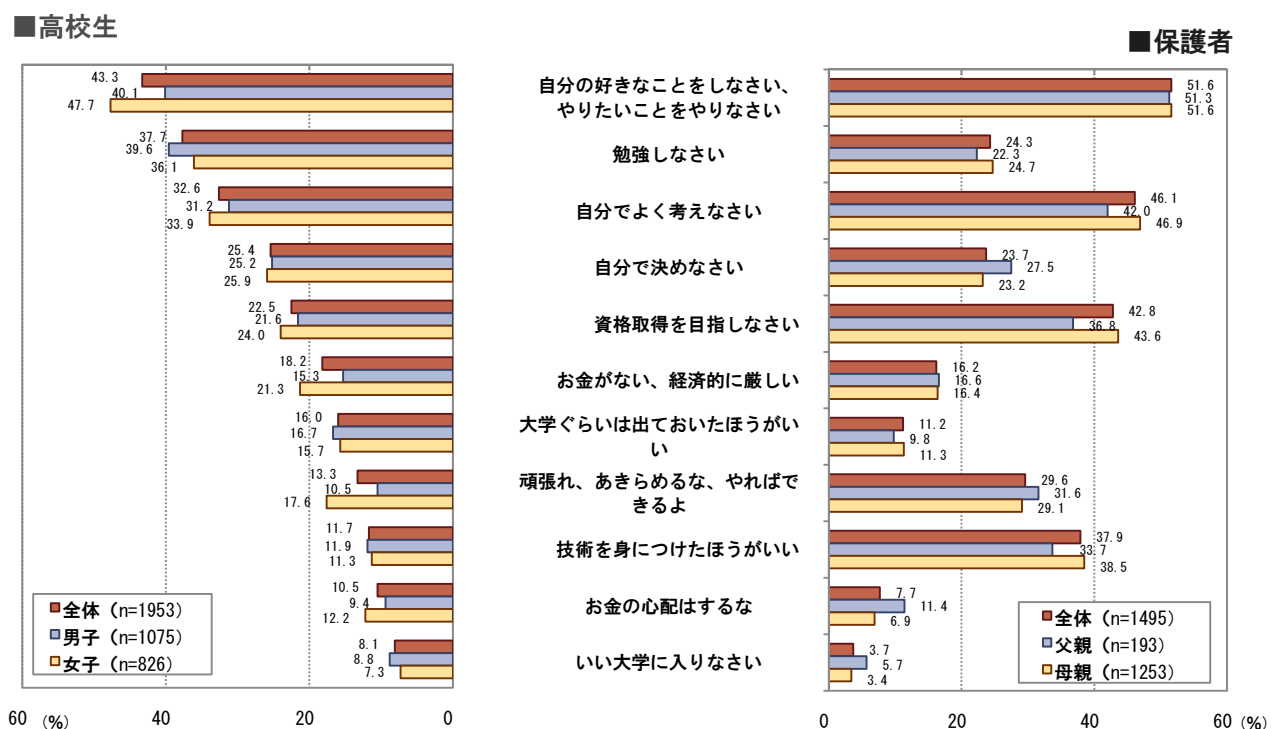
■高校生・保護者とも「自分の好きなことをしなさい」が最多

■「勉強しなさい」は高校生のやる気をそぐ

進路の話をする時に保護者はどんな言葉をよく使うのか、高校生と保護者に当てはまる言葉を選択肢からすべて選んでもらった(図4)。高校生の回答の最多は「自分の好きなことをしなさい」で、次は「勉強しなさい」。保護者の回答も最多は「自分の好きなことをしなさい」だが、「頑張れ、あきらめるな」との励ましや、「資格取得を目指しなさい」「技術を身につけたほうがいい」という助言は高校生の認識以上に言っているという。

また、これらの言葉の感じ方も高校生に聞いた。「好きなことをしなさい」に対して「信用されていると思う」というプラス反応と「やりたいものがないので焦る」などマイナス反応があるように、同じ言葉でも本人の状態やベースとなる親子関係によって印象が変わるようだ。しかし「勉強しなさい」に対しては「やる気が失せる」などマイナス反応ばかり。「目標が決まっていないので頑張れない」「必要な勉強がわからない」など、その一言では動けない状態の高校生もいる。

図4 進路の話をする時に保護者はどんな言葉をよく使うか(複数回答)



>>保護者の言葉をどう感じるか【高校生】

■自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい

- 信用されていると思う(京都・男子、大短)
- 私のことを思ってくれているんだなあと実感し、自分の夢に向かって頑張ろうと思う(鹿児島・女子、大短)
- 自分の一番したいことをしっかり決めて後悔しないような生活を送りたいと思う(山形・女子、専門)
- やりたいものとかがないので少し焦る(北海道・男子、就職)
- 好きなことをしろと言われ、最近進路変更したら反対された(山形・女子、大短)

■勉強しなさい

- うるさい。わかっている(山形・男子、大短)
- 一気にやる気が失せる(石川・女子、大短)
- 勉強しないと自分の行きたいところに行けないのはわかっているけど、部活とかで疲れているときに一番言われては嫌(山形・男子、大短)
- そう言われても、自分がしたいことのために必要な勉強がわからない(愛媛・男子、専門)
- わかっているけど、目標が具体的に決まっていないので頑張れない(埼玉・女子、専門)

■自分でよく考えなさい

- 自立していく必要性を感じる(京都・女子、大短)
- 親にこれせえって言われるより、だいぶいい(三重・女子、専門)
- もう考えていて本当に悩んでいるのに、自分で考えろって突き放されたら、もうどうしていいかわからなくなる(埼玉・女子、大短)

■自分で決めなさい

- 子どもあつかいではなく、自分の意志を尊重してくれるのでうれしい(山形・男子、就職)
- 自分のことを自分で決めずに親の言うとおりにしたら、あとで親のせいにしてしまうと思う(鹿児島・男子、就職)
- 少し見放された感じがする(京都・女子、大短)
- 何をどう自分で決めればいいのかわからない(石川・女子、大短)

■資格取得を目指しなさい

- 頑張らないといけなと思う(北海道・男子、就職)
- 「簡単に言わないでよ」って思うけど、頑張らなくちゃ！とも思います(埼玉・女子、就職)
- 同じことを言われすぎて飽き飽きしてきた(石川・女子、大短)

■お金がない、経済的に厳しい

- 将来がとても小さなものになったように思う(北海道・女子、就職)
- いい大学に入って安定した仕事について親孝行を早くしたいと思う(愛媛・女子、大短)

4. 希望進路・進路の悩みの共有度

■ 高校生の83%、保護者の89%が「保護者は希望進路を知っている」と回答

■ 子どもの悩みや不安を知っている保護者は約7割

高校生の希望進路についてどれぐらいの保護者が知っているか、親子それぞれの認識を聞いた。まず高校生の回答を見ると、保護者が自分の希望進路を「よく知っている」という回答は36%で、「少し知っている」を合わせると83% (図5)。おおむね親子で共有できているととらえている。一方の保護者は、子どもの希望進路を「知っている」が89%で、高校生の認識以上に保護者は知っているつものようだ。

次に、高校生がもつ進路選択の悩みや不安についての保護者との共有状況を見てみる(図6)。高校生の回答は「知っている」が52%、保護者の回答は68%とどちらも半数を超えたが、希望進路ほど共有は進んでいないようだ。

どちらの共有状況も、高校生は男子より女子のほうが、保護者は父親より母親のほうが「知っている」が多い。また、【進路について話す頻度(参考p.4)】別にクロス集計すると、話す人ほど共有状況も良好だった。

図5 高校生の希望進路を保護者は知っているか

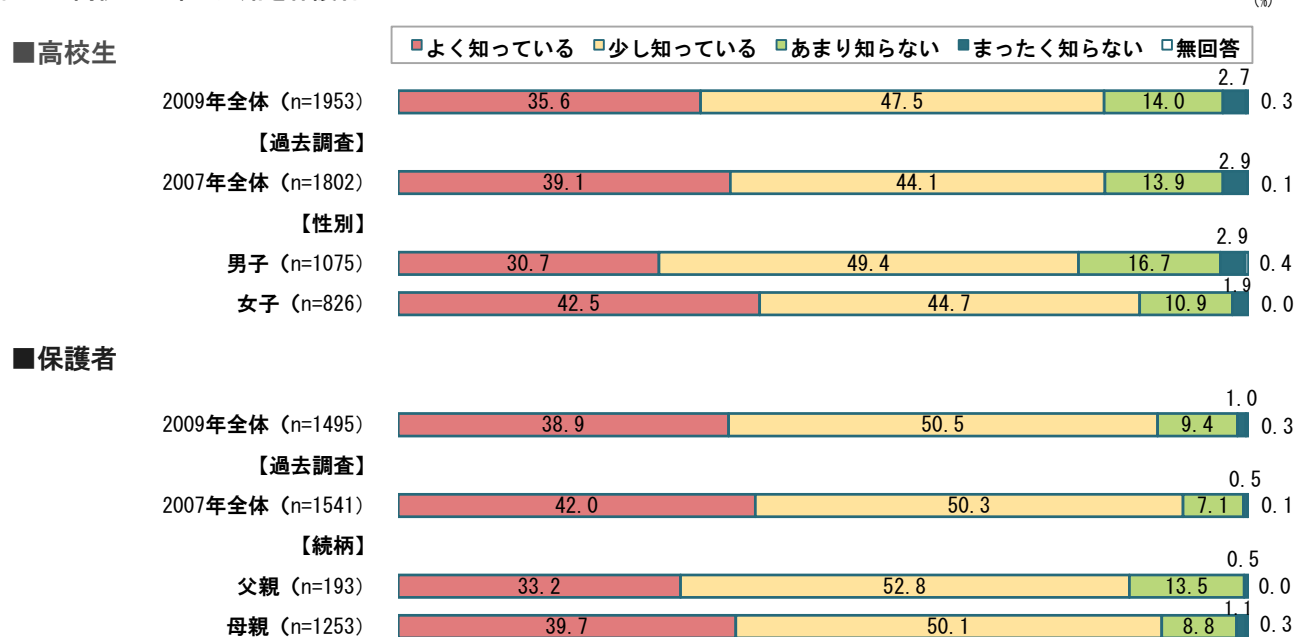
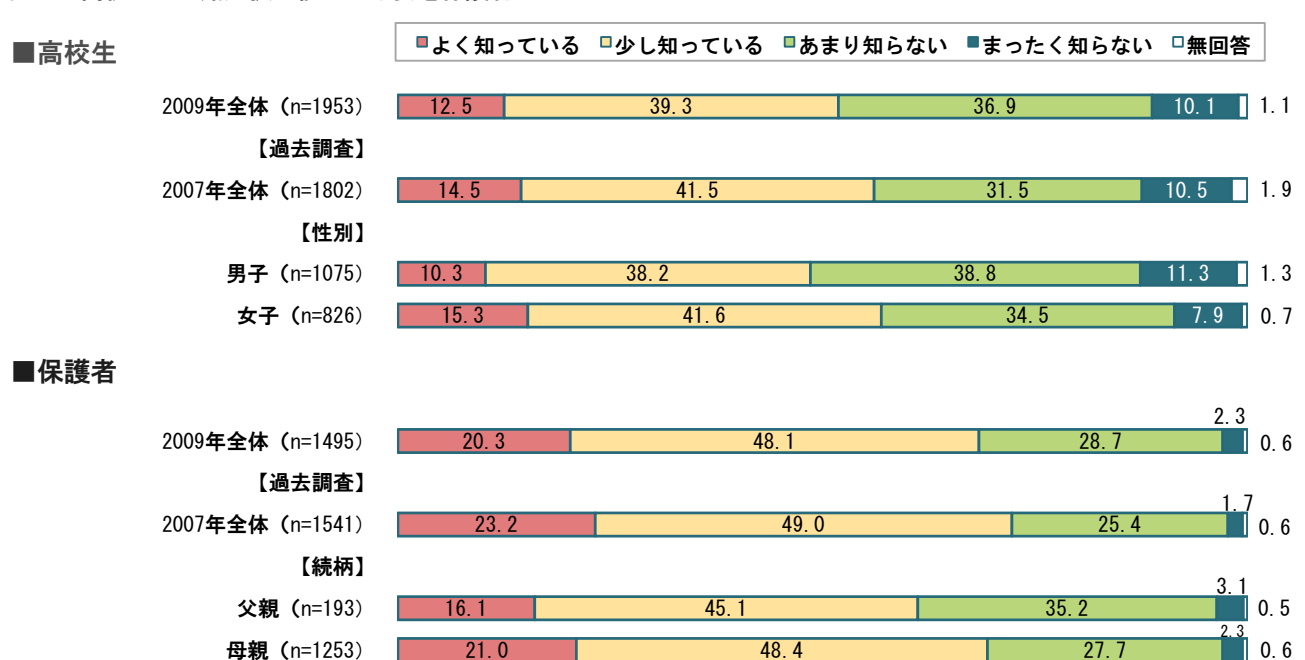


図6 高校生の進路選択の悩みや不安を保護者は知っているか



5. 保護者からのアドバイス

■ 高校生の59%がアドバイスを希望。保護者の76%はアドバイスしている

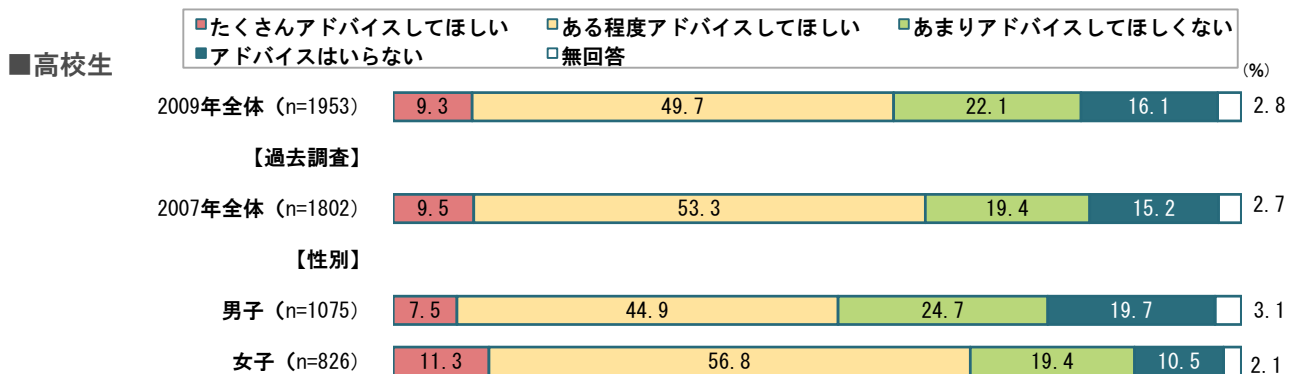
■ 保護者の社会経験、広い視野に期待

進路選択に際して保護者にアドバイスしてほしいかを高校生にたずねたところ、「たくさんしてほしい」「ある程度してほしい」を足した59%がアドバイスを望んでいた(図7)。特に女子にその傾向が強い。

その理由についてのコメントを見ると、保護者の豊富な社会経験や広い視野に対する期待感がうかがえる。しかし、「アドバイスが多すぎると自分で考えることがなくなる」「自分が話したくなった時に聞いてほしい」など、関与の度合いやタイミングなどに注意する必要がある。また、アドバイスしてほしい理由には、「最後は学力について言われるから嫌」「親の事情を押しつけられる」など、アドバイスの仕方の問題がありそうなケースも見受けられた。

また、保護者に対しては、進路に関する子どもの悩みや不安にアドバイスしているかどうかを聞いた(図8)。「よくしている」「少ししている」の合計は76%で、父親より母親のほうがアドバイスしているという。

図7 進路選択について保護者にアドバイスしてほしいか



≫ アドバイスしてほしい内容や理由【高校生】

■たくさんアドバイスしてほしい人

- 一人で考えすぎると不安になってしまうから(三重・男子、大短)
- いろんな意見を聞いたほうが、自分とは違う方向で物事を考えてみるきっかけになるから(鹿児島・女子、就職)
- 社会の厳しさを経験している親からのアドバイスなら役に立つと思うから(三重・男子、就職)
- 経済的な面は、もっと話し合って細かく知っておきたい(愛媛・男子、専門)

■ある程度アドバイスしてほしい人

- 相談相手がなかなかいないので(山形・女子、大短)
- 自分が話したくなった時に、いろいろ聞いてほしいから(石川・女子、大短)
- してほしいとは思いますが、親の言い方による(東京・女子、大短)
- アドバイスが多すぎると、そのとおりに行動してしまい、自分で考えることがなくなってしまうから(山形・女子、大短)
- アドバイスはしてほしいが、情報が古い時がある(石川・男子、大短)
- アドバイスをもらいすぎると失敗などが減って楽になるが、ちょっとした失敗がないと世の中つまらない気がする(山形・男子、就職)

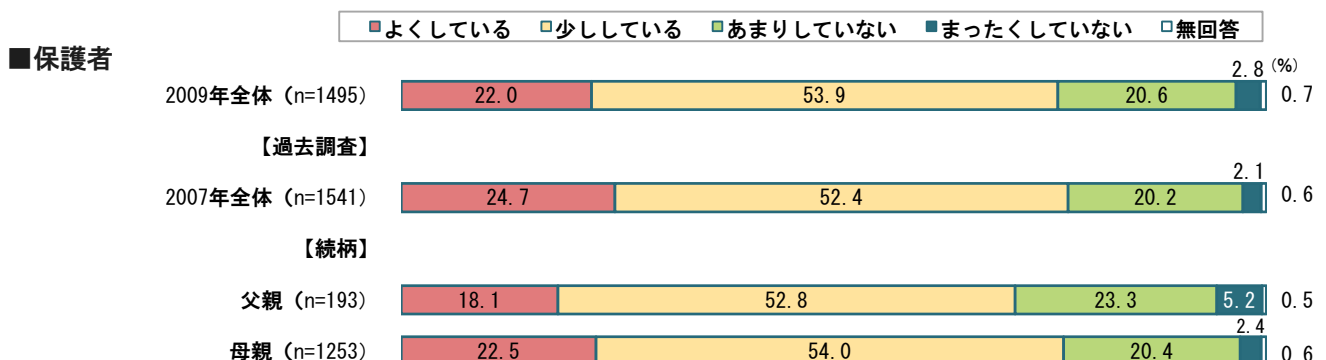
■あまりアドバイスしてほしくない人

- ある程度、自分で決めるまでは、ほっとしてほしいから(愛媛・女子、専門)
- もうだいたい決めたから、何かあるまではブレたくない(京都・男子、大短)
- 期待が重い。しんどい。好きにしたい(愛媛・女子、大短)
- アドバイスに自分が納得することがあまりないから(埼玉・男子、その他)
- 1つ聞くとそれに対する親の批評が入り、5つも6つも答えが返ってくるイメージがある(山形・男子、大短)
- ガミガミ言われて、結局最後は現在の自分の学力について言われるから嫌です(愛媛・女子、専門)

■アドバイスはいらない人

- なるべく自分の見解や実力で物事を解決したり、把握していきたいから(鹿児島・男子、大短)
- いらいらする。自分でやらせてほしい(京都・男子、大短)
- どうせケンカになるから(三重・女子、専門)
- 親の事情をただ押しつけられるだけなら、何も言わないでほしい(三重・女子、大短)

図8 進路に関する高校生の悩みや不安にアドバイスしているか



6. 進路選択における相談相手

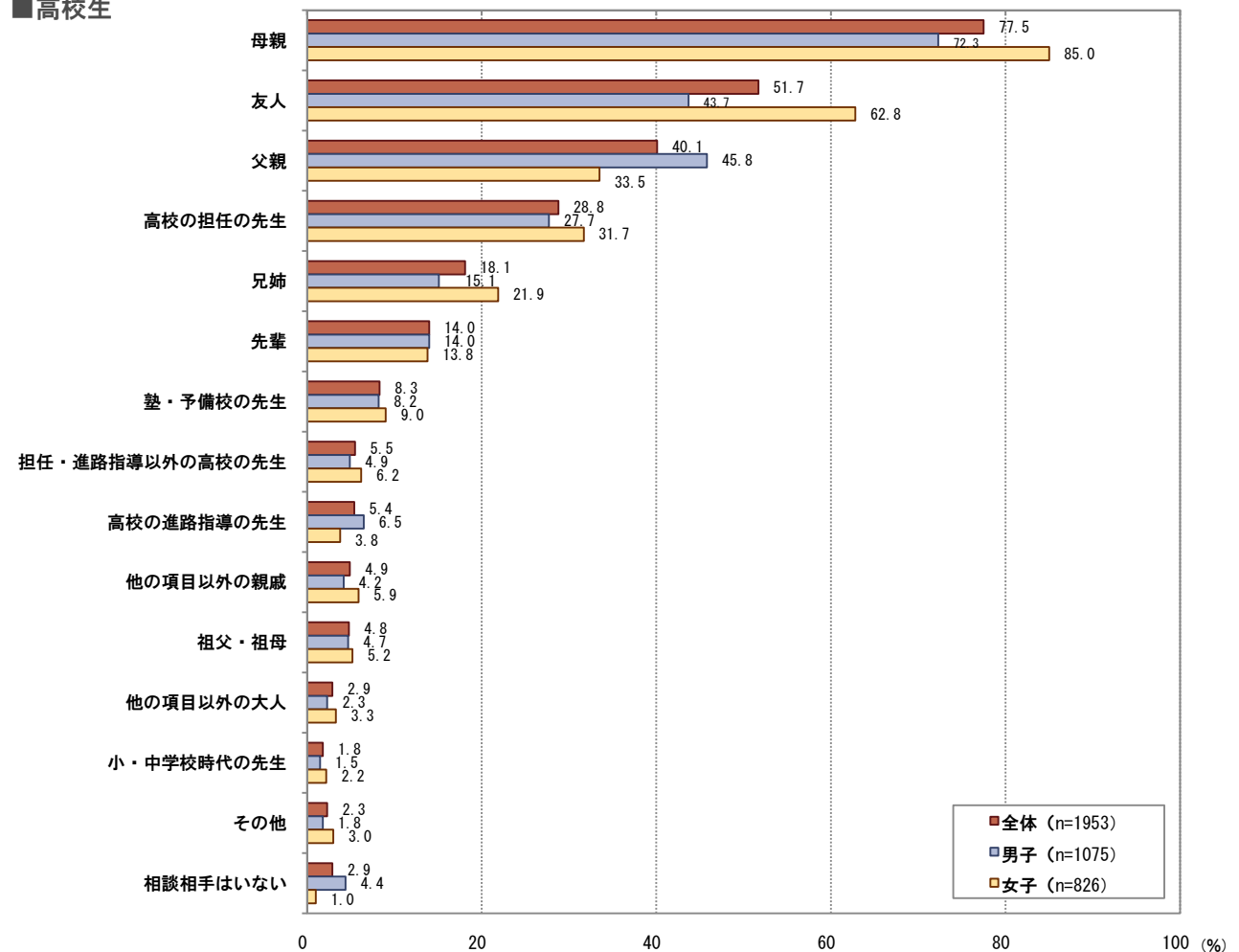
■「母親」が最多で78%、「父親」は40%

■全体では父親や先生よりも友人に相談

進路を考える際に誰と相談しているかを高校生に質問したところ、最も多かったのは「母親」で、それに「友人」「父親」が続いた(図9)。男女とも最多は「母親」だが、男子は「父親」が「友人」を上回って2番めに多い。その理由をたずねると、「母親」に対しては「話をする時間が長い」「自分をわかってくれている」など身近さを言う人が多く、「父親」に対しては「社会のことについて詳しい」「意見をしっかりとってくれる」など知識や経験への信頼が寄せられた。

図9 高校生は進路について誰と相談しているか(複数回答)

■高校生



≫ 一番の相手と、そう思う理由【高校生】

- 母親:いつも一緒にいるし、話をする時間が長い(三重・女子、専門)
- 母親:いつも一緒に生活し、自分を一番わかってくれているから(東京・女子、就職)
- 母親:ずっと一緒に暮らしてきて信頼できるし、社会人の先輩でもあるから(愛媛・男子、就職)
- 母親:いつも相談しているし、自分の悩みも知っていて、いいアドバイスをくれるから(山形・女子、大短)
- 友人:お互いに相談して切磋琢磨していきたいから(愛媛・女子、専門)
- 友人:考えていること全部を一番話しやすいから(京都・男子、大短)
- 父親:一番社会のことについて詳しいと思うから(石川・男子、就職)

- 父親:学費を払ったりするのは父だから。良いアドバイスをくれそう(山形・女子、大短)
- 父親:父親が一番働いているから、意見をしっかりとってくれる。そしてほかの会社のことをよく知っている(京都・女子、就職)
- 担任:ちゃんと自分を見てくれているような気がするから(山形・女子、大短)
- 担任:進路に関しての経験・知識が豊富で、わかりやすくアドバイスしてくださるから(鹿児島・男子、大短)
- いない:進路のことは自分で考えたいから(愛媛・女子、大短)
- いない:相談を今までしてきて解決したことがほとんどなく、言いたいこともうまく言えないから(鹿児島・男子、大短)

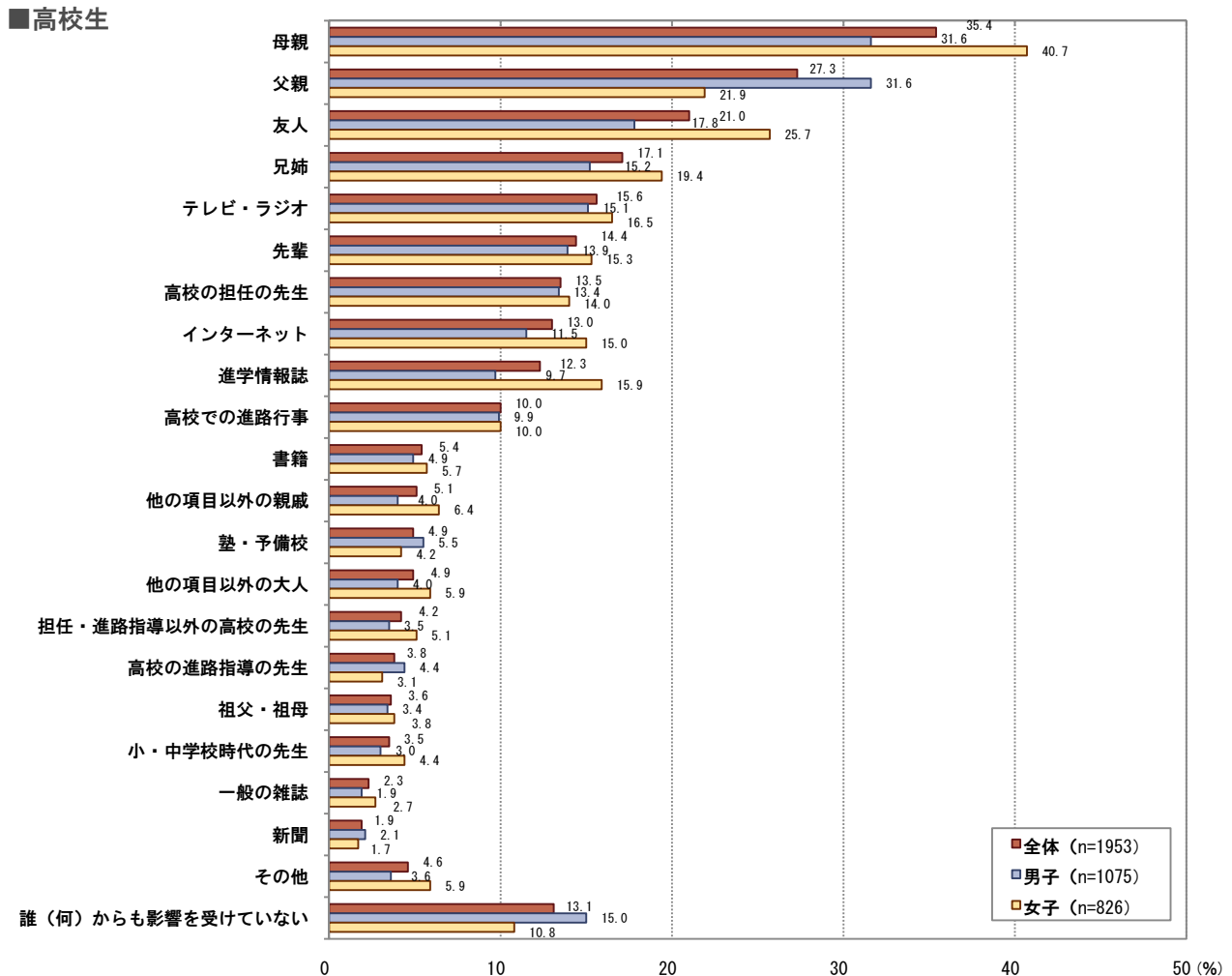
7. 進路選択で影響を受けている人・もの

■ 1位は「母親」35%、2位は「父親」27%

■ 親の働く姿が影響を与えることも

進路を考えるうえで影響を受けている人・ものについての質問でも、やはり「母親」が最多で、それに「父親」「友人」が続く(図10)。ただし男子は「父親」が「母親」と同率トップだ。影響を受ける理由を見ると、「一番相談しているから」という直接的なかかわりのほか、「働いている姿を見て尊敬した」など態度や行動が影響することもあるとわかる。また、父親に「半強制で決められる」といった回答もあった。

図10 高校生は進路について誰(何)から影響を受けているか(複数回答)



≫ 一番影響を受けている人・ものと、そう思う理由【高校生】

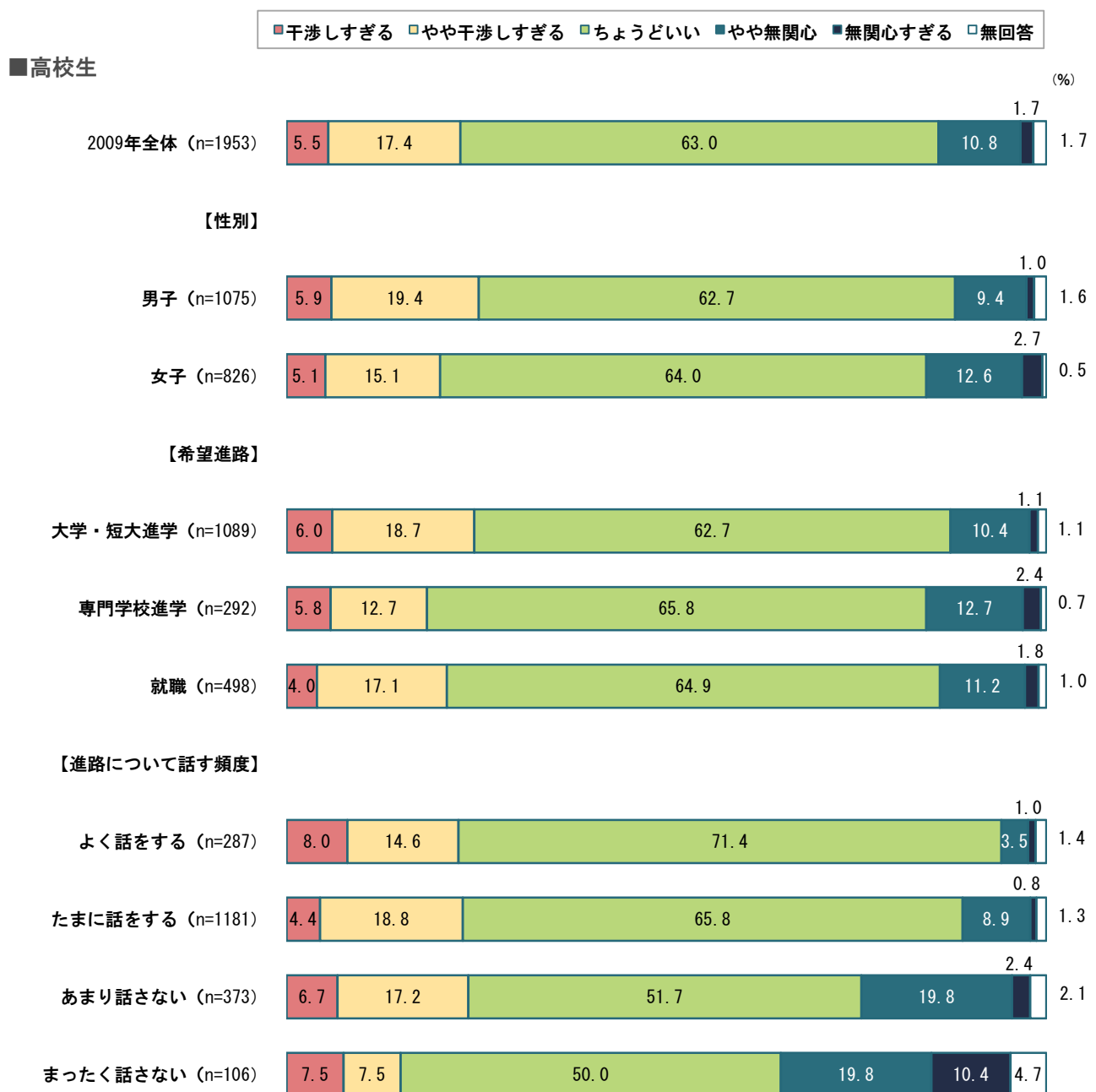
- | | |
|--------------------------------------|---|
| ○母親：一番相談しているから(埼玉・女子、大短) | ○友人：いいライバルだから(三重・女子、大短) |
| ○母親：自分のことをよく考えたうえで教えてくれるから(山形・男子、就職) | ○友人：同じ夢をもっているから(埼玉・男子、専門) |
| ○母親：尊敬しているし、説得力があるから(愛媛・男子、専門) | ○テレビなど：テレビの番組がきっかけで、自分のなりたい職がある程度決まり、その職につくことを目指しているから(鹿児島・男子、大短) |
| ○母親：お金の面とか(北海道・女子、大短) | ○テレビなど：社会の現状を伝えてくれるから、進路について考えさせられる(埼玉・女子、就職) |
| ○母親：地元に残れとうるさいから(三重・男子、就職) | ○担任：いろいろ調べてくれて正しい情報をくれるから(鹿児島・男子、就職) |
| ○父親：自分の職業上での、いろんな話をしてくれるから(山形・女子、大短) | ○担任：先生の発言は心にぐっとくるものがあるから(山形・男子、大短) |
| ○父親：父親の働いている姿を見て、尊敬したから(山形・男子、専門) | ○受けていない：ただ自分のやりたいことをやるだけです(埼玉・女子、専門) |
| ○父親：父親ぐらい仕事に誇りをもちたい(埼玉・男子、専門) | ○受けていない：自分で考え、自分で決めたため(京都・男子、就職) |
| ○父親：ある1つの大学に行けと半強制で決められるから(三重・女子、大短) | |
| ○父親：この人の一言ですべてが決まるから(石川・女子、大短) | |

8. 進路選択に関する保護者の態度の感じ方

- 「ちょうどいい」と感じている高校生が63%
- 「干渉」を感じるのは23%、「無関心」は13%

進路選択に関する保護者の態度を、高校生はどう感じているか質問した(図11)。「干渉しすぎる」「やや干渉しすぎる」の合計は23%、「無関心すぎる」「やや無関心」の合計は13%で、「ちょうどいい」が63%と最も多かった。男女別に見ると「ちょうどいい」の割合はほぼ同じだが、男子は「干渉」が多め、女子は「無関心」が多めだ。【希望進路】別では、大学・短大進学希望者に「干渉」がやや目立つ。また、【進路について話す頻度】別に見ると、話している層ほど「ちょうどいい」が多く、話していない層ほど「無関心」が多くなる傾向が見られた。

図11 進路選択に関する保護者の態度をどう感じているか



9. 進路に関する保護者の行動・態度

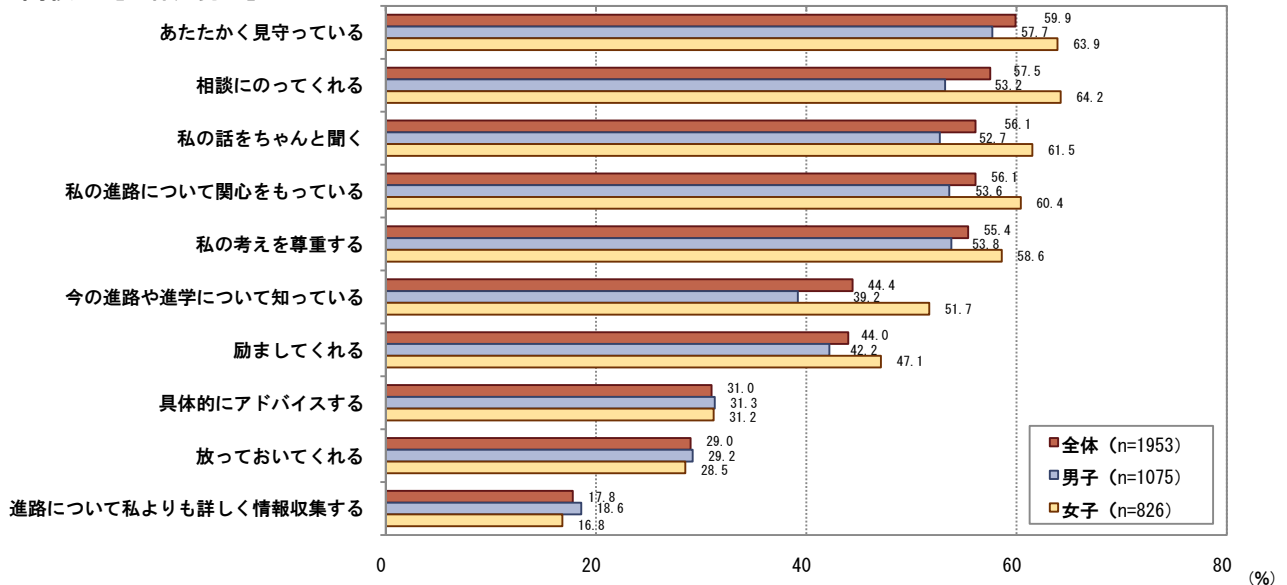
■「あたたかく見守っている」と感じている高校生が60%

■進路について話す人ほど、保護者の行動・態度を肯定

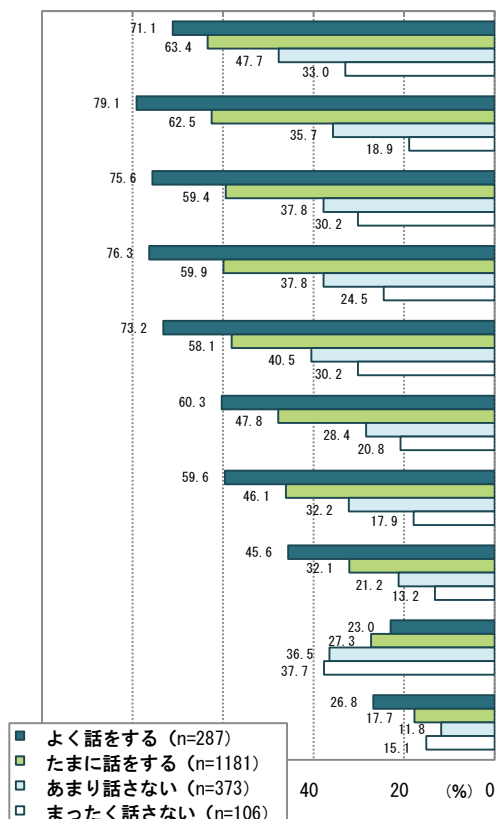
高校生にとって好ましいと思われる保護者の行動や態度の選択肢をあげ、自分の保護者に当てはまるものを高校生に選んでもらったところ、「あたたかく見守っている」「相談にのってくれる」「私の話をちゃんと聞く」「私の進路に関心をもっている」などが上位に並んだ(図12)。**【進路について話す頻度】**別では話をする層ほど、また**【～保護者の態度をどう感じているか(参考p. 11)】**別では「ちょうどいい」と感じている高校生が、多くの項目において数値が高かった。

図12 進路に関して保護者はどのような行動・態度をしているか(複数回答)

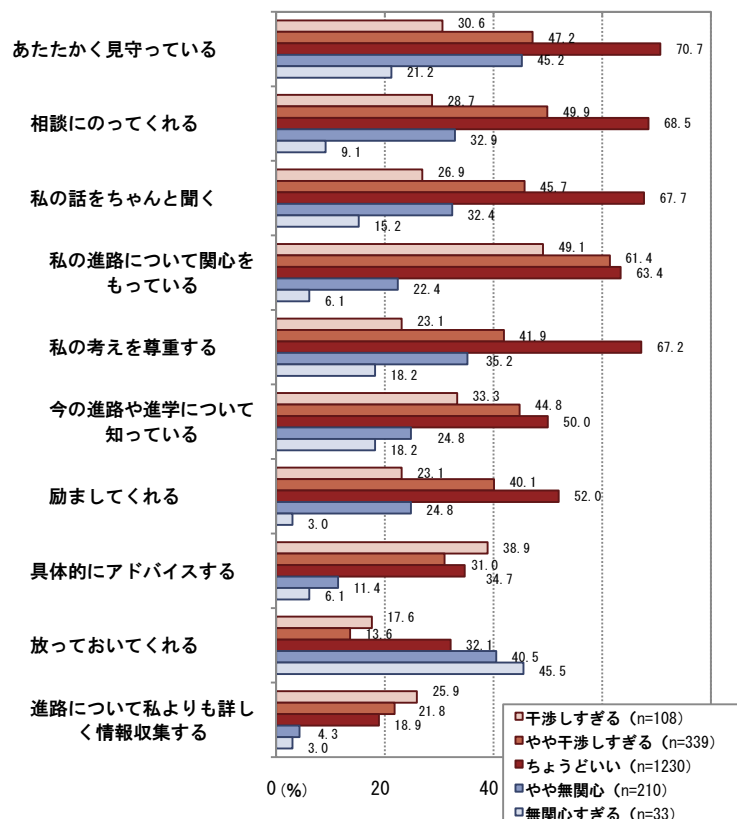
■高校生【全体／男女】



【進路について話す頻度】



【進路選択に関する保護者の態度をどう感じているか】



10. 保護者にしてほしい行動・態度

■最も望むのは「私の考えを尊重」で34%が回答

■保護者に干渉を感じている層は「私の考えを尊重」「放っておく」を希望、

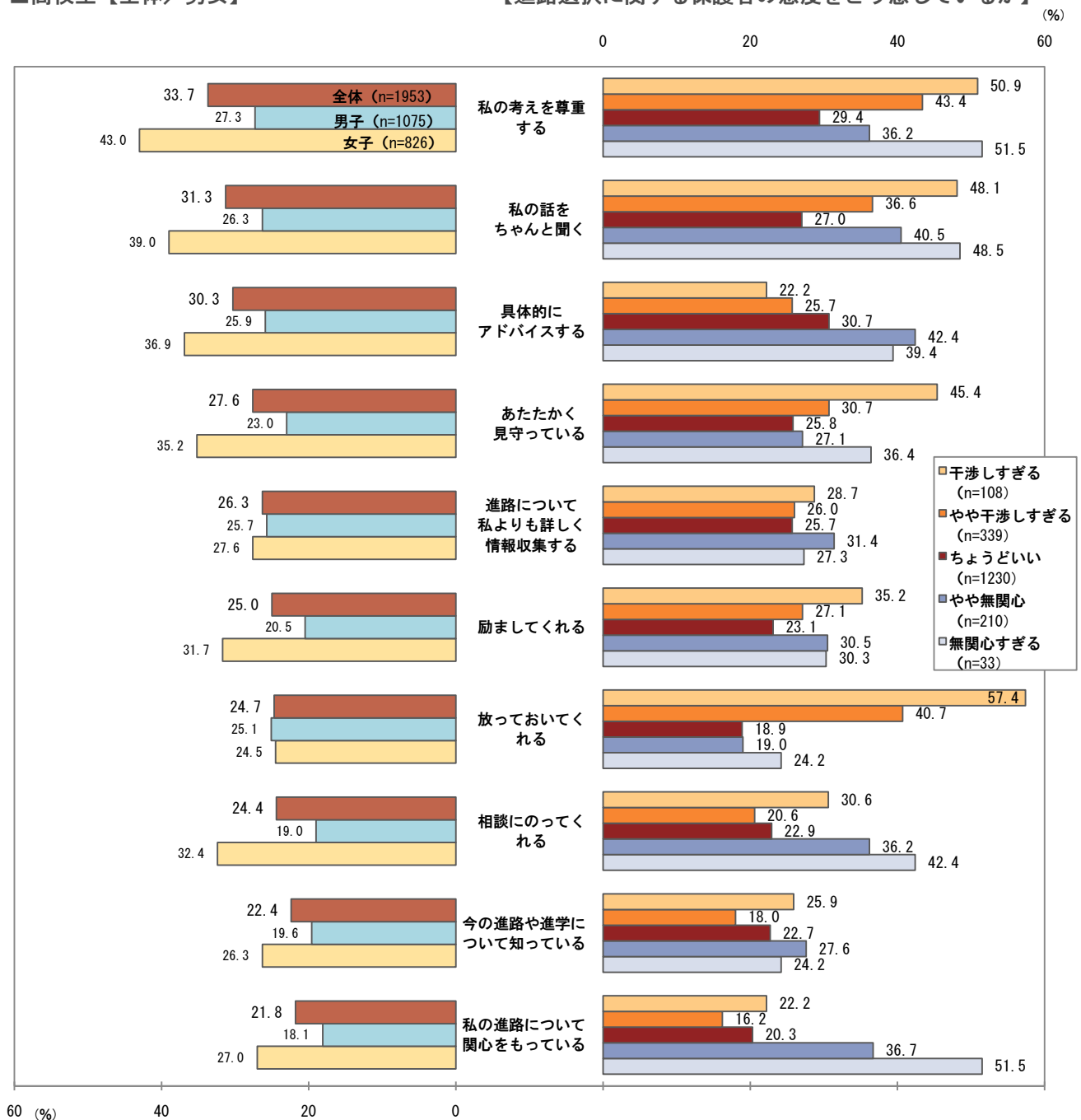
無関心を感じている層は「私の話をちゃんと聞く」「具体的にアドバイスする」「私の進路に関心をもつ」を希望

図12と同じ選択肢を使って、保護者に望む行動・態度についても高校生に聞いた(図13)。最も多かったのは「私の考えを尊重する」で、次に「私の話をちゃんと聞く」「具体的にアドバイスする」が続く。【～保護者の態度をどう感じているか】別に見ると、「干渉」を感じている高校生は「私の考えを尊重」「放っておく」が高く、「無関心」を感じている高校生は「私の話をちゃんと聞く」「具体的にアドバイスする」「私の進路に関心をもつ」などの高さが目立つ。

図13 進路に関して保護者にどのような行動・態度をしてほしいか(複数回答)

■高校生【全体／男女】

【進路選択に関する保護者の態度をどう感じているか】



11. 保護者にやめてほしい行動・態度

■ やめてほしいのは過度な期待と勉強の話

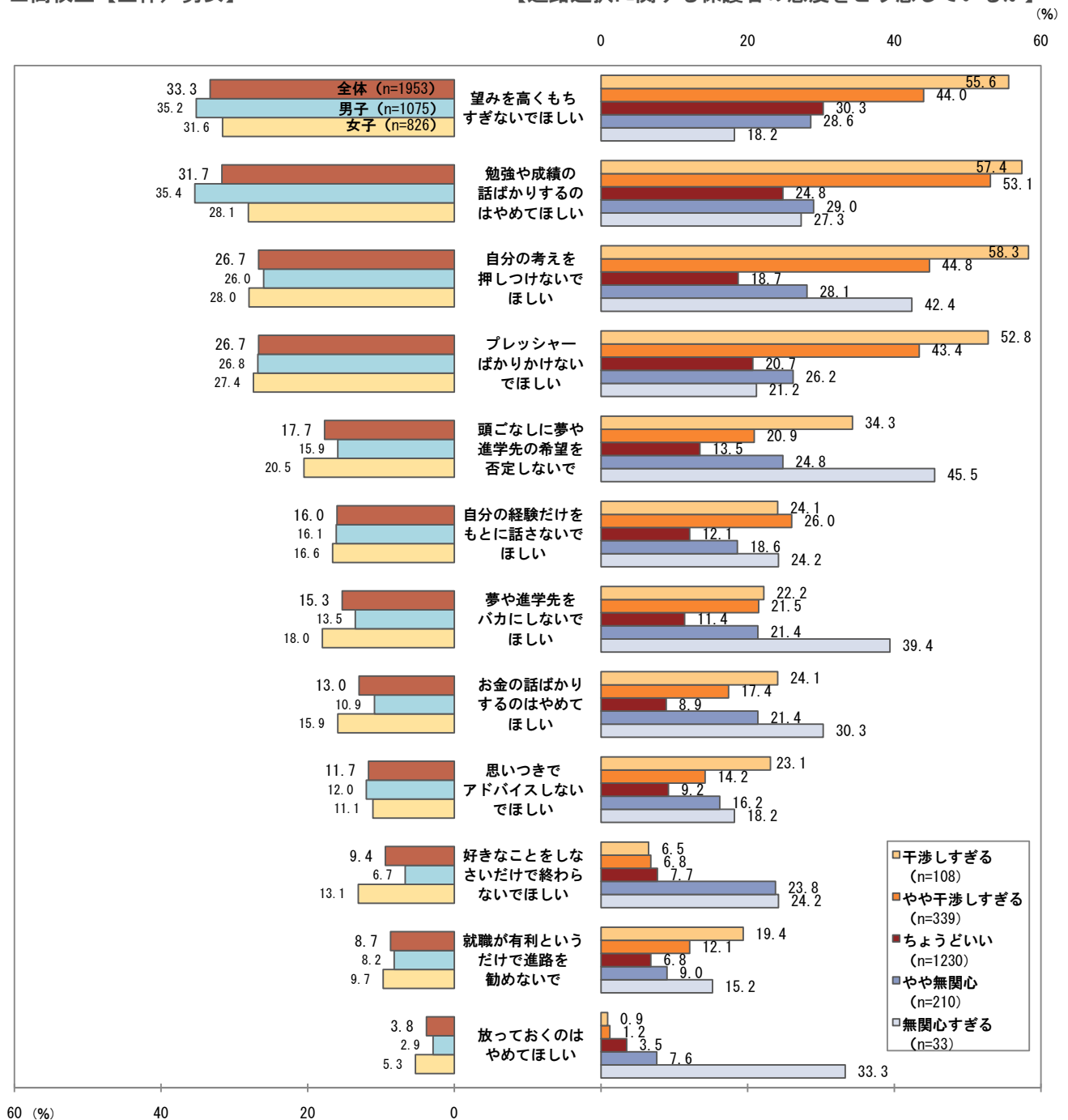
■ 保護者に干渉や無関心を感じている層は、やめてほしいことが多数

高校生が進路を考えるうえで保護者にやめてほしいことについては、「望みを高くもちすぎないで」「勉強や成績の話ばかりするのはやめて」「自分の考えを押しつけないで」などの回答が多かった(図14)。**【～保護者の態度をどう感じているか】**別に見ると、「干渉」「無関心」を感じている高校生は「ちょうどいい」と感じている高校生に比べて多くの項目の数値が高く、やめてほしいと思うことがたくさんあるようだ。

図14 進路を考えるうえで保護者にどのようなことをやめてほしいか(複数回答)

■ 高校生【全体／男女】

【進路選択に関する保護者の態度をどう感じているか】



Ⅱ. 進学に関する考え

12. 進学についての価値観

■「自分のやりたいことができる学校に進学したい」という高校生は95%

■「知名度」よりも「やりたいこと」「個性や能力」を重視

進学を希望する高校生に、進学に関する下記の14の考え方についてそれぞれどう思うかを聞いた(図15)。「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計が多い順に見ると、「自分のやりたいことができる学校に進学したい」95%、「自分の個性や能力を生かせる学校に進学したい」91%、「社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学したい」81%と並ぶ。

子どもの進学を希望する保護者に対して、17項目について同様に質問すると、「個性や能力を生かせる学校に進学してほしい」「やりたいことができる学校に進学してほしい」と思う人はそれぞれ9割を超えた(図16)。高校生、保護者ともに「やりたいこと」や「個性や能力」を重視しているようだ。

図15 高校生は進学に関してどんな価値観をもっているか

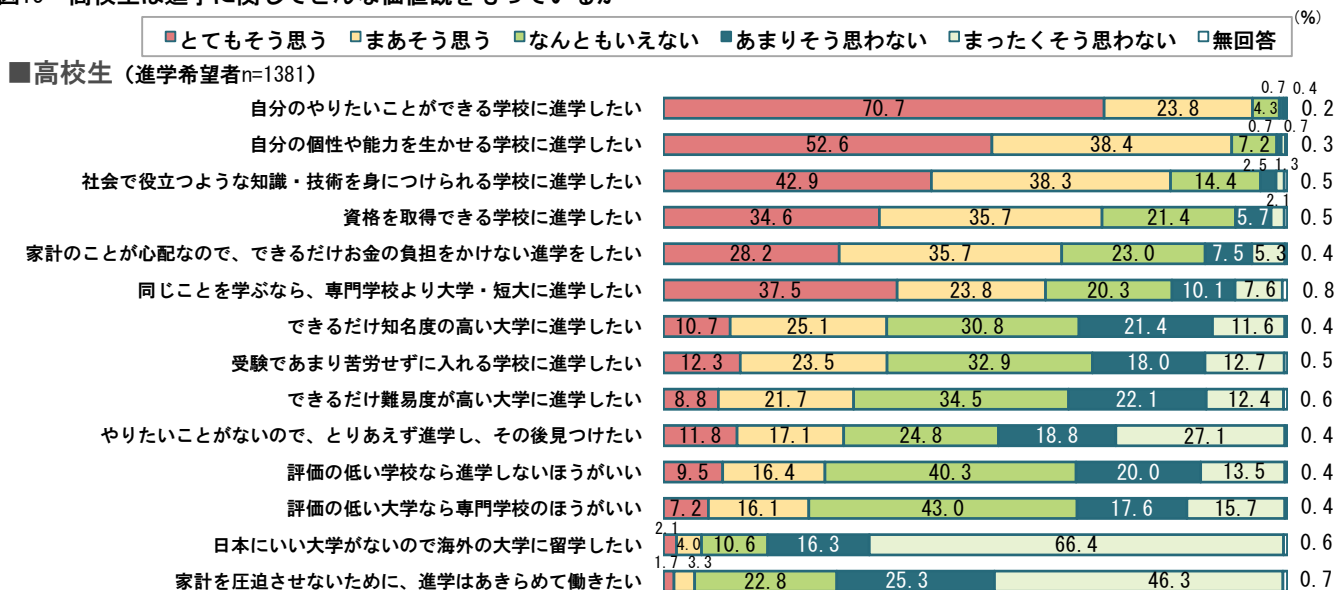
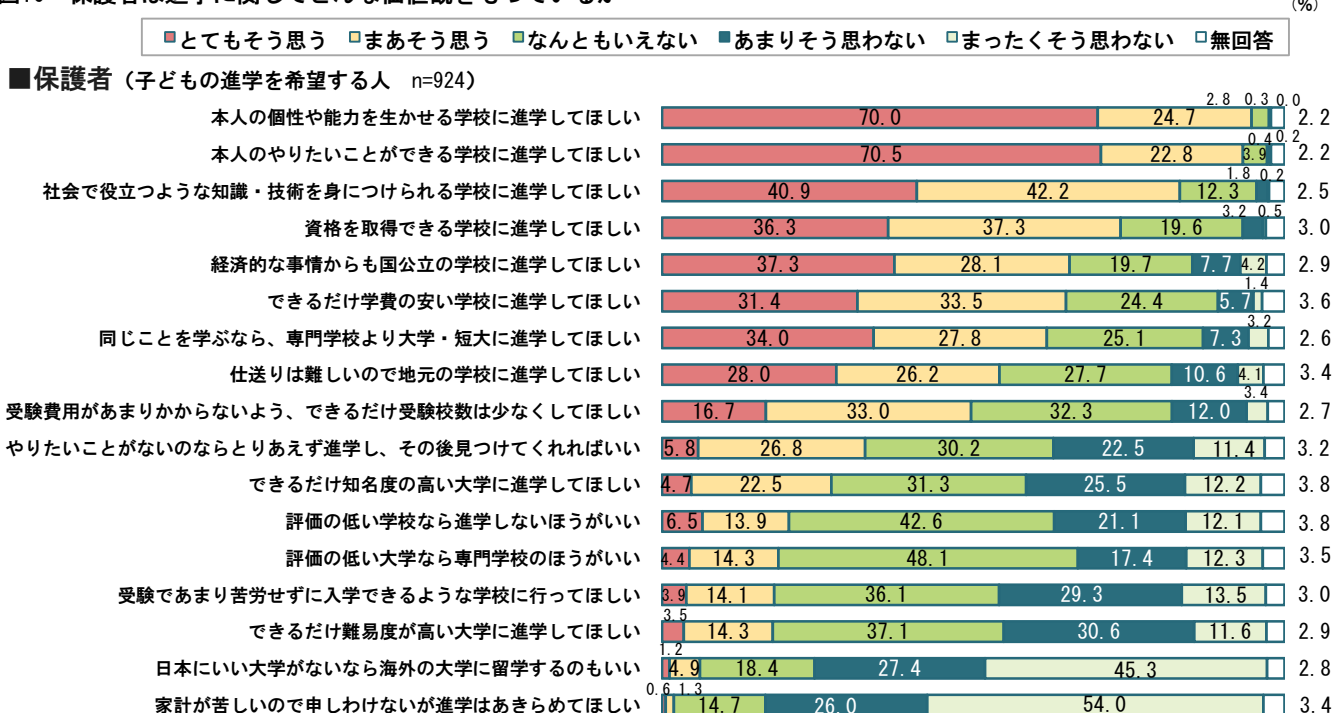


図16 保護者は進学に関してどんな価値観をもっているか



Ⅲ. 働くことに関する考え

13. 高校生が付きたい職業

■「モノづくり」「公務員」「教師」が人気

■男子は「モノづくり」、女子は「看護師」が付きたい職業のトップ

高校生に将来付きたい職業があるか質問すると、65%が「ある」と回答(図17)。その具体的な職業で多かったのは、「製造・加工・組立などのモノづくり」「公務員」「教師」など(図18)。男子には「モノづくり」「公務員」「整備士」、女子には「看護師」「保育士・幼稚園教諭」「教師」が人気だ。

図17 高校生には将来付きたい職業があるか

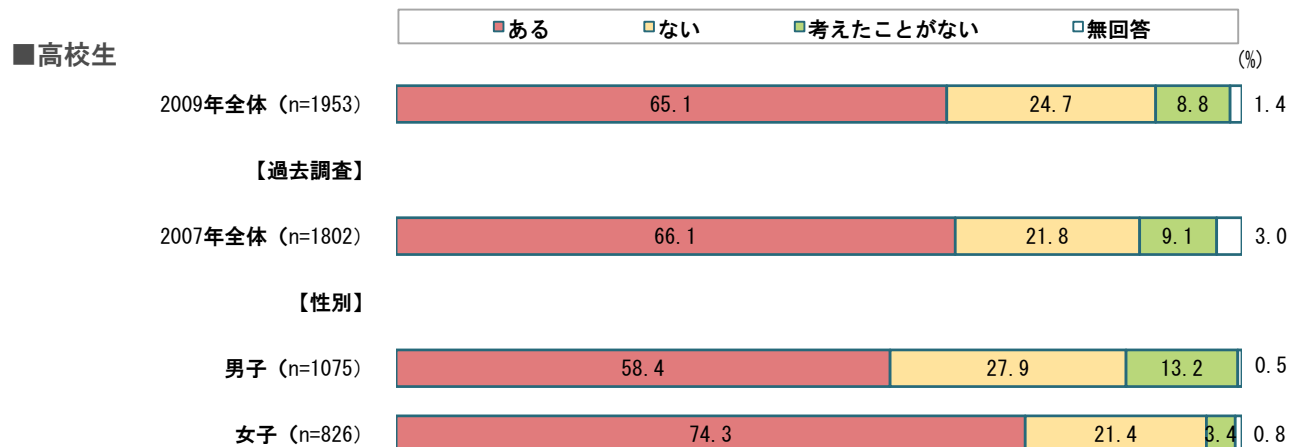


図18 高校生はどんな職業につきたいか (付きたい職業がある人)

【高校生】

全体 (n=1271)			%	男子 (n=628)			%	女子 (n=614)			%
1	(4)	製造・加工・組立などのモノづくり	8.2	1	(1)	製造・加工・組立などのモノづくり	15.3	1	(1)	看護師	10.1
2	(1)	公務員（国家・地方）	7.9	2	(2)	公務員（国家・地方）	11.8	2	(2)	保育士・幼稚園教諭	9.3
3	(3)	教師	7.2	3	(6)	整備士	6.2	3	(3)	教師	8.6
4	(2)	看護師	5.8	4	(4)	教師	5.9	4	(11)	フライトアテンダント・グランドスタッフ	4.7
5	(5)	保育士・幼稚園教諭	5.0	5	(3)	技術者・研究者	5.6	5	(6)	公務員（国家・地方）	4.2
6	(17)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	3.9	6	(9)	ゲーム関係	4.8	6	(5)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	4.1
7	(7)	技術者・研究者	3.7	7	(12)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	4.6	7	(22)	管理栄養士・栄養士	3.7
8	(6)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	3.6	8	(14)	建築設計士	4.1	8	(13)	トリマー・動物関連	3.4
9	(12)	整備士	3.1	9	(8)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	3.3		(18)	美容師・理容師	3.4
10	(17)	ゲーム関係	2.9	10	(5)	薬剤師	1.9	10	(4)	事務	2.9
11	(14)	美容師・理容師	2.6		(29)	理学療法士・作業療法士	1.9		(24)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.9
12	(21)	フライトアテンダント・グランドスタッフ	2.4								
13	(24)	理学療法士・作業療法士	2.3								
14	(30)	建築設計士	2.2								
15	(8)	薬剤師	2.1								
16	(13)	トリマー・動物関連	2.0								
	(31)	管理栄養士・栄養士	2.0								
18	(10)	事務	1.9								
19	(9)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	1.8								
20	(14)	販売（ショップの店員など）	1.7								
	(24)	グラフィックデザイナー・CGデザイナー	1.7								

※（ ）内は2007年順位、今回は「俳優～」の項目に「声優」を含む

≫ その職業につきたい理由【高校生】

○モノづくり：デスクワークは苦手で、体を動かしながら物を作りたいから（鹿児島・男子、就職）

○モノづくり：学んだことを生かして何かしたいと思うから（石川・男子、大短）

○公務員：安定しているから（石川・女子、就職）

○公務員：不況に左右される職でないから（三重・男子、大短）

○公務員：世界も日本もなにか知られるような仕事をしたい（山形・男子、大短）

※ () 内は2007年順位、今回は「俳優～」の項目に「声優」を含む

≫ その職業につきたい理由【高校生】

- モノづくり：デスクワークは苦手、体を動かしながら物を作りたいから (鹿児島・男子、就職)
- モノづくり：学んだことを生かして何かしたいと思うから (石川・男子、大短)
- 公務員：安定しているから (石川・女子、就職)
- 公務員：不況に左右される職でないから (三重・男子、大短)
- 公務員：世界と日本をつなげられるような仕事をしたい (山形・男子、大短)
- 教師：子どもたちと一緒に成長できるので、すばらしいと思った (三重・男子、大短)
- 教師：中学のときの担任にあこがれて (鹿児島・女子、大短)
- 看護師：人の役に立ちたい (東京・女子、大短)

14. 高校生が目指す人

■「目指している人やあこがれている人がいる」という高校生は28%

■目指している人物が「父親」は18%、「母親」は10%

高校生に目指す人・あこがれる人の有無を聞いたところ、28%が「いる」と回答(図19)。その対象を大きく3つから選んでもらったところ、目指す人がいる人の18%が「父親」、10%が「母親」、21%が「有名人」をあげた(図20)。男子では「父親」が28%、女子では「母親」が16%と比較的多い。

図19 目指している人やあこがれている人はいるか

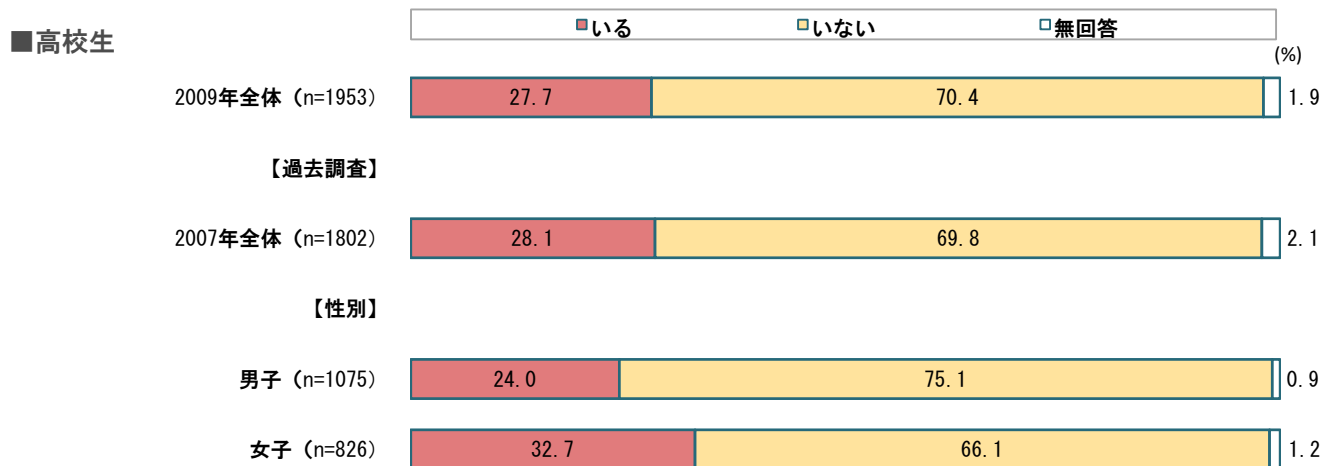
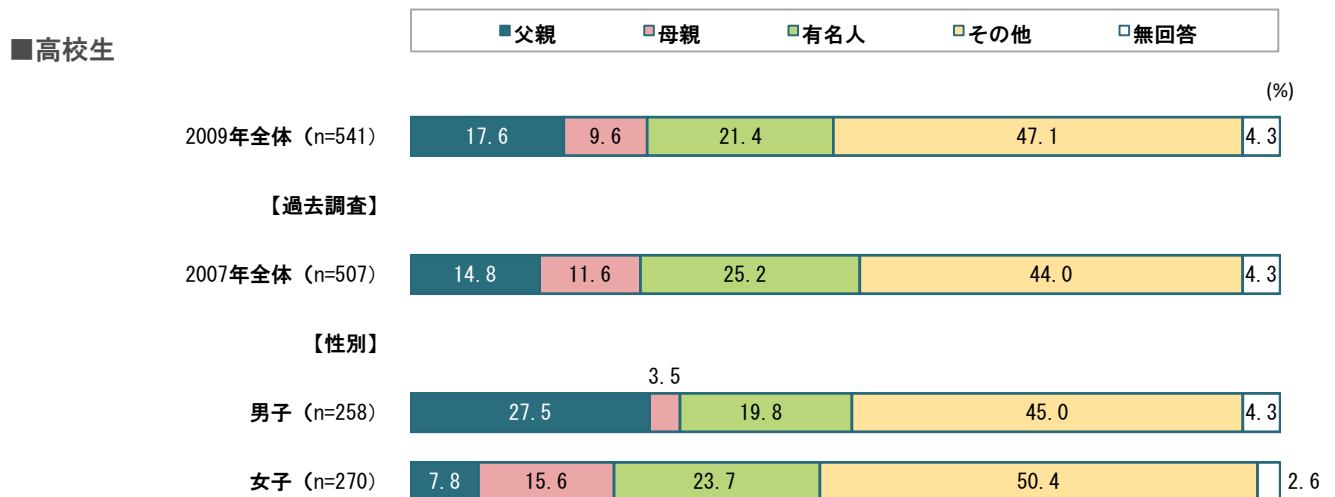


図20 目指している人やあこがれている人は誰か (目指している人やあこがれている人がいる人)



※「有名人」の内容…「本田宗一郎」「義家弘介」「イチロー」、その他スポーツ選手、作家、俳優など
 ※「その他」の内容…「兄」「姉」「担任の先生」「先輩」、その他目指す職業の人など

≫ その人を目指す理由【高校生】

■父親

- 仕事をしている姿がかっこいい (石川・男子、大短)
- 家を支えているから (石川・男子、専門)
- 自分の意見をしっかりもっているから (愛媛・男子、大短)
- 何でも知っていて、何より本人が幸せそうだから (鹿児島・女子、大短)

■母親

- 強いから (三重・男子、就職)
- 一番身近な存在であり、尊敬できるから (鹿児島・女子、大短)
- 自分の好きな仕事につき、毎日充実しているし、楽しくしているから (埼玉・女子、就職)
- 何ごととも頑張るから (山形・女子、大短)

15. 保護者がついてほしい職業

■子どもについてほしい職業がある保護者は18%。子どもが希望する職業なら何でもよいは73%

■「公務員」が前回に続き、子どもについてほしい職業No.1

保護者に対して子どもについてほしい職業があるかを問うと、「ある」は18%で、「子どもが希望する職業なら何でもよい」が73% (図21)。ついてほしい職業の最多は「公務員」で、それに「看護師」「教師」「薬剤師」など国家資格が必要な職業が続いた (図22)。

図21 保護者は子どもについてほしい職業があるか

(%)

■保護者

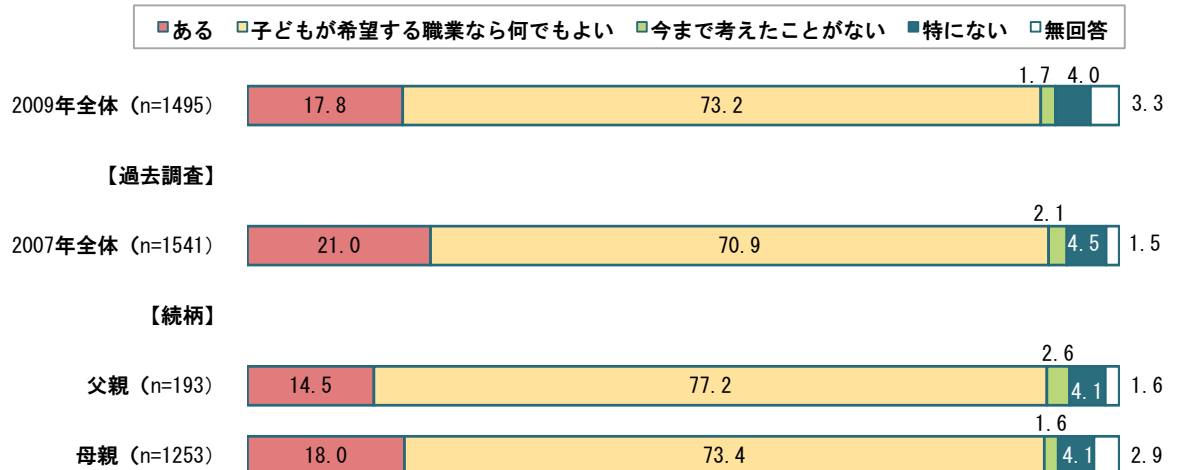


図22 保護者は子どもにどんな職業についてほしいか (ついてほしい職業がある人)

■保護者

全体(n=266)			男子についてほしい職業 (n=130)			女子についてほしい職業 (n=126)		
		%			%			%
1	(1)	公務員 (国家・地方)	35.0	1	(1)	公務員 (国家・地方)	51.5	19.8
2	(2)	看護師	10.9	2	(5)	教師	6.2	17.5
3	(4)	教師	9.0	3	(5)	製造・加工・組立などのモノづくり	4.6	12.7
4	(3)	薬剤師	4.5	4	(2)	技術者・研究者	3.8	5.6
5	(-)	理学療法士・作業療法士	3.0	7	(7)	薬剤師	3.8	4.8
	(9)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.0	6	(2)	会社員	3.1	4.0
7	(12)	弁護士・法律関連	2.6	9	(9)	看護師	3.1	3.2
	(5)	技術者・研究者	2.6		(-)	理学療法士・作業療法士	3.1	3.2
	(11)	製造・加工・組立などのモノづくり	2.6	10	(8)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	2.3	3.2
	(7)	保育士・幼稚園教諭	2.6		(9)	弁護士・法律関連	1.5	3.2
					(18)	会計士・税理士	1.5	3.2
					(4)	医師・歯科医師・獣医	1.5	
					(12)	建築設計士	1.5	
					(9)	整備士	1.5	

※ () 内は2007年順位、(-) は前回項目なし

≫ その職業についてほしい理由【保護者】

○公務員：安定。国がつぶれないかぎり公務員は安定している (三重・母親、男子)
 ○公務員：収入が安定している。休みがしっかりしている (三重・母親、男子)
 ○公務員：結婚後も無理なく仕事が続けられそうだから (石川・母親、女子)
 ○看護師：自立できる。必ず就職できる (埼玉・母親、女子)
 ○看護師：大変な仕事だが、家庭に入っても役に立ち、再就職もしやすい (石川・母親、女子)

○教師：子どもが小学生のときからの夢なので (埼玉・母親、男子)
 ○教師：相手のことを考え、人に教えることが好きだと思うから (愛媛・母親、女子)
 ○薬剤師：資格があり、就職に有利。収入もよい (愛媛・母親、男子)
 ○理学療法士・作業療法士：超高齢化社会に向けてますます必要とされる職業だと思う (石川・母親、女子)

16. 高校生がつきたくない職業とフリーター

■つきたくない職業のトップは「フリーター」

■なりたくないが避けられないかもしれない

将来つきたくない職業について高校生に質問すると、前回同様に「フリーター」が突出して多く、4人に1人があげた(図23)。つきたい職業3位の「教師」は、ここでも3番めに多い結果となった。

また、多くの高校生がなりたくないというフリーターに対する具体的な考えを、高校生と保護者それぞれに聞いた(図24)。高校生の回答で最多は「フリーターでは家族を養っていけない」だ。2005年調査と比べると、「就職が厳しい時代なのでフリーターになるのも仕方ない」との回答が23%→32%と増加、「自分はフリーターにはならないと思う」が37%→19%と激減した。

保護者の回答もやはり最多は「フリーターでは家族を養っていけない」で、次に多い「就職が厳しい時代なのでフリーターになるのも仕方ない」は高校生の数値を上回る41%。雇用環境が悪化するなか、高校生、保護者ともフリーターは避けられないという見方が拡大しているようだ。

図23 高校生はどんな職業につきたくないか

■高校生

全体 (n=1953)			%	男子 (n=1075)			%	女子 (n=826)			%
1	(1)	フリーター	24.0	1	(1)	フリーター	26.7	1	(1)	フリーター	21.3
2	(3)	政治家	5.7	2	(3)	政治家	4.7	2	(2)	政治家	7.0
3	(2)	教師	3.7	3	(2)	教師	3.8	3	(3)	教師	3.6
4	(4)	医師・歯科医師・獣医	2.6	4	(4)	主婦・主夫	2.8		(-)	農業	3.6
5	(-)	農業	2.4	5	(5)	医師・歯科医師・獣医	2.0	5	(4)	医師・歯科医師・獣医	3.4
	(4)	主婦・主夫	2.4		(7)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.0	6	(6)	弁護士・法律関連	2.3
7	(8)	弁護士・法律関連	2.0	7	(16)	弁護士・法律関連	1.9	7	(7)	看護師	2.2
8	(6)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	1.8	8	(12)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	1.7	8	(5)	主婦・主夫	1.9
9	(6)	通訳・翻訳	1.4	9	(-)	NPO・ボランティア	1.4	9	(8)	通訳・翻訳	1.7
	(10)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	1.4		(-)	農業	1.4		(8)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	1.7

※()内は2007年順位、(-)は前回項目なし、今回は「俳優～」の項目に「声優」を含む

≫ その職業につきたくない理由【高校生】

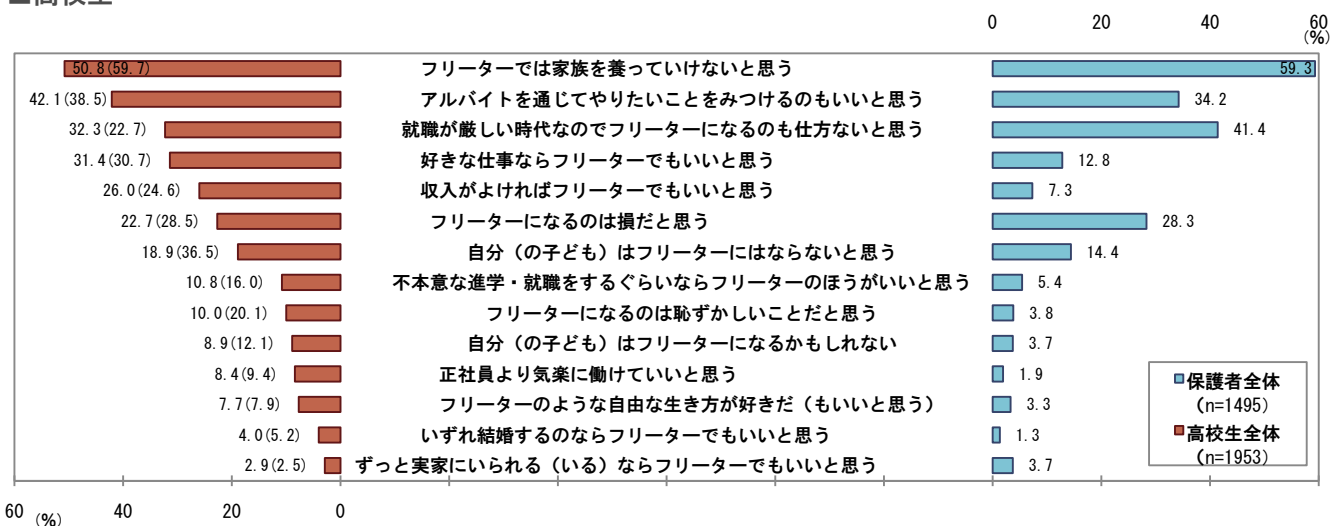
- フリーター:いつクビになるかわからないから(京都・男子、大短)
- フリーター:いろいろと損なところがあるから(石川・男子、就職)
- 政治家:いろいろと悪いところばかり指摘されるから(鹿児島・男子、専門)
- 政治家:社会を背負っていく自信がないから(山形・女子、大短)
- 教師:勉強しないといけないから(鹿児島・男子、専門)

- 教師:とにかく一緒に授業をしているだけでもストレスがたまるのが伝わってくる(鹿児島・男子、大短)
- 教師:人前で話すのが苦手だから(山形・女子、専門)
- 医師など:医療ミスが怖い(北海道・女子、大短)
- 医師など:人の命を預かることに自信がない(山形・男子、専門)
- 農業:しんどいだけでやりがいはなく、給与も安いと思うから(愛媛・男子、大短)

図24 フリーターについてどう思うか(複数回答)※高校生の()内の数字は2005年調査の結果

■高校生

■保護者



17. ニートに関する考え

■「なる人がいても不思議ではない」と高校生・保護者とも約4割が回答

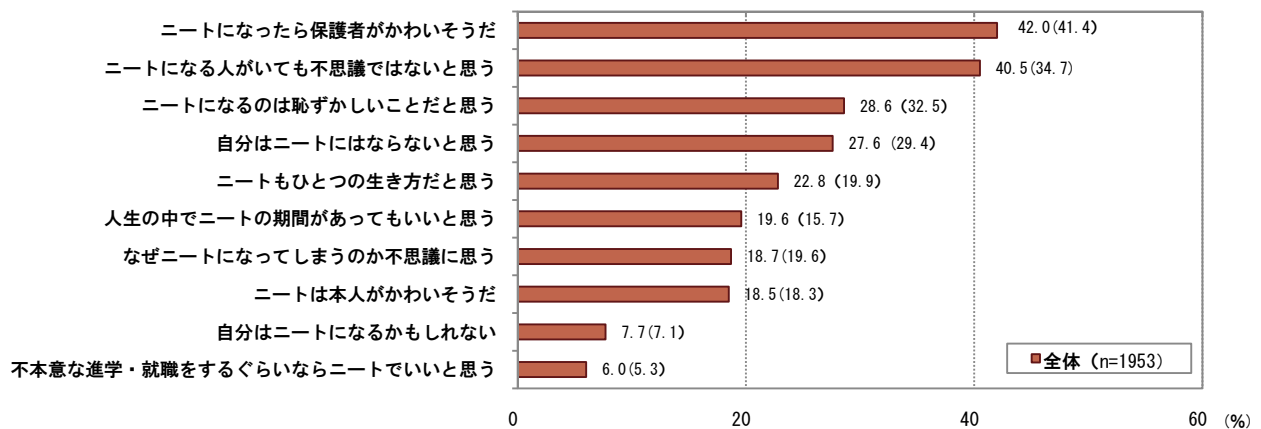
■自分の子どもはならないという保護者が減少

ニートに対してどう思うかを高校生に聞いたところ、「保護者がかわいそう」の回答が最も多かった(図25)。前回と比べると、「ニートになる人がいても不思議ではない」(35%→41%)、「ニートもひとつの生き方」(20%→23%)、「人生の中でニートの期間があってもいい」(16%→20%)が増加しており、ニートを認めるような傾向が強まったようだ。

保護者にも同様にニートに対する考えを聞くと、「ニートになる人がいても不思議ではない」が39%と最多となった。また、自分の子どもがニートになる不安についても質問すると、「ならないと断言できる」「たぶんならないと思う」の合計は74%で多数を占めたが、前回と比べると10ポイント減少(図26)。以上により、ニートが生まれる社会状況を理解する保護者や、わが子になる可能性を否定できない保護者が増えている様子がうかがえる。

図25 ニートに対してどう思うか(複数回答) ※高校生の()内の数字は前回調査の結果

■高校生



■保護者

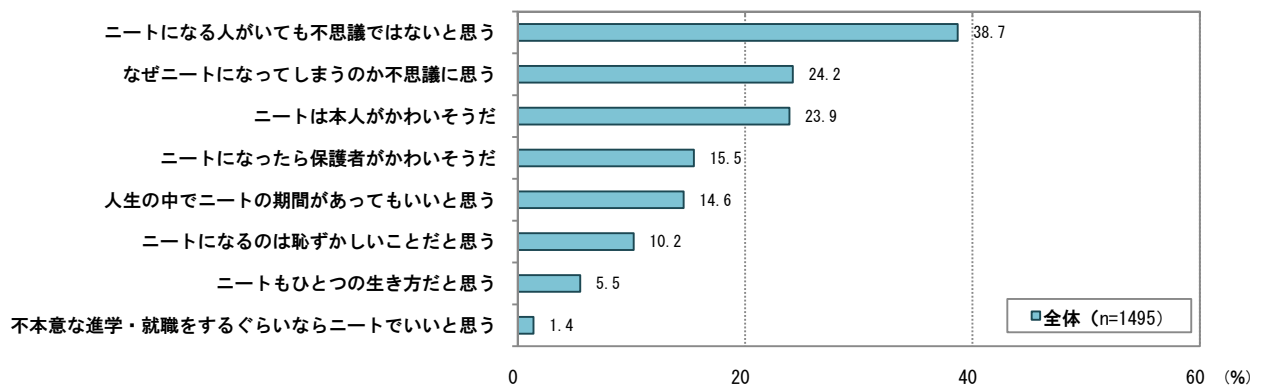
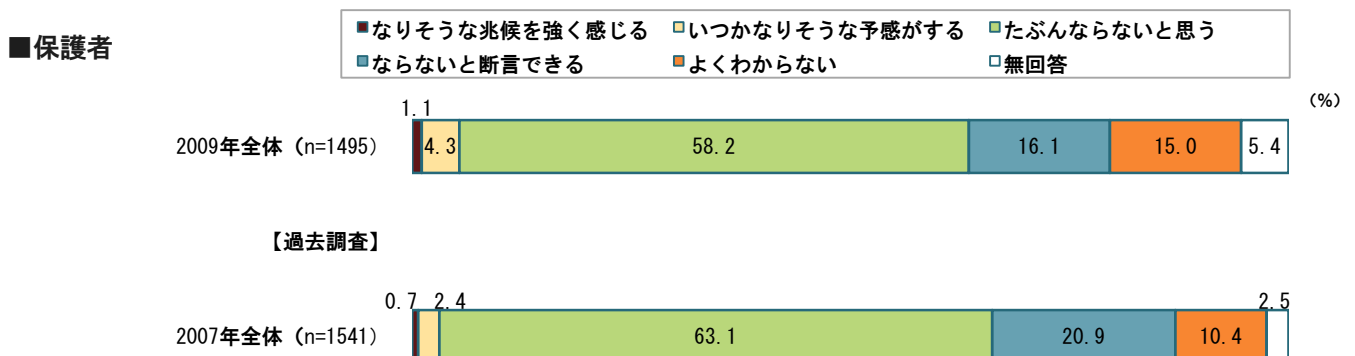


図26 子どもがニートになる不安はあるか



IV. 進路にまつわる期待と不安

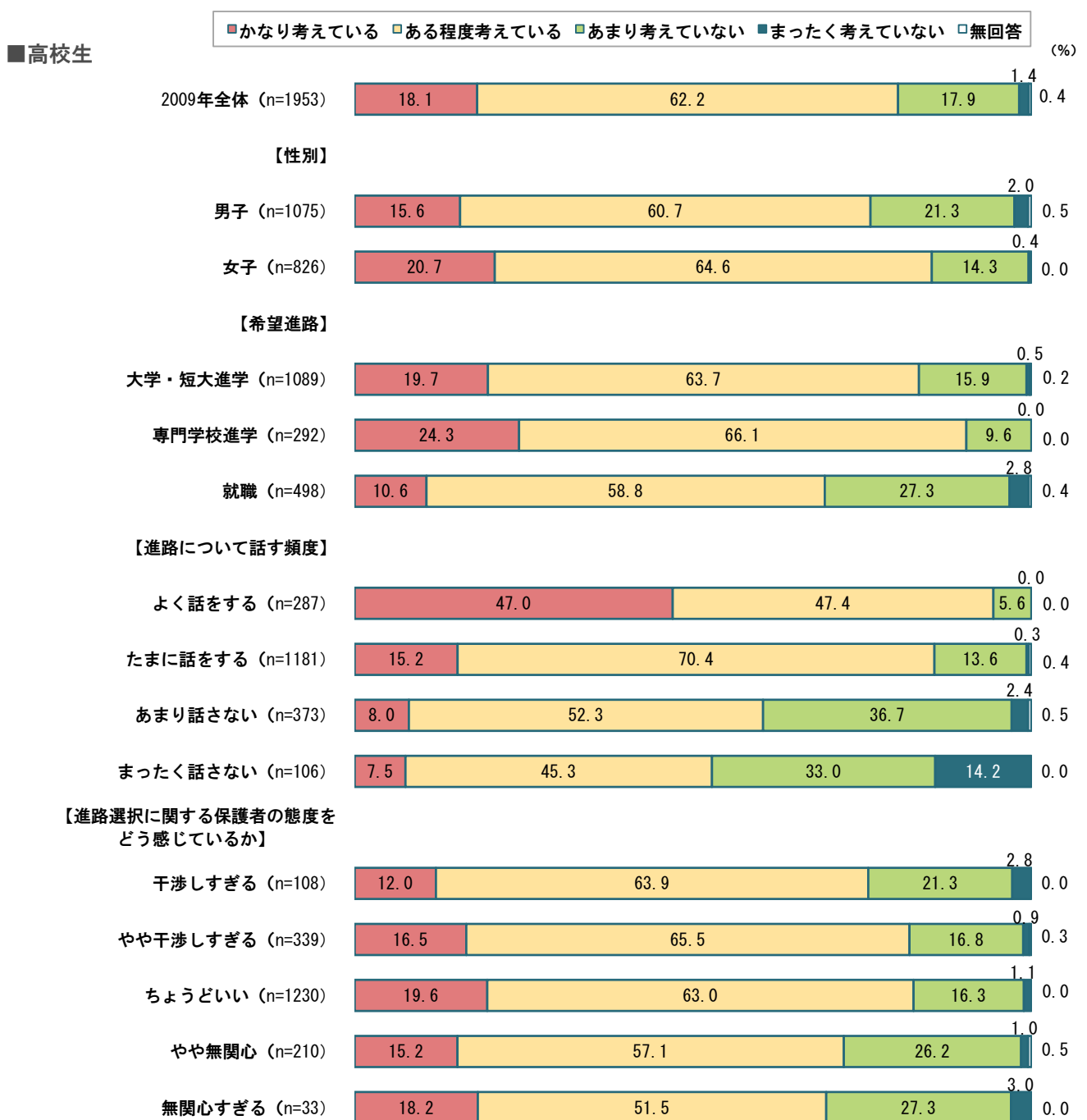
18. 進路選択の意識

■「進路について考えている」という高校生は80%

■「考えている」が専門学校進学希望者は90%、就職希望者は69%

高校2年生の秋に進路選択についてどの程度考えているものか、高校生本人に聞いたところ、「かなり考えている」は18%で、「ある程度考えている」と合わせると80%を超えた(図27)。男子よりも女子のほうが「考えている」が多い。【希望進路】別に見ると、専門学校進学希望者は「考えている」が90%と多く、就職希望者は69%と少ない。【進路について話す頻度】別では話す層ほど「考えている」が多く、【～保護者の態度をどう感じているか】別ではちょうどいい層で最も考えているという。

図27 自分の進路選択についてどの程度考えているか



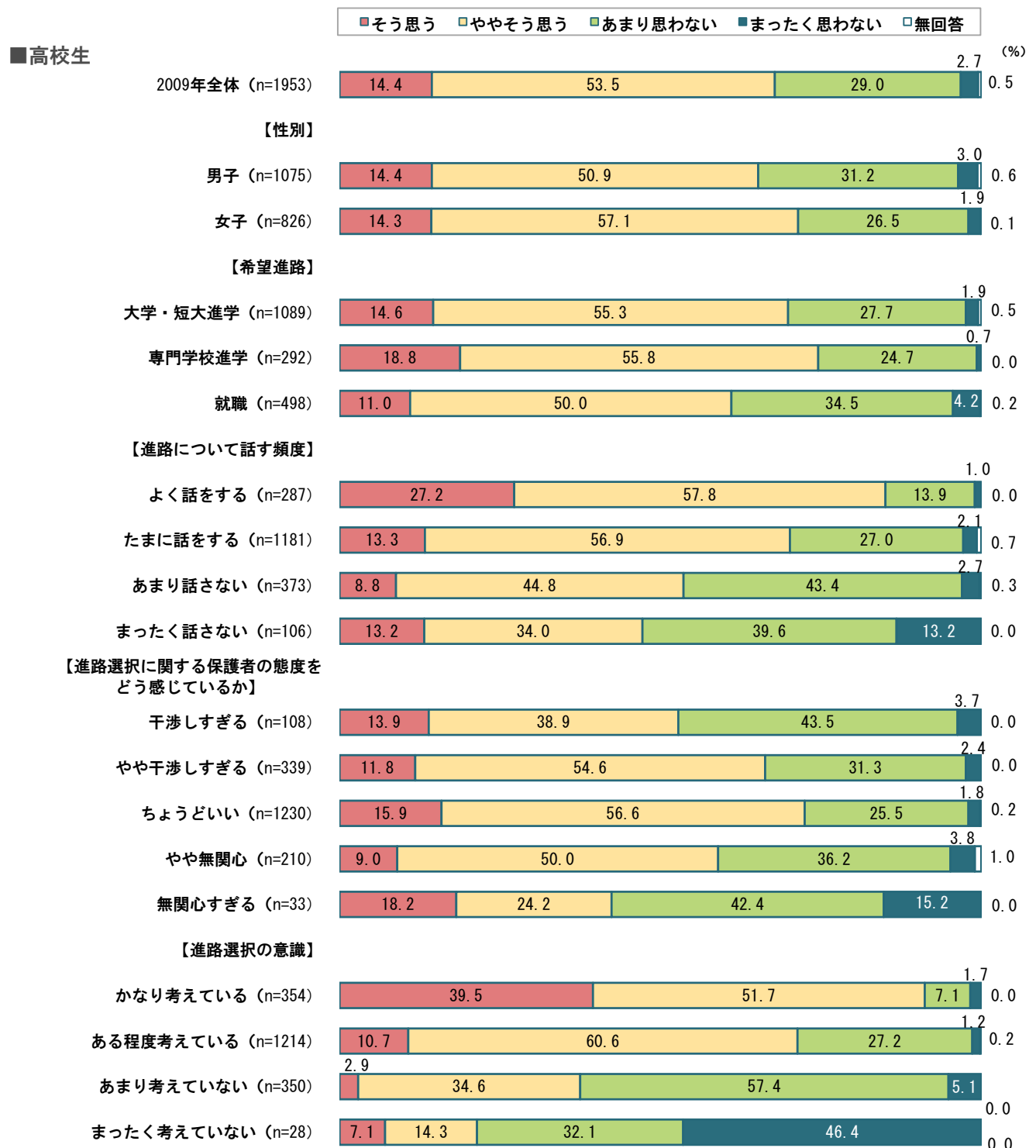
19. 自分の将来への自信

■自分の進路を歩む自信をもつ高校生は約7割

■保護者とよく話したり、保護者の態度がちょうどいい人は、自分の将来への自信が高い

これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそうかと高校生に質問し、自己に対する信頼感も見た(図28)。「歩んでいけそうと思う」は14%で、「ややそう思う」との合計は68%。【希望進路】別に見ると、就職希望者は「そう思う」計が61%でやや少ない。【進路について話す頻度】別では話す層ほど、【～保護者の態度をどう感じているか】別ではちょうどいい層に「そう思う」が多い。さらに、【進路選択の意識(参考p. 21)】別では、考えている層ほど「そう思う」が多くなっている。

図28 これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそうか



20. 進路を考える時の気持ち

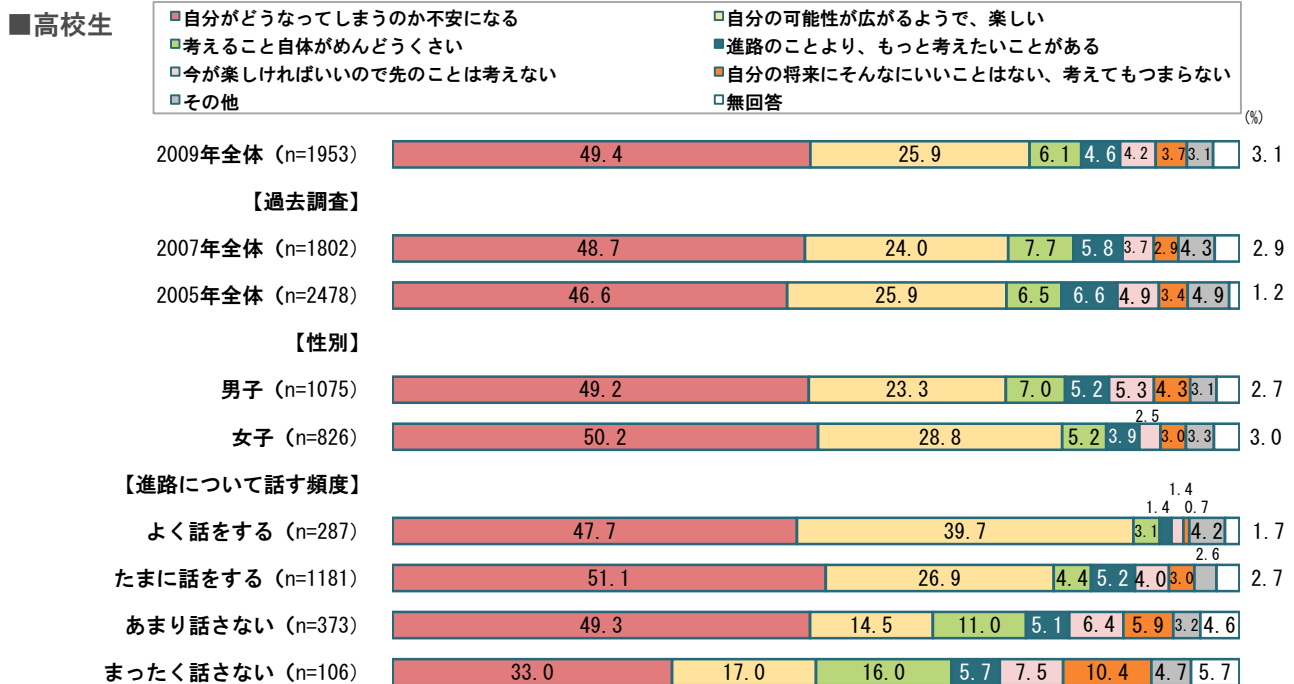
■「楽しい」という高校生は26%、「不安になる」は49%

■進路について保護者と話す層ほど「楽しい」が多い

高校生に進路を考える時の気持ちを聞いたところ、最も多かったのは「自分がどうになってしまうのか不安」で約半数が回答(図29)。次が「自分の可能性が広がるようで楽しい」の26%だ。男女別では、女子に「楽しい」が比較的多い。図は省くが、さらに細かくクロス集計を見ていくと、就職希望者はほかよりも「不安」が多く「楽しい」が少ない。【進路について話す頻度】別では、話す層ほど「楽しい」が多くなっている。

また、進路について保護者と話す内容(参考p. 5)を高校生の気持ち別に見ると、「楽しい」層では「将来どんな職業につきたいか」「将来の自分の夢」などについて他よりも話していることがわかる。

図29 進路を考える時、高校生はどんな気持ちになるか



●高校生の気持ち別に見た「進路について保護者と話す内容」(進路について保護者と話す人/複数回答)

(%)

進路について話す内容 進路を考える時の気持ち	高校卒業後の具体的な進路について	将来どんな職業につきたいか	現在の成績について	将来の自分の夢	将来どんな生活をしたいか	将来どんな生き方をしたいか	保護者の(現在の)仕事の話	進学費用について	保護者の高校時代の話	上級学校(大学・短大・専門学校)	経済や企業の動き	保護者の大学・短大・専門学校時代	保護者の進路選択の話
全体 (n=1841)	54.5	51.7	41.4	38.3	23.6	18.4	17.0	15.3	14.1	10.4	10.2	6.3	5.6
自分がどうになってしまうのか不安になる(n=925)	56.4	53.7	43.4	35.5	21.7	16.4	16.9	16.6	11.4	10.8	11.0	5.3	7.0
自分の可能性が広がるようで、楽しい(n=486)	58.0	57.2	41.4	52.5	30.0	23.0	19.5	15.8	19.3	12.1	11.3	9.1	5.3
考えること自体がめんどくさい(n=102)	40.2	41.2	38.2	22.5	19.6	14.7	11.8	11.8	9.8	9.8	2.9	3.9	1.0
進路のことより、もっと考えたいことがある(n=84)	53.6	36.9	41.7	27.4	21.4	16.7	16.7	15.5	17.9	10.7	6.0	4.8	6.0
今が楽しければいいので先のことは考えない(n=75)	48.0	45.3	34.7	18.7	12.0	13.3	10.7	12.0	12.0	6.7	5.3	2.7	2.7
自分の将来にそんなにいいことはない、考えてもつまらない(n=60)	38.3	35.0	45.0	28.3	23.3	21.7	10.0	11.7	13.3	6.7	5.0	6.7	3.3

21. 進路選択に関する気がかり

■「学力不足」が54%で最大の気がかり

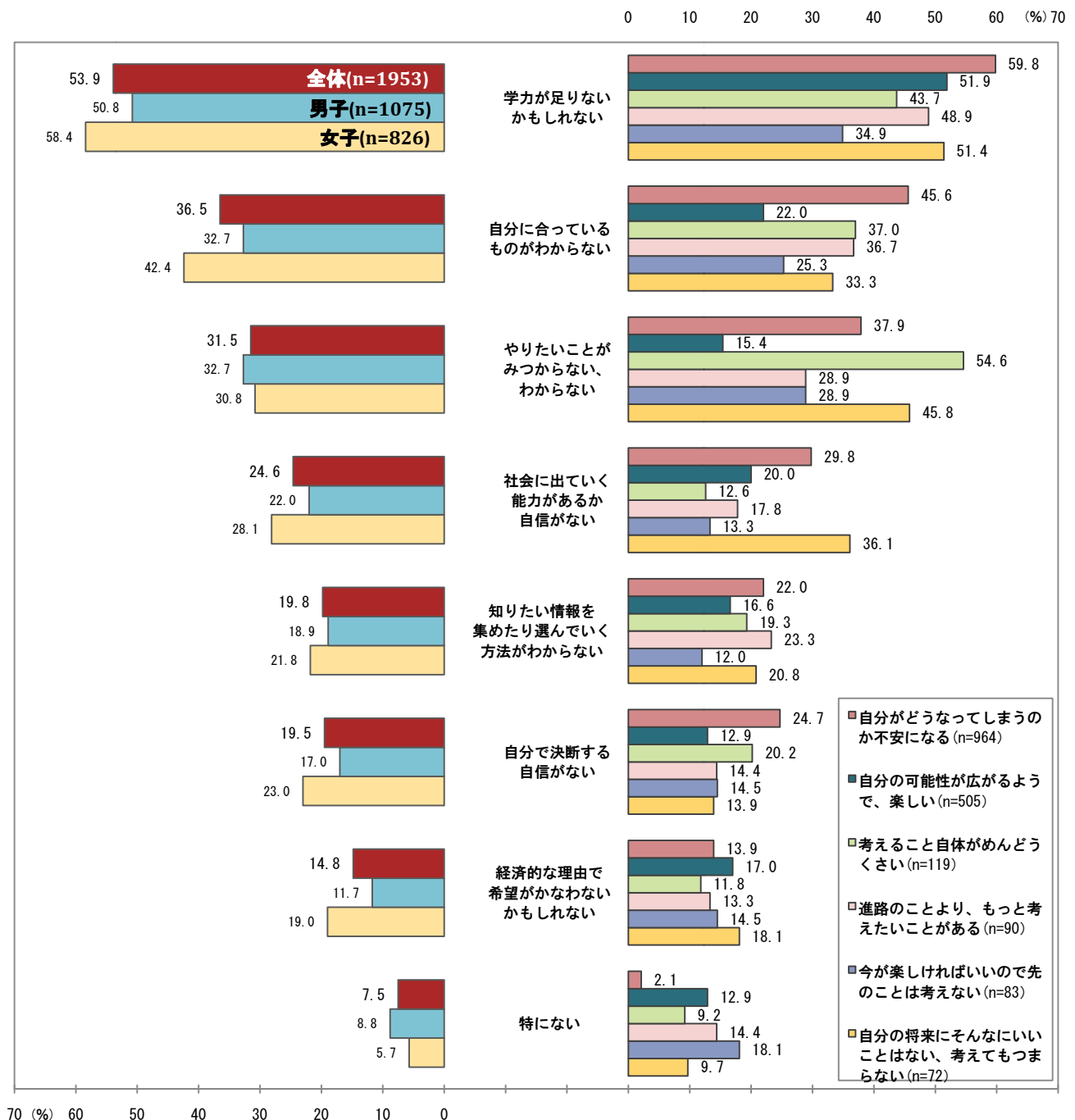
■進路を考える時の気持ちが「楽しい」人は「やりたいことがみつからない～」が少ない

進路選択に関する気がかりの中身を聞くと、「学力が足りないかもしれない」が最も多く54%が回答(図30)。次に「自分に合っているものがわからない」「やりたいことがみつからない～」が続き、自分の適性や興味・関心が見えないことも気がかりの大きな要因ようだ。気がかりが「特にない」という人は1割に満たない。男女別に見ると、「やりたいことがみつからない～」のみ男子のほうが若干数値が高いが、それ以外は女子のほうが高い。【進路を考える時の気持ち(参考p. 23)】別では、楽しい層は「自分に合っているものがわからない」が22%、「やりたいことがみつからない、わからない」が15%とほかの層よりも少なく、自分の適性や目標を比較的良好に認識しているようだ。

図30 進路選択についてどんなことが気がかりか(複数回答)

■高校生【全体／男女】

【進路を考える時の気持ち】



22. 働くことの気がかかり

■ 高校生の69%、保護者の66%が「気がかかりがある」と回答

■ 「つきたい職業につけるか」が最大の気がかかり

高校生が将来働くことについて、気のかかりの有無を親子双方に質問した(図31)。まず高校生の回答を見ると、「気がかかりがある」は69%。前回からは5ポイント減少したが、前々回と同水準にあり、依然として高い数値といえるだろう。男女別では女子に「ある」が多く8割近い。

次に保護者の回答を見ると、子どもが将来働くことについて「気がかかりがある」は66%。前回と同水準だが、増加傾向といえるかもしれない。特に母親のほうが気がかかりを感じているという。

具体的な気がかかりの中身について聞いてみると、親子とも最も多かったのは「つきたい職業につくことができるだろうか」で、高校生の63%、保護者の77%が回答した(図32)。働いてからのことより、その前段階にある就職の部分が一番の気のかかりのようだ。そのほか「十分な収入が得られるだろうか」「職場の人間関係がうまくいくだろうか」「つきたい職業が思いつくだろうか」なども親子の両方に多い。

図31 高校生が将来働くことについて気がかかりがあるか

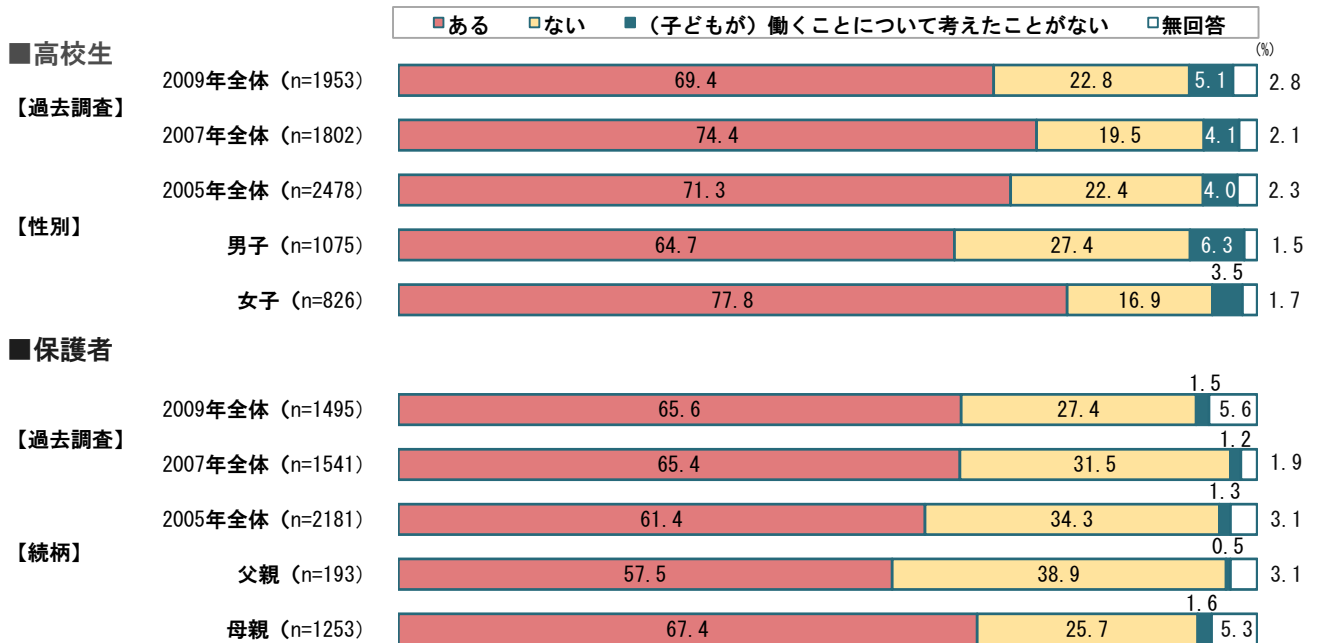
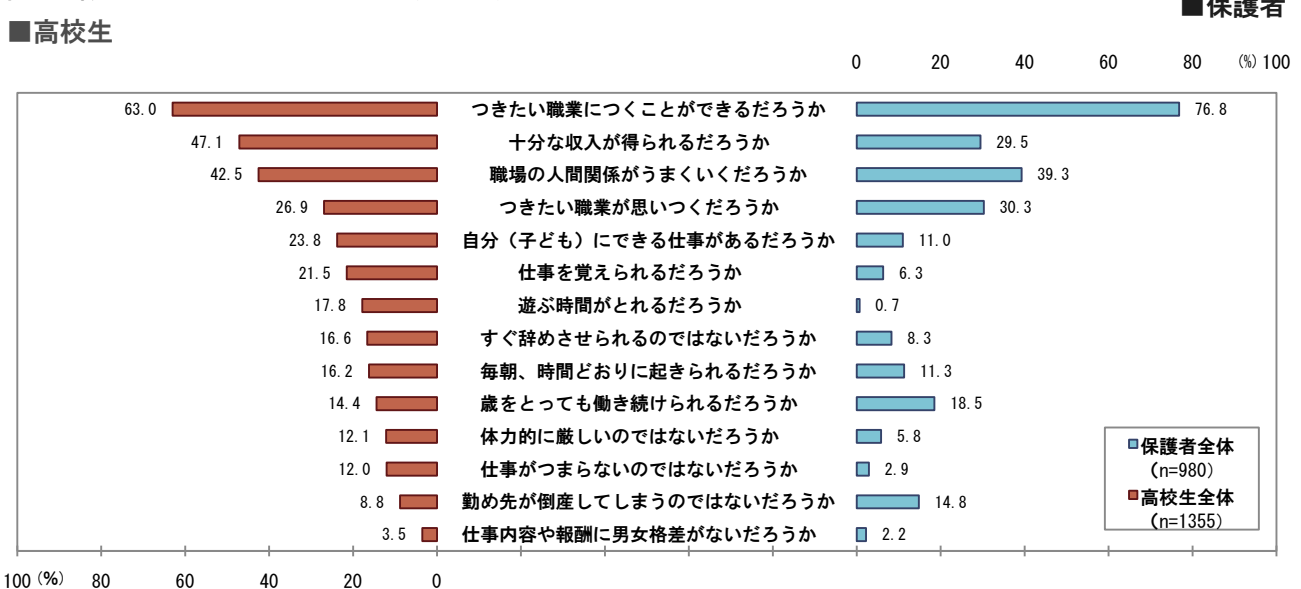


図32 働くことについてどんなことが気がかかりか (気がかかりがある人/5つまで回答)



23. 未来社会への認識

■「好ましくない」という高校生は75%、保護者は83%に増加

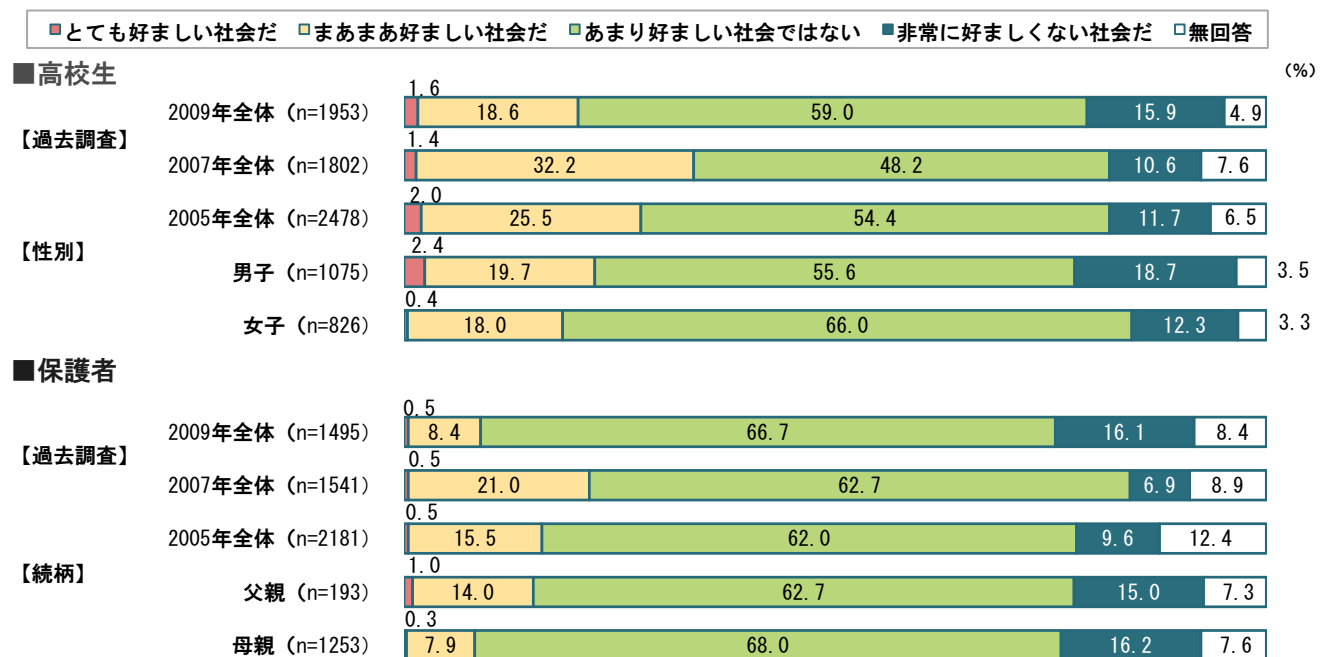
■不況や就職難が大きく影響

これからの社会は高校生にとって好ましいと思うか、親子それぞれに聞いた(図33)。高校生の回答から見てみると、「とても好ましい」「まあまあ好ましい」の合計が20%と、前回の34%から大きく減少。「あまり好ましくない」「非常に好ましくない」の合計は前回の59%から75%に増加した。

保護者の回答も「好ましい」計は前回の22%から9%にまで減少し、「好ましくない」計が70%から83%に増加した。親子とも未来社会を厳しく認識する人の割合が大きくなっている。

好ましいと思う理由のフリーコメントには、「これ以上は求めすぎ」という現状満足、「自分の力で切り開いていける」など本人次第という声、「政権交代で社会が変わるかもしれない」との期待などが見られた。また、好ましくないと思う理由は、「景気が悪い」「働くところがない」など不況や就職難を嘆くコメントが非常に多かった。

図33 これからの社会は高校生にとって好ましいか



≫ 未来社会についてそう思う理由【高校生】

■とても好ましい

- これ以上は求めすぎだから(山形・男子、大短)
- 日本に生まれてラッキー。他国と比べても想像できないほど裕福だと思う(東京・男子、不明)

■まあまあ好ましい

- 根拠はないが、悲観的には考えていない(京都・男子、大短)
- 不況ではあるけど不満はないから(鹿児島・男子、専門)
- 自分の好きなことができるのなら、よい社会だと思う(鹿児島・女子、大短)
- ちゃんと働けば、それなりの収入は得られる(三重・男子、就職)
- 政権交代で社会が変わるかもしれないから(愛媛・女子、専門)

■あまり好ましくない

- 会社が倒産しそうで怖い(埼玉・男子、大短)
- 経済面・政治面、すべてにおいて厳しい時代だと思う(三重・女子、専門)
- 仕事がないから。収入も少なくなり、生きていけるか不安だから(山形・女子、大短)
- 少子高齢化や地球温暖化など問題が多くあるから(愛媛・女子、大短)

■非常に好ましくない

- 悪いことばかり聞く。マイナスに向かっている気がする(北海道・女子、就職)
- 景気が悪くなるいっぽうで、これから先があまりわからないから(埼玉・女子、専門)

≫ 未来社会についてそう思う理由【保護者】

■まあまあ好ましい

- 希望と実力があればいろいろな仕事にチャレンジできるため(東京・母親、男子)
- 自分の力で切り開いていける可能性がある(東京・母親、男子)
- 何とも言えない。本人の自覚と覚悟次第(京都・父親、男子)

■あまり好ましくない

- 企業倒産、リストラ etc. 将来に希望が…(埼玉・母親、男子)
- 景気が悪く、就職が厳しいので(鹿児島・母親、男子)
- 社会があまりに不安定で将来設計が立てづらいため(石川・母親、女子)
- 少子高齢化で、一人あたりの負担が増えていく(京都・父親、男子)
- ずっと働いていくには、のんびりしたところのない厳しい社会。精神的にも体力的にもきつい気がする(愛媛・母親、女子)
- 人を思いやる気持ちがなくなったから。自分で精いっぱい(山形・父親、女子)
- 政治が不安定な国だから(京都・父親、男子)

■非常に好ましくない

- 景気が悪すぎる!!(三重・母親、男子)
- まず、働くところがない。若い時から楽しいことがないように思う。夢がもてない(北海道・母親、男子)
- 税金、年金はどんどん高くなると思うし、就職先が選べない若者がかわいそうだと思う(石川・母親、女子)
- 社会全体が大切なもの(こと)を間違え、違う方向へ流されているように思う。そう思う自分自身も(愛媛・母親、男子)

24. 保護者がアドバイスすることの困難

■「アドバイスが難しい」という保護者は73%に増加

■「社会が予測できないから」という回答が増加

p.8では子どもの進路選択についてアドバイスしているかどうかを保護者に聞いているが、その難しさについてもたずねたところ、23%が「非常に難しい」と回答(図34)。「やや難しい」と合わせると73%で、2005年以降、増加を続けている。特に母親に「難しい」の多さが目立つ。

また、難しいと感じる人にその要因をたずねると、最多は「社会がどのようなようになっていくか予測がつかない」(前回52%→62%)で、それに「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らない」(47%→43%)、「経済的な理由で選択肢を狭めざるを得ない」(29%→32%)が続いた(図35)。順位は前回と同じだが、今回は「社会がどのようなようになっていくか～」の増加が大きく、ほかの項目との差が開いた。父親は「子どもが何を考えているかわからない」「子どもがアドバイスを望んでいない」など、親子関係の問題が母親に比べて多め。母親は「最新の進路情報を知らない」「自分の生き方・考え方に自信がない」などが比較的多い。

図34 高校生の進路選択へのアドバイスを難しいと感じるか

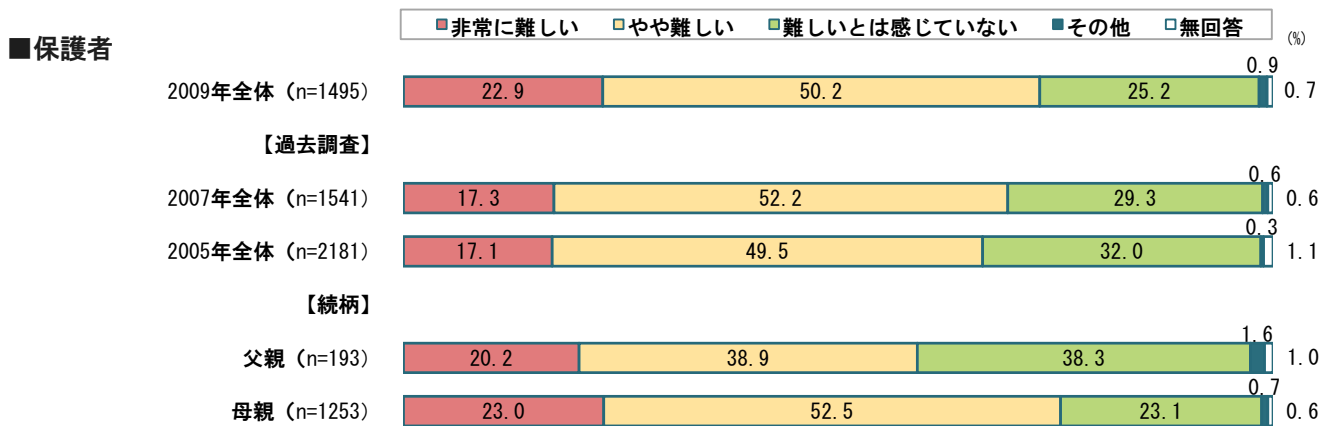
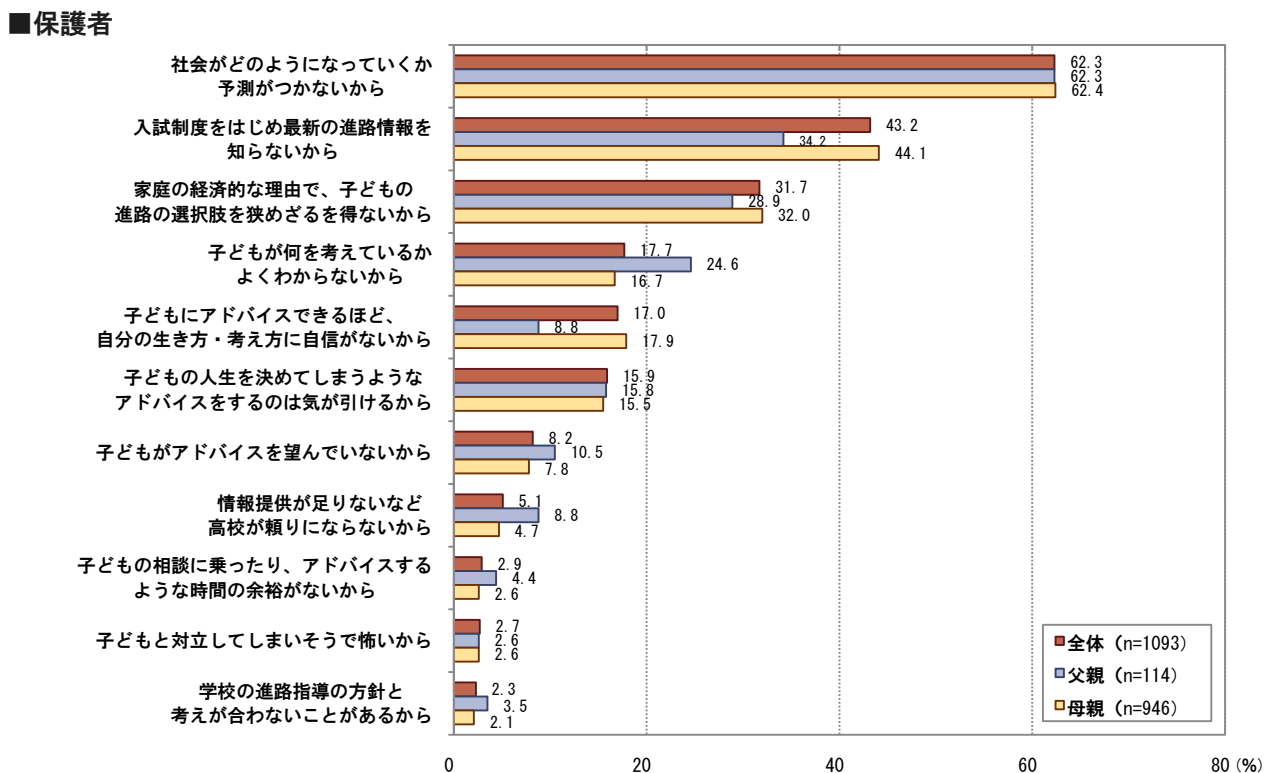


図35 アドバイスが難しいと感じる要因は何か(難しいと感じる人/複数回答)



25. 保護者の印象

■父親を「楽しそう」と感じる高校生は66%

■母親を「楽しそう」と感じる高校生は71%

保護者の姿は高校生の目にどのように映っているのだろうか。高校生に一番身近な保護者を選んでもらい(図36)、その保護者に対する印象をたずねた(図37)。一番身近な保護者を「父親」と回答した人は22%で、その印象が「とても楽しそう」は20%、「まあまあ楽しそう」との合計は66%。また、一番身近な保護者を「母親」と回答した人は67%で、その印象が「とても楽しそう」は11%、「まあまあ楽しそう」との合計は71%だった。

図36 一番身近な保護者

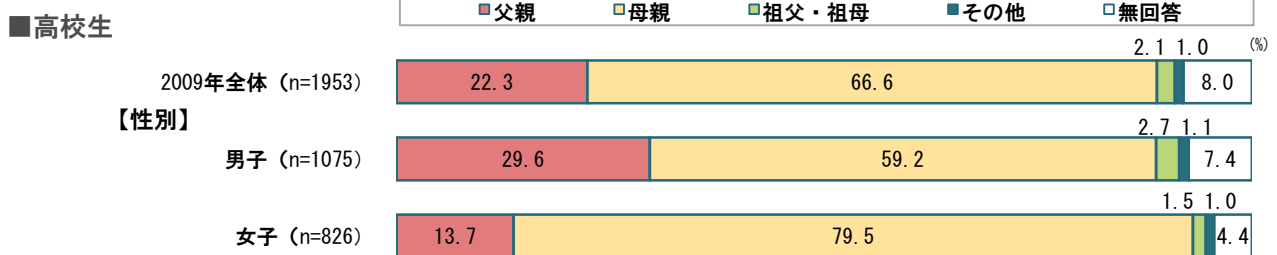
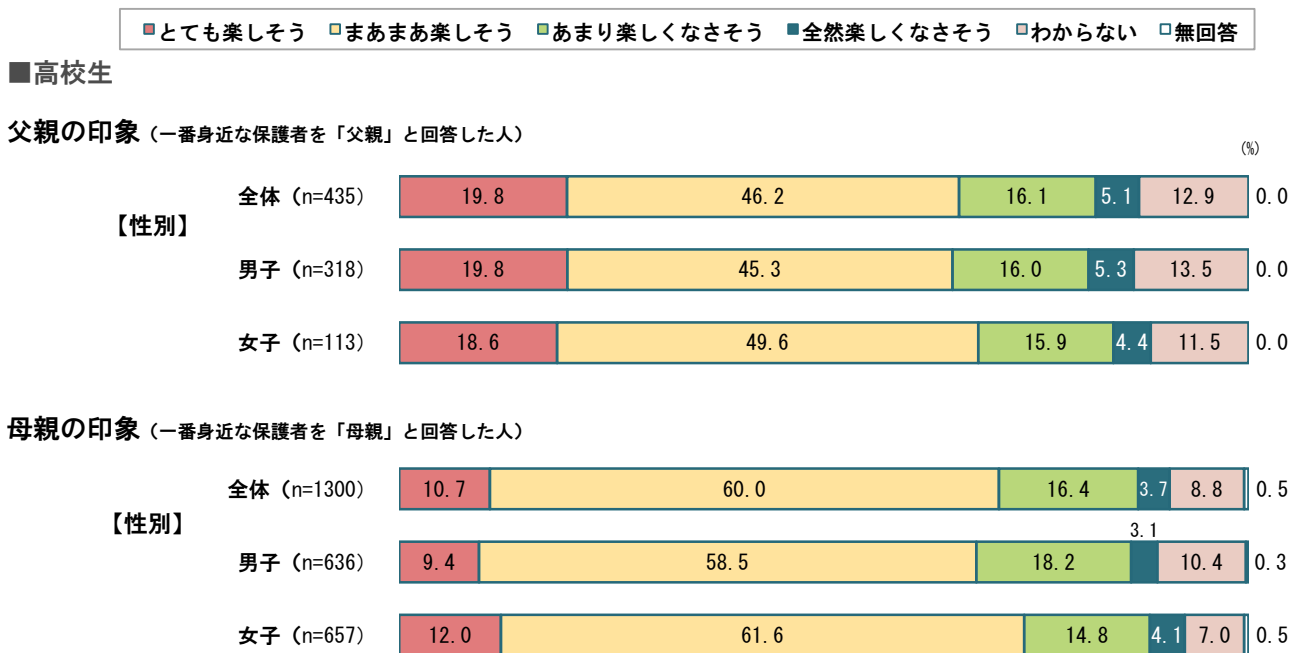


図37 一番身近な保護者は普段、どのような印象か



■保護者への意見・要望【高校生】

○よい成績を取ったときは褒めてほしい(北海道・女子、専門)
 ○もう少し話しやすい空気で日ごろから振舞ってほしい(三重・男子、大短)
 ○もう少し、ちゃんとしたまじめな話し合いがしたい(鹿児島・女子、大短)
 ○何を考えているかわからない。これから先どうするのか(京都・女子、留学)
 ○もっと怒らないで話を聞いてほしい(三重・女子、専門)
 ○イライラを私にぶつけるのはやめてほしい(山形・女子、大短)
 ○あいさつをしてほしい。「おはよう」とか(鹿児島・男子、大短)
 ○急かすな(石川・女子、大短)
 ○自分の進学について、親同士でいろいろ言うのはやめてほしい。直接言ってほしい(埼玉・男子、大短)

○決めつけないで本当の自分をわかってほしい(京都・女子、大短)
 ○愛の反対は無関心だー!!(愛媛・女子、大短)
 ○中途半端に放っておくなら、もう全部放っておいてほしい(東京・女子、就職)
 ○もう少し自分自身のことを楽しんでほしい(山形・男子、大短)
 ○自分のことばかりじゃなくて、子どもの変化にもっと気づいてほしい(鹿児島・女子、大短)
 ○少しため息が多い気がする(東京・女子、大短)
 ○ありすぎて書けません。まず、心配性を治してほしい(鹿児島・女子、就職)
 ○子どもにとって一番の願いは、親が笑ってすごしていること(山形・女子、専門)

V. 家庭教育と自立意識

26. 家庭教育

■「ほめられてきた」高校生は48%、「ほめてきた」保護者は73%

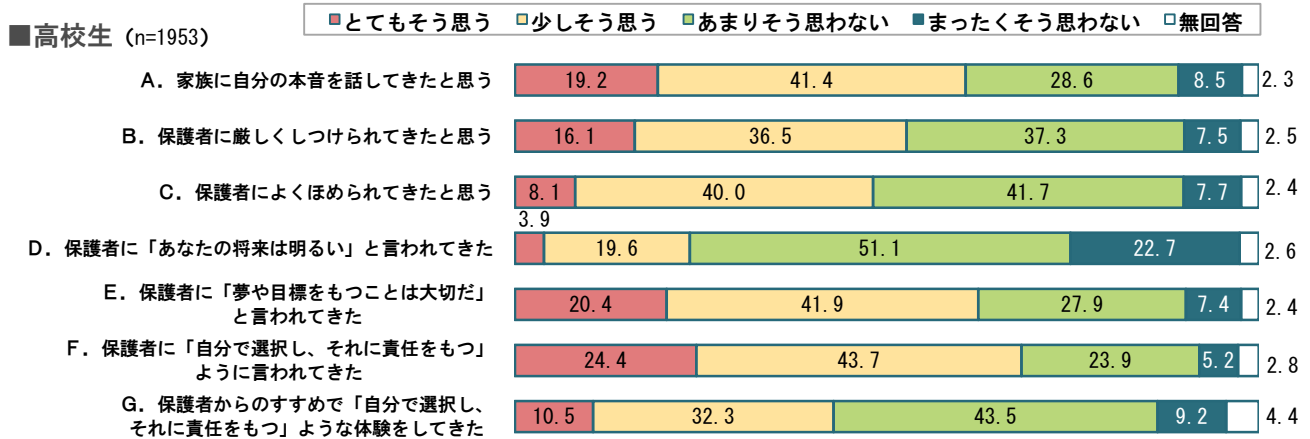
■「あなたの将来は明るいと言われてきた」高校生は約2割

高校生が幼少時から家庭教育がどのように行われてきたのか、共通の7項目(A～G)について親子に質問した(図38・39)。高校生の回答では、「A.家族に自分の本音話を話してきた」「E.夢や目標をもつことは大切だと言われてきた」「F.自分で選択し、それに責任をもつようにと言われてきた」は「そう思う」が多く、6割を超えた。「D.あなたの将来は明るいと言われてきた」と思う人は7項目中最も少なく約2割だった。【自己進路実現可能感(参考p.22)】別に見ると、自分の進路を歩んでいけそうと思う人ほどA～Gの「そう思う」の数値が大きい。

一方の保護者の回答は、ほとんどの項目で「そう思う」が高校生よりも多い。その差が最も著しいのはCの「ほめる」に関する項目で、親はほめてきたつもりでも子はそう受けとめていないようだ。「B.子どもを厳しくしつける～」だけは、「そう思う」が高校生よりわずかに少なかった。

図38 家庭でのことで高校生が子どもの頃から感じてきたこと

(%)



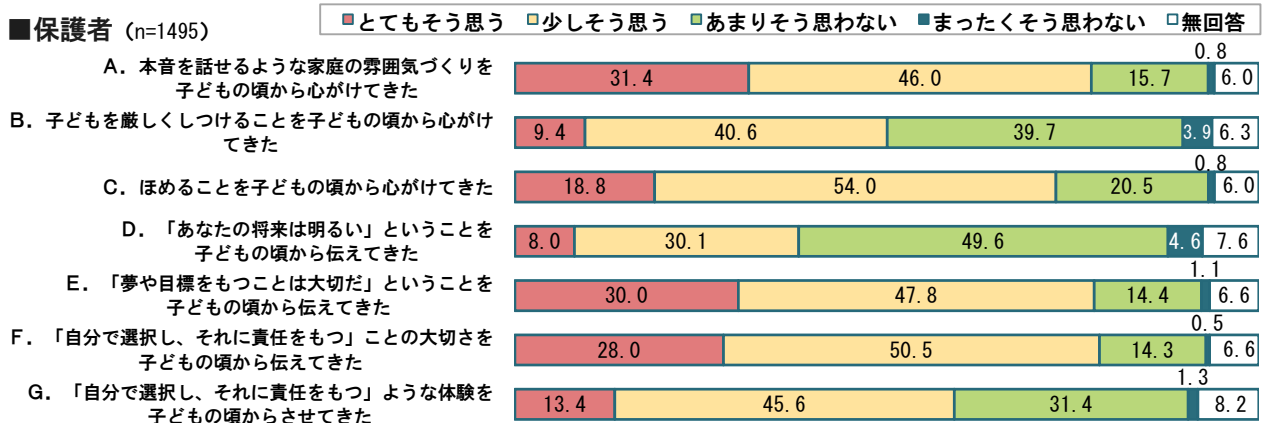
●【自己進路実現可能感(自分の進路を歩んでいけそうか)】別 A～Gの「そう思う」計の割合

(%)

子どもの頃から自分の進路を歩んでいけそうか	A. 家族に自分の本音話を話してきたと思う	B. 保護者に厳しくしつけられてきたと思う	C. 保護者によくほめられてきたと思う	D. 保護者に「あなたの将来は明るい」と言われてきた	E. 保護者に「夢や目標をもつことは大切だ」と言われてきた	F. 保護者に「自分で選択し、それに責任をもつ」ように言われてきた	G. 保護者からのすすめで「自分で選択し、それに責任をもつ」ような体験をしてきた
全体(n=1953)	60.6	52.6	48.1	23.6	62.3	68.1	42.9
そう思う(n=282)	67.0	56.0	58.2	31.9	68.4	73.4	53.2
ややそう思う(n=1044)	66.2	53.5	51.8	27.1	66.3	71.3	47.5
あまり思わない(n=566)	48.9	50.7	38.5	14.1	54.6	62.4	31.1
まったく思わない(n=52)	42.3	42.3	28.8	13.5	40.4	46.2	26.9

図39 保護者が高校生に対して子どもの頃から心がけてきたこと

(%)



27. なぜ学び・なぜ働くかについての話し合い

■「勉強する意味を話し合った」という高校生は17%、保護者は53%

■親子の認識に大きなギャップ

「なぜ勉強するのか」というテーマについて親子で話し合ったことがあるか、親子双方に質問した(図40)。高校生の回答では「ある」が17%という少なさ。特に男子が話していないようだ。しかし、保護者は53%が「ある」と回答しており、高校生の認識と大きく食い違う。また、双方とも05年以降「ある」の減少が続いている点が目につく。話し合った内容を高校生に聞くと、「勉強ができれば選択の幅が広がる」「将来をよりよいものにするため」など、将来とのつながりについて話した人が多い。「勉強することから『努力』を学ぶ」など、勉強による様々な効果についても話されているようだ。

「なぜ働くのか」というテーマについても同様にたずねると、「話し合ったことがある」という高校生は13%、保護者は47%(図41)。「なぜ勉強するのか」よりも少ない。こちらもやはり親子のギャップが大きく、双方とも減少傾向にある。話し合いの内容は「生きていくため」といったものが多い。

図40 「なぜ勉強するのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか

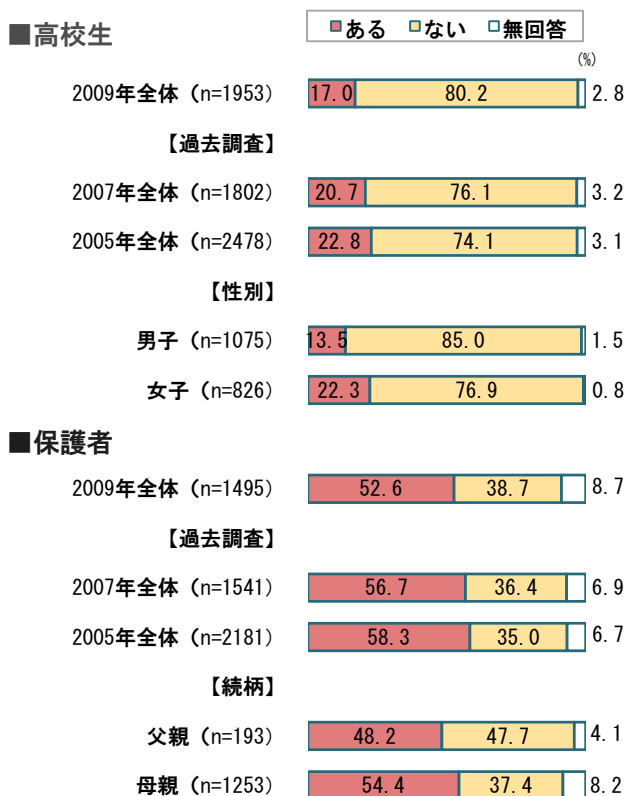
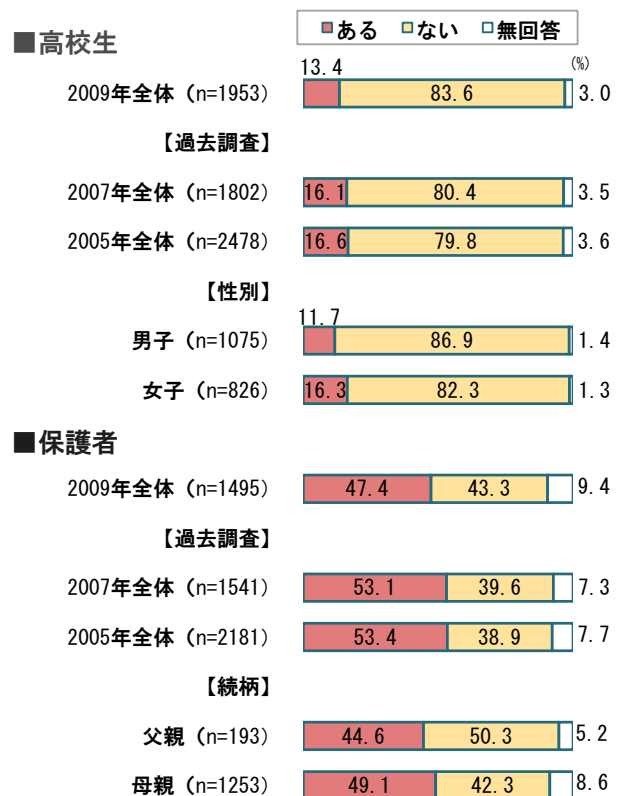


図41 「なぜ働くのか」というテーマを親子で話し合ったことがあるか



≫「なぜ勉強するのか」話し合った内容【高校生】

- 勉強ができれば将来、選択の幅が広がる(鹿児島・女子、大短)
- 勉強時間は、将来の給料だ！(鹿児島・女子、大短)
- 自分の将来をよりよいものとするため。自分のために勉強するんだよ(山形・男子、就職)
- 社会を生きていくための自分の武器になるから。頭を使うことや考えることは大切だから(鹿児島・女子、大短)
- 勉強することから「努力」を学ぶ(三重・女子、大短)
- 受験勉強で疲れたときに、誰もが通る道だと言われた(三重・女子、大短)
- 頭が悪いとどこにも就職できないということ(石川・女子、就職)
- いい大学を出て、いい職に就いて、いい生活をするためと言われた(三重・女子、大短)
- 自分の将来を明るくするためだと、しつこく言われたので、うるせえから家出した(東京・男子、専門)

≫「なぜ働くのか」話し合った内容【高校生】

- 生きていくためには必要だという結論になった(山形・男子、大短)
- お金を稼いで生きていくため(三重・男子、その他)
- ひとりで生きていけるように(山形・女子、大短)
- 家族を養わなくてはいけないから(山形・男子、専門)
- 老後のため(愛媛・女子、就職)
- 働いて働いて死んでいく。働かないと気持ちよく死ぬこともできない(東京・男子、不明)
- ニートはダメ(埼玉・女子、就職)
- 社会とは働くことで成り立っているところもある(京都・男子、大短)
- 国民の義務だから(京都・男子、不明)
- 幸せになるために働く(山形・女子、大短)
- 自分探して言われる(東京・女子、専門)
- 生活し、人々の役に立ち、社会に貢献するため(三重・女子、大短)

28. 保護者の仕事についての会話

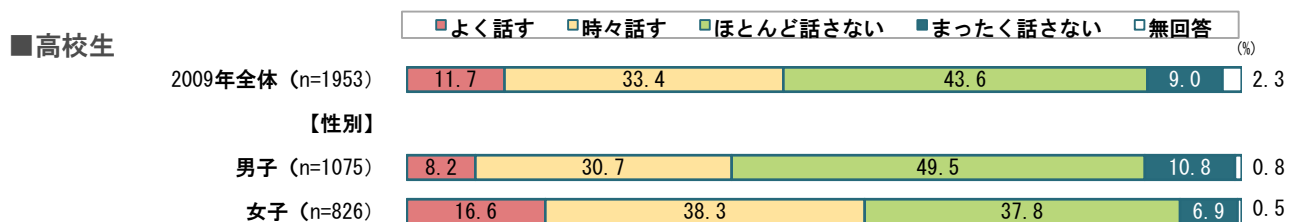
■「保護者は仕事の話をしている」という高校生は45%、保護者は68%

■保護者から聞くのは「やりがい」より「苦労」

保護者は仕事の内容、楽しさや大変さを高校生に話しているだろうか。高校生の回答では「よく話す」は12%で、「時々話す」と合わせると45%。男女の差が大きく、男子は39%、女子は55%が「話す」という(図42)。話している内容を具体的に聞くと、「パソコンが壊れて大変だった」「忙しかったり不景気で大変だということ」など、その日の出来事や苦労に関する会話が目立つ。仕事のやりがいや楽しさについて聞いているというコメントはそれほど多く見られなかった。

一方、保護者は「よく話す」が19%、「時々話す」と合わせると68%になり、高校生の回答率よりも高い。父親は「話す」が58%で、母親の70%と比べると少なめだ。また、子どもの職業選択の際に自分の経験から伝えたいことも書いてもらった。「長所を活かすことができる職業を選ぶとよい」といったアドバイスや、「らくしてお金はもらえない」と粘り強さや柔軟性、人との協力の大切さに関するコメントなどが多かった。

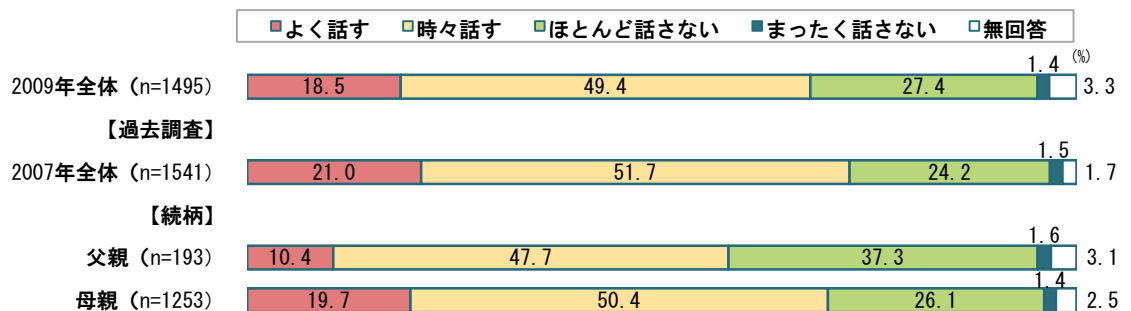
図42 保護者は仕事の内容、楽しさや大変さを話しているか



≫ 保護者が話している内容【高校生】

- 仕事の内容、状況など(埼玉・男子、大短)
- 母の仕事内容に興味があるのでたまに聞いたりします(京都・女子、就職)
- その仕事のためにどんな勉強をしているのかなど(山形・女子、専門)
- 働いていてよかったなあ、と感じる時のこととか(東京・女子、大短)
- 電子部品をつくるうえで、トラブルに対処するのが大変だが、それを解決すると達成感がある…などなど。ほかにも多々(鹿児島・男子、大短)
- 今日は疲れた～みたいな感じ(三重・男子、就職)
- 今日は変な人が来たとか、パソコンが壊れて大変だったなど(愛媛・女子、大短)
- 仕事仲間とのくだらない日常会話とか(埼玉・女子、就職)
- 忙しかったり不景気で大変だということ(埼玉・男子、大短)
- 上司がウザイ(三重・男子、就職)
- 人間関係の大変さ。世の中の「矛盾」の多さ(東京・女子、専門)
- この不況でリストラにあっている人がたくさんいること(山形・女子、専門)
- 自分だけが忙しいような言い方で、話をしてくる(愛媛・女子、大短)
- グチってばかり言って、ぶっちゃけ聞くほうがつらい(山形・男子、大短)
- 一方的にしゃべるから覚えていない(愛媛・女子、専門)
- 働きたくないとよく言っている(北海道・男子、専門)

■ 保護者



≫ 子どもの職業選択の際に保護者の経験から伝えたいこと【保護者】

- やりがいのある仕事は大変だが、成し遂げたとき自信がもてるようになる(三重・母親、女子)
- 自分が楽しいと思えることがある仕事につけたらいいなと伝えている(鹿児島・母親、女子)
- 自分の長所を活かすことができる職業を選ぶとよいと思う(三重・母親、男子)
- 自分のやりたいことに諦めずに進んでほしい。必ずしも、やりたいことができるとは限らないが(東京・母親、女子)
- 社会に貢献でき、なおかつ、自分が好きなことが職業になるのが理想(埼玉・母親、男子)
- つきたい仕事にかかわれたら、それは素晴らしいことだが、職業の内容に関係なく、働くことによって得るものは大きい(埼玉・母親、女子)
- らくしてお金(給料)はもらえない(石川・父親、女子)
- どんなに好きな仕事でも大変なことや苦労することがたくさんある。それに負けずに頑張れということ(山形・母親、女子)
- 石の上にも3年。とにかく3年はやり通すこと(山形・父親、男子)
- すべてが自分の思うとおりにはいかない。他人の意見などを聞き入れることも大事。すべてにおいて柔軟な考えが必要である(山形・父親、男子)
- できるだけ多くの経験、体験をしてほしい。仕事に直接関係しなくても、いつか役立つことがある(山形・父親、男子)
- こけても大丈夫だということ。やり直しはできる(愛媛・母親、男子)
- 人間関係の難しさ、がまんすること(三重・母親、女子)
- 人と協力する姿勢と行動が必要だ(東京・母親、男子)

29. 自立についての認識

■「自立しなさい」と保護者に言われたことがある高校生は49%

■「自然に自立していくもの」という保護者が過半数

保護者から「自立しなさい」と言われたことがあるか、高校生に質問した(図43)。「小さい頃からよく言われる」「最近よく言われるようになった」「今までに何度か言われたことがある」の合計、つまり自立について何らか言われたと認識している高校生は49%で、前回よりやや増加した。男女別では、女子より男子のほうが言われているという。

保護者には、子どもの自立について最も考えに近いものを選択肢から選んでもらったところ、「自然に自立していくもの」が56%と最多だった(図44)。「自立させることを目標にして小さな頃から接してきた」は15%で、前回より少ない。また、子どもが高校卒業までにはできるようになってほしいことを保護者に聞くと、「身のまわりのことは自分でできるように」などの生活面、「自分の考えをはっきり人に伝えられる」といったコミュニケーション面、「自分から考えて行動する」といった自律的な行動についてなど、多様な考えが聞かれた。

図43 保護者から「自立しなさい」と言われたか

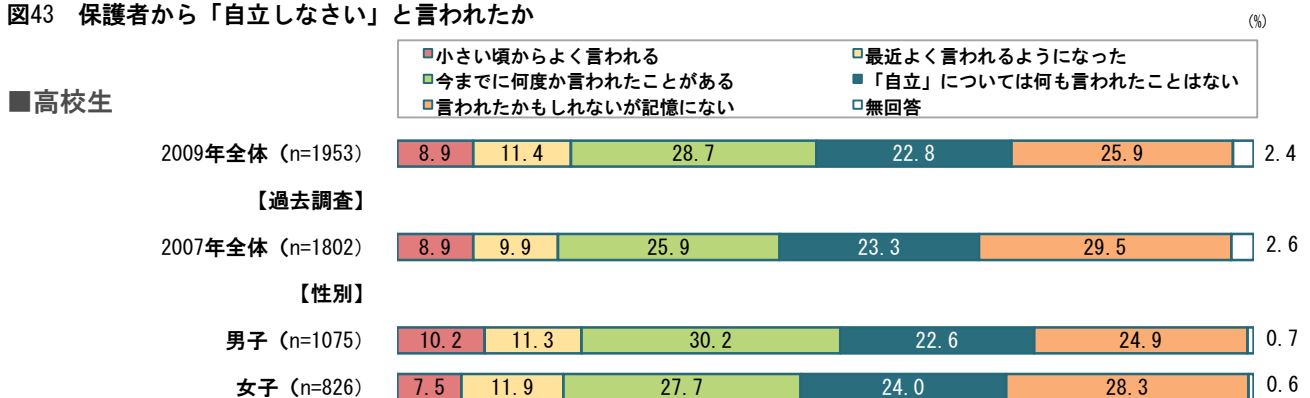
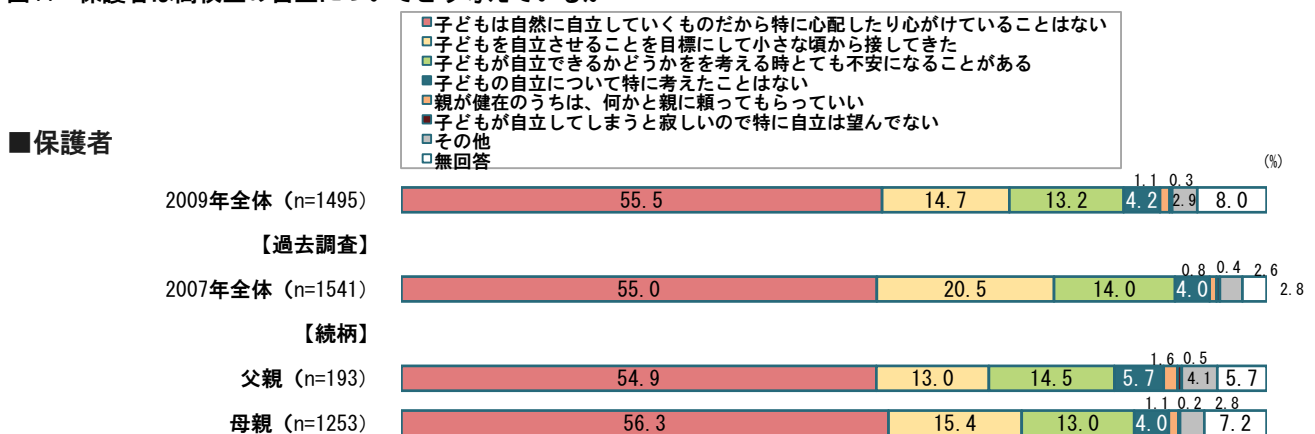


図44 保護者は高校生の自立についてどう考えているか



≫ 高校卒業までにはできるようになってほしいこと【保護者】

- | | |
|---|---|
| ○規則正しい生活、食事、清掃、社会人としてのマナー(愛媛・母親、女子) | ○きちんと自分の考えのある人になってほしい(人に流されない人)(三重・母親、女子) |
| ○自分自身の身のまわりのことは自分でできるように(三重・父親、男子) | ○人に言われてからでなく、自分から考えて行動すること(京都・母親、女子) |
| ○一人暮らしをするだけの生活能力(埼玉・母親、男子) | ○自分の行動に責任をもって自立できるようになってほしい(東京・母親、男子) |
| ○起こされることなく起きる(三重・母親、女子) | ○自分の未来予想図を描き、人生の目標を立ててほしい(石川・母親、男子) |
| ○男の子でもお米の炊き方ぐらいは覚えてほしい(鹿児島・母親、男子) | ○自分を律して生きること、自分の言動に対する責任を少しでも感じられるようになってほしい(鹿児島・母親、女子) |
| ○時間を守り、自分で計画を立てて実行できること(鹿児島・父親、男子) | ○困難に立ち向かえる力をつけてほしい(愛媛・母親、女子) |
| ○あいさつ、返事(石川・母親、女子) | ○物ごとを正しくとらえ、判断、選択できるようになってほしい(石川・母親、女子) |
| ○スムーズな人間関係(コミュニケーション能力)(埼玉・母親、男子) | ○人の言葉や態度で自分の考えを変えるのではなく、自分で考え、行動し、反省し、修正した一歩を踏み出す…基本をもってほしい(山形・母親、男子) |
| ○自分の考えをはっきり人に伝えられる人になってもらいたい(京都・母親、女子) | |
| ○人とかわかり合う能力をもち、社会のマナーやルールを守って生活できるようになってほしい(山形・母親、男子) | |
| ○協力し合って、達成感を味わってほしい(協調性を身につけてほしい)(愛媛・母親、女子) | |

30. 経済的自立・精神的自立

■「すでに精神的には自立している」という高校生は17%

■高校卒業や就職を経済的自立の機会と考える

経済的自立を「実家を出て経済的に自立すること」と定義し、それに対する高校生の考えをたずねた(図45)。「高校を卒業したら自立したい」が28%、「就職したら～」が44%で、その合計は7割超。高校卒業や就職は、経済的自立をする大きな機会と考えられているようだ。男女別に見ても意識に大きな差は見られず、女子も自立に前向きだ。希望進路別では、「高校を卒業したら～」は就職希望者に多いが、「就職したら～」まで含めると大短希望者が最も多い。

また、精神的自立について「自分のことは自分で判断すること」と定義して質問すると、「すでに精神的には自立していると思う」は17%(図46)。これに「高校在学中には～」「高校を卒業したら～」を足した73%が、高校卒業までに精神的自立を考えているという。男女別では、「すでに精神的には自立していると思う」は男子のほうが若干多い。

図45 自分自身の「経済的自立」についてどう考えているか

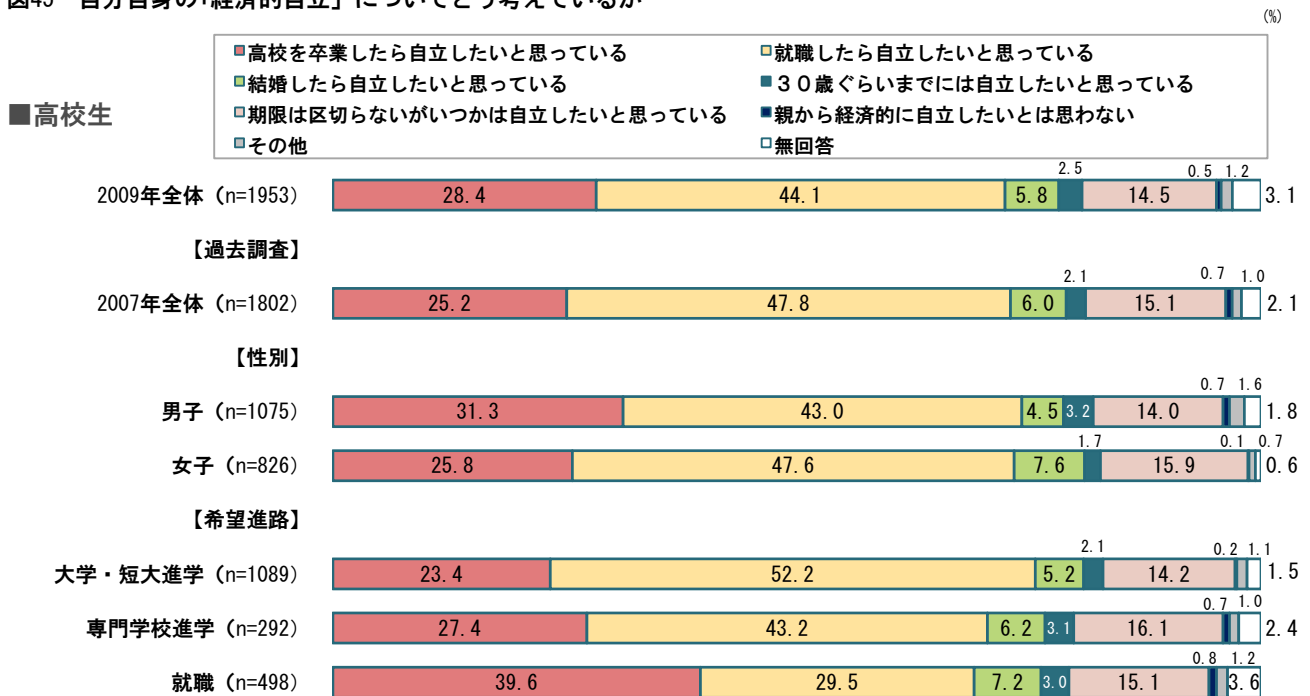
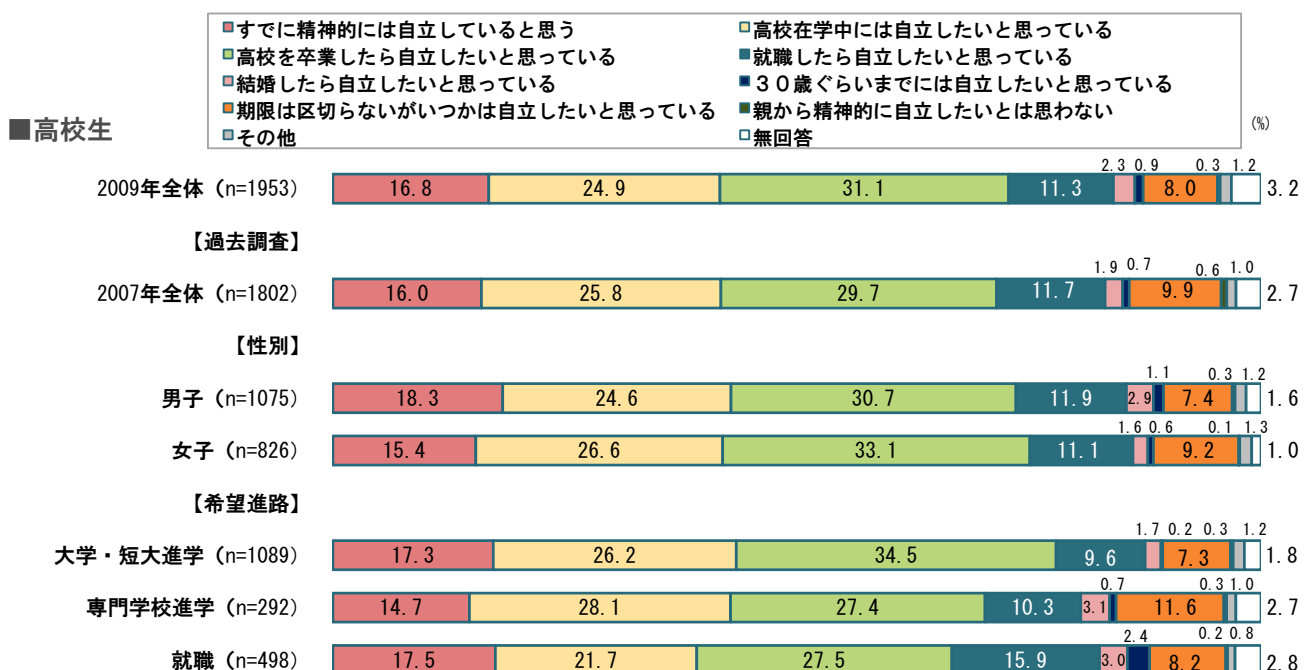


図46 自分自身の「精神的自立」についてどう考えているか



VI. 保護者の動きと学校への要望

31. 進学情報の必要性・入手方法

- 「入試制度」「進学費用」「職業との関連」についての情報が重要
- 高校が進学情報の最大の情報源

子どもの進学に際して重要だと思う情報を保護者に選んでもらったところ、「現在の入試制度の仕組み」「進学費用」「将来の職業との関連」などが上位に並んだ(図47)。前回から大きな変動はないが、「奨学金の種類と採用条件」(25%→29%)の増加がやや目立つ。

また、進路情報の入手方法についても質問(図48)。「高校で配布された資料」「担任の先生」が多く、高校が重要な情報源であることを再確認できる。一方で「学校案内やパンフレット」「各学校のホームページ」も上位に入り、保護者独自の情報収集も活発だ。専門学校進学希望は「学校案内やパンフレット」が最多で、高校経由の項目の回答が少ない。独自に情報収集していることが見てとれる。

図47 進学に際してどのような情報が重要か

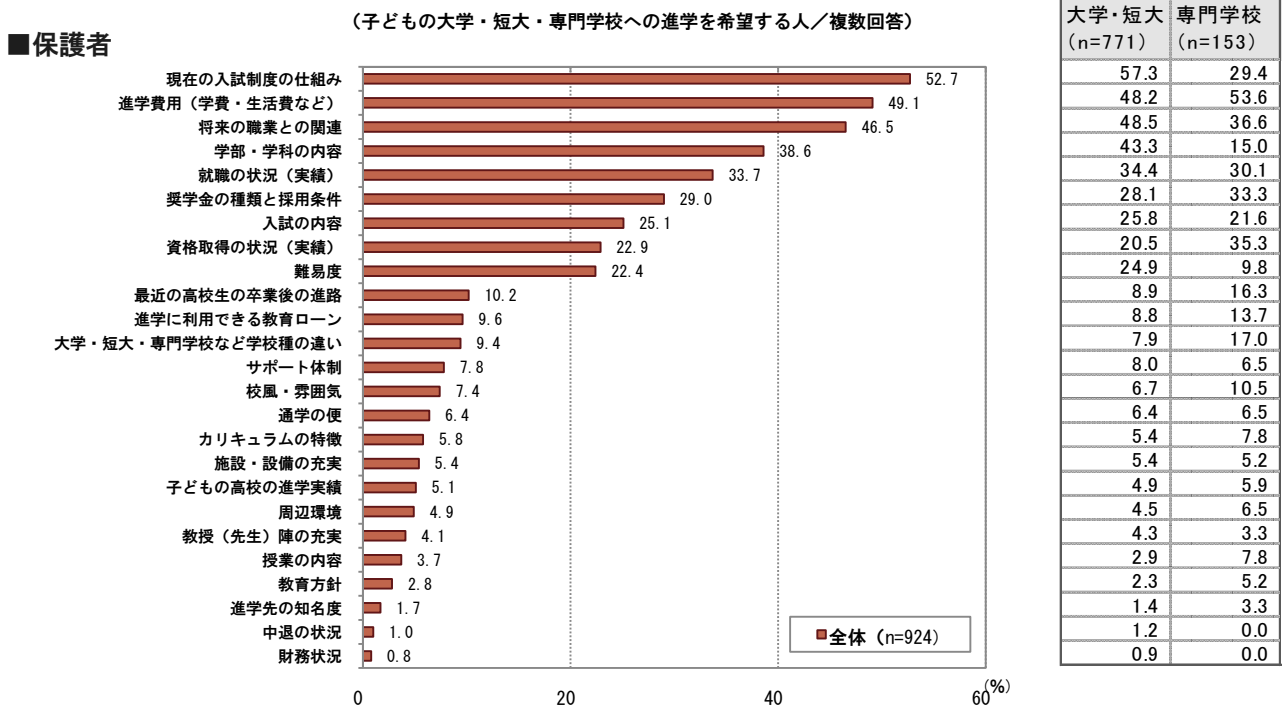
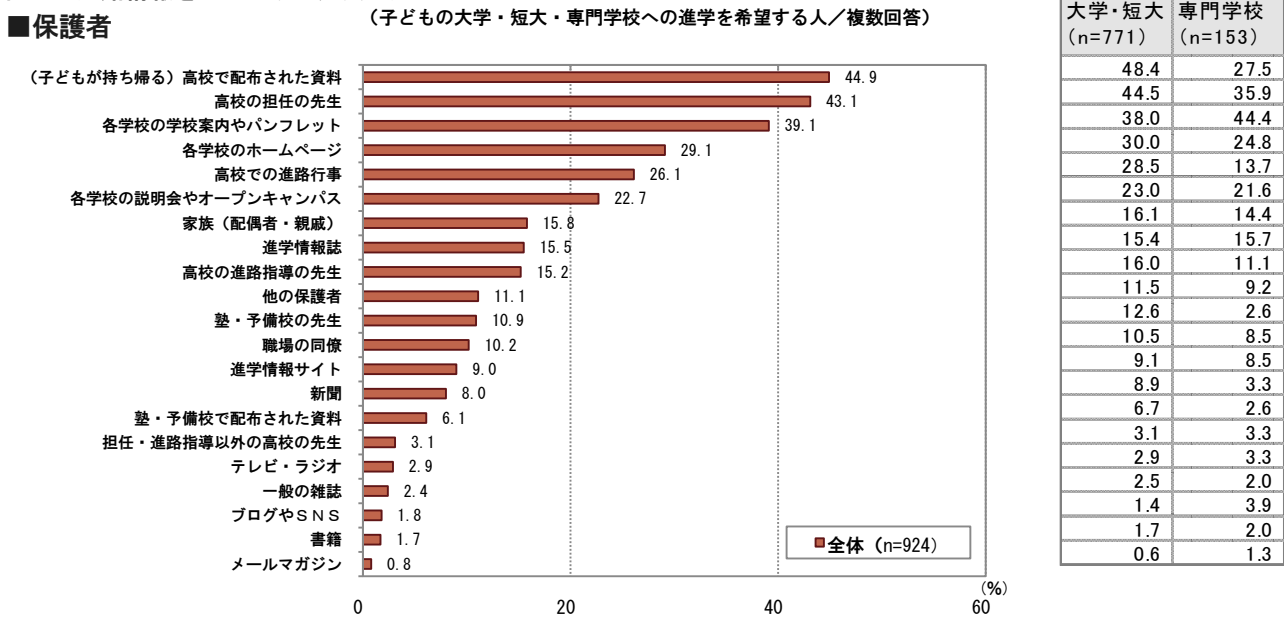


図48 進路情報をどのような方法で入手しているか



32. 進学先検討の重視点

■「子どもの学びたい学部・学科・コースがある」が84%で最多

■専門学校進学希望は「資格取得に有利」を最も重視

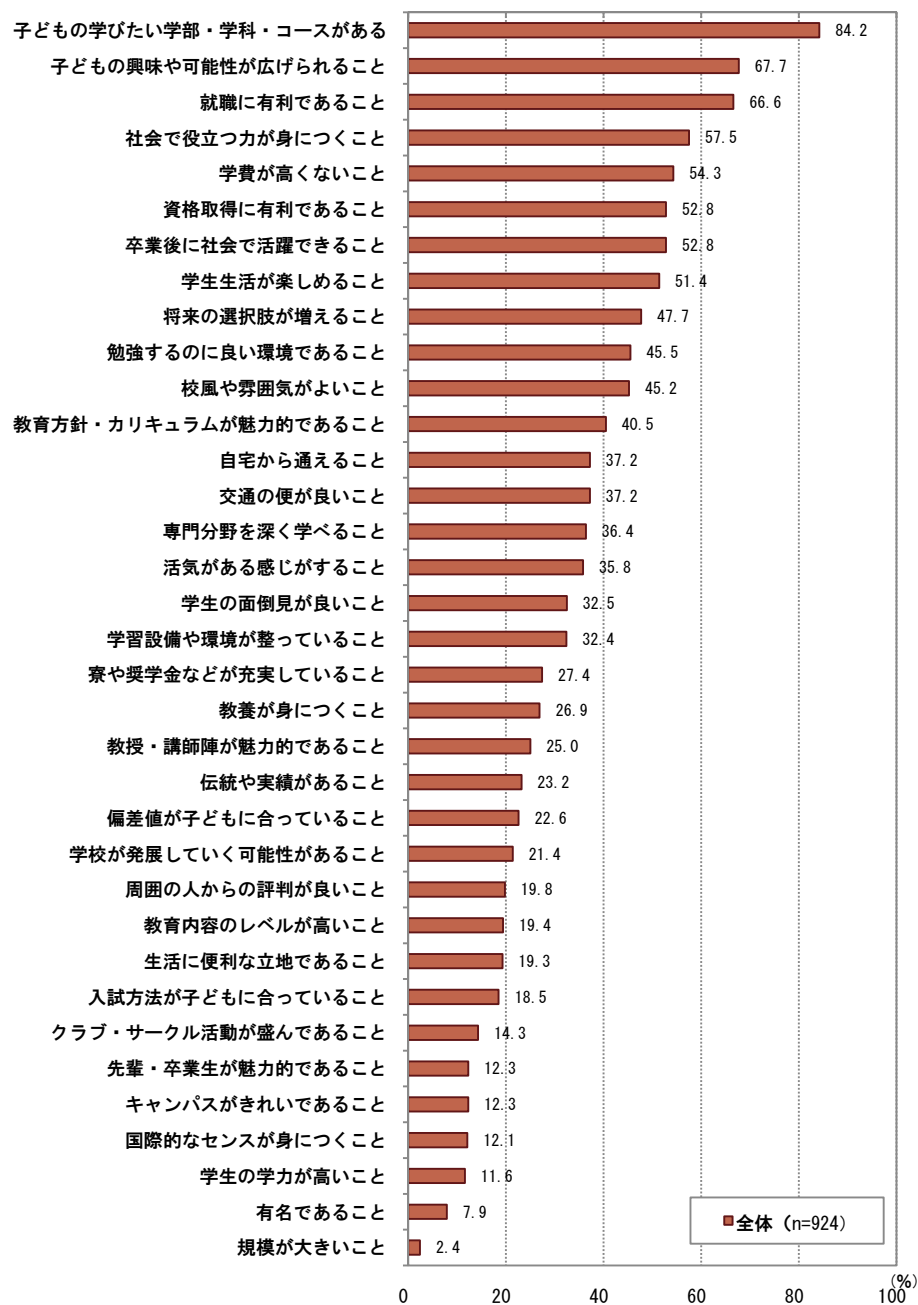
子どもの進学先を考える時にどのようなことを重視するか、進学を希望する保護者に質問した(図49)。最も多かったのは「子どもの学びたい学部・学科・コースがある」で84%が回答。「子どもの興味や可能性が上げられること」「就職に有利であること」なども6割を超えた。

【希望進路】別に見ると、大学・短大進学希望の上位3つは「子どもの学びたい学部・学科・コースがある」「子どもの興味や可能性が上げられること」「就職に有利であること」だが、専門学校進学希望では「資格取得に有利であること」がトップで、優先順位に違いが見られる。

図49 進学先の学校を考える時にどのようなことを重視するか

(子どもの大学・短大・専門学校への進学を希望する人/複数回答)

■保護者



大学・短大 (n=771)	専門学校 (n=153)
86.4	73.2
68.1	66.0
67.2	63.4
57.2	58.8
52.8	62.1
48.0	77.1
51.8	58.2
51.8	49.7
48.9	41.8
47.1	37.3
45.7	43.1
41.0	37.9
36.8	39.2
36.3	41.8
34.8	44.4
35.9	35.3
31.5	37.3
32.9	29.4
27.0	29.4
27.6	23.5
26.6	17.0
23.7	20.3
23.5	18.3
22.0	18.3
19.2	22.9
21.5	8.5
18.5	22.9
18.7	17.6
15.4	8.5
12.7	10.5
12.5	11.8
13.9	3.3
13.1	3.9
8.8	3.3
2.6	1.3

33. 保護者の進路選択行動

■学校見学に「行ったことがある」は22%、「今後行きたい」は49%

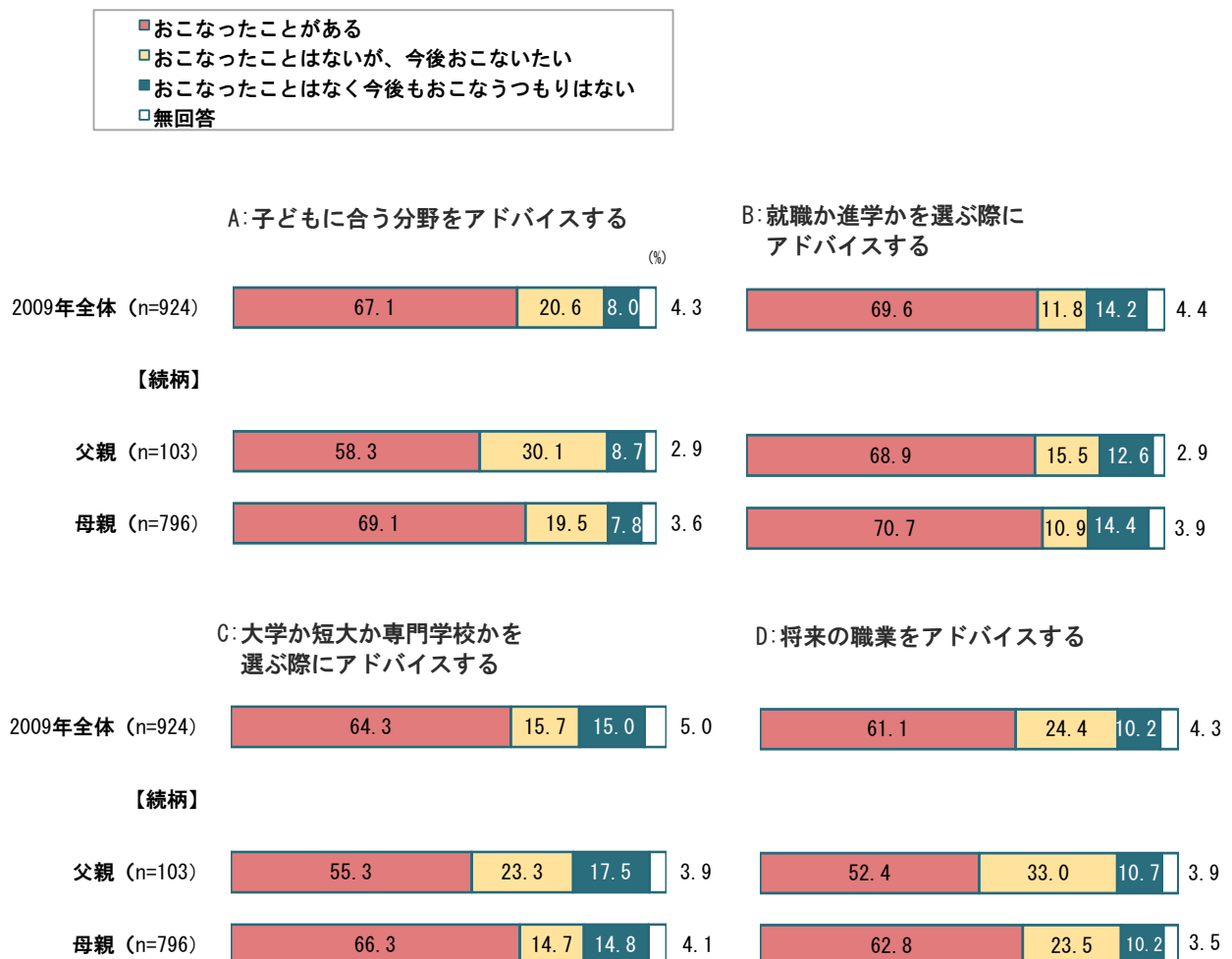
■「子どもと一緒に考えたいから」が積極的に行動する理由

子どもの進路選択行動に保護者自身はどのようにかかわっているか、10の行動例をあげて現時点までの経験と今後の意向を質問した(図50)。各項目とも「おこなったことがある」「おこなったことはないが、今後おこないたい」の合計はいずれも7割超。「どんな学校があるか調べる」が83%、「どんな学部、学科、コースがあるかを調べる」が82%、「興味をもった学校の入試方法を調べる」が80%と、進路情報収集に関しても行動意欲が高い。父母別に見ると、全体的に母親のほうが数値は高めだが大きな差はなく、父母とも意欲的なようだ。

このように保護者が自ら行動する理由をたずねると、最も多かったのは「子どもと一緒に考えたいから」で、次の「具体的情報を知らない」と進路の会話ができないから」とともに半数以上が回答(図51)。子どもと一緒に考え、話し合うために情報収集する保護者の姿がうかがえる。

図50 保護者は子どもの進路選択行動にどのようにかかわっているか(子どもの大学・短大・専門学校への進学を希望する人)

■保護者



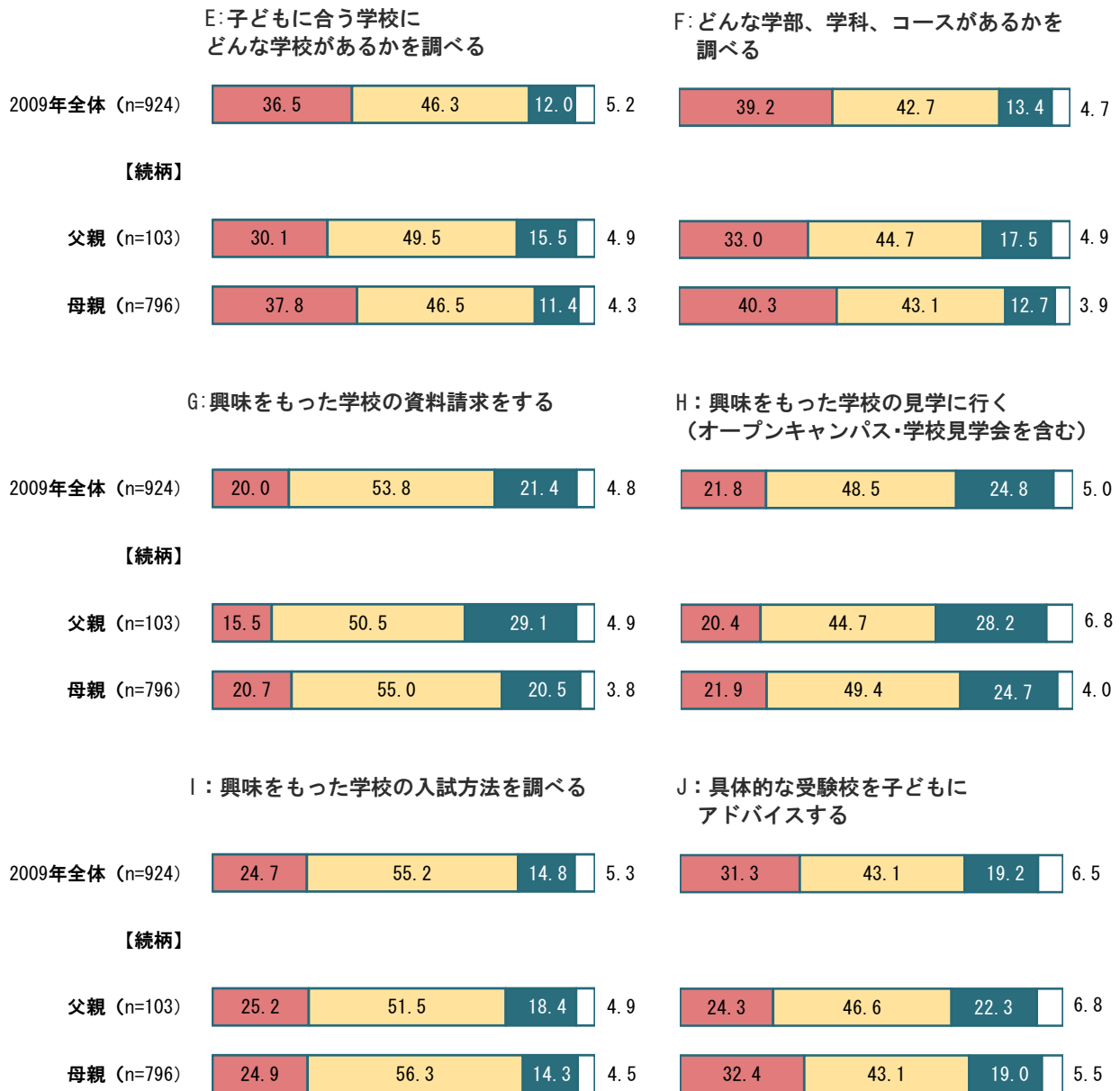
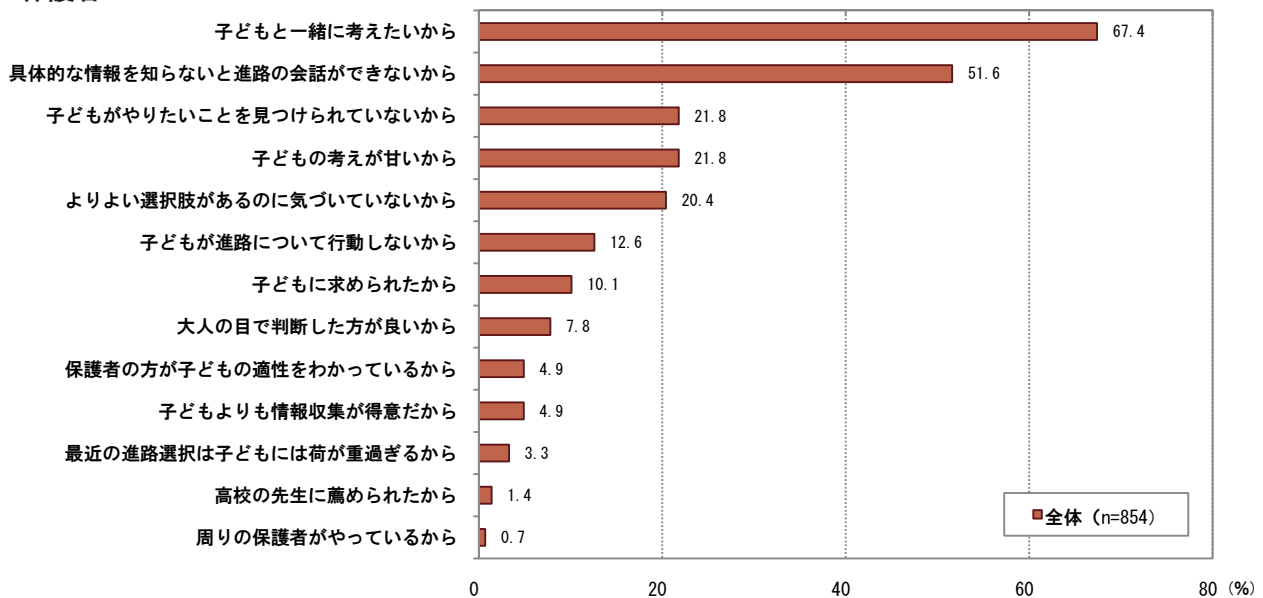


図51 保護者が自ら行動するのはなぜか

(子どもの大学・短大・専門学校への進学を希望する人でかつ上記E~Jに「おこなったことがある」「おこないたい」と回答した人/複数回答)

■保護者



34. 家庭と学校の役割に関する認識

■「学力をつけさせる」「経済や企業の動向を伝える」は学校への期待大

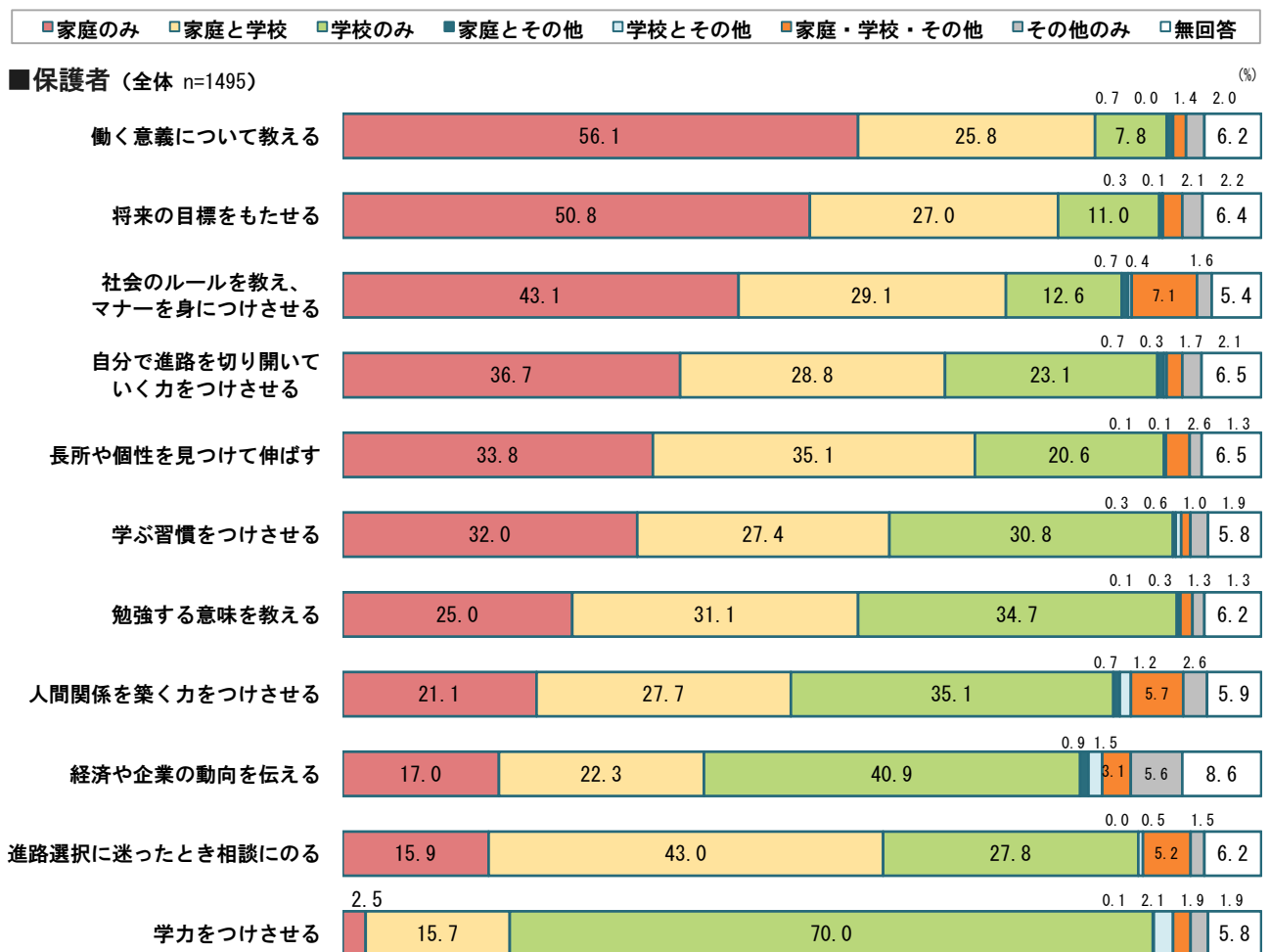
■保護者か学校か明確な役割分担はできない？

下記11項目のことを高校生にするのは「家庭」「学校」「その他」のうち誰の役割か、あてはまると思うものを保護者にすべてあげてもらい、その回答状況を分類した(図52)。まず、「家庭のみ」の回答が半数を超えたのは「働く意義について教える」と「将来の目標をもたせる」で、これらに自らかかわる必要を感じている保護者が多いようだ。

また、「進路選択に迷ったとき相談にのる」や「長所や個性を見つけて伸ばす」については「家庭と学校」という人が最も多く、両者が連携してあたっていくことが求められているといえる。

一方、「学校のみ」の回答が最も多かったのは「学力をつけさせる」で7割を占める。そのほか、「経済や企業の動向を伝える」「人間関係を築く力をつけさせる」についても「学校のみ」という回答が約4割あり、学力の育成だけでなく、社会で生きていくための力の育成も学校に期待されていることがわかる。

図52 高校生に次のことをするのは誰の役割か



≫ 子どもが受けてよかった進路指導【保護者】

- 適性テストなんかはおもしろく見させてもらい、子どもの別の面を知ることができました(石川・父親、男子)
- 卒業生からの言葉、アドバイスなど参考になる(東京・母親、女子)
- インターンシップはとてもよい経験になりました。就職してから、自分の思っていたのと違っては困るし、実際に経験してみてわかることがあり、進路選択の役に立ちました(東京・母親、男子)
- 子どもの可能性を引き出す言葉がけをしてくださったこと(埼玉・母親、男子)

- つきたい職業があり、一つの学部にとこだわっていたところがあった、違う学部からの視点で見てみるようアドバイスがあり、視野が広がった(三重・母親、女子)
- 常に生徒たちと向き合い、折りに触れ話を聞き、話をしてくださる先生方の熱意ある指導です(山形・母親、女子)
- 担任の先生の話が非常にすばらしい。進路指導という狭い枠にとらわれず、もっと大きな視野で話をしてくれるので広く考えることができる(東京・母親、女子)

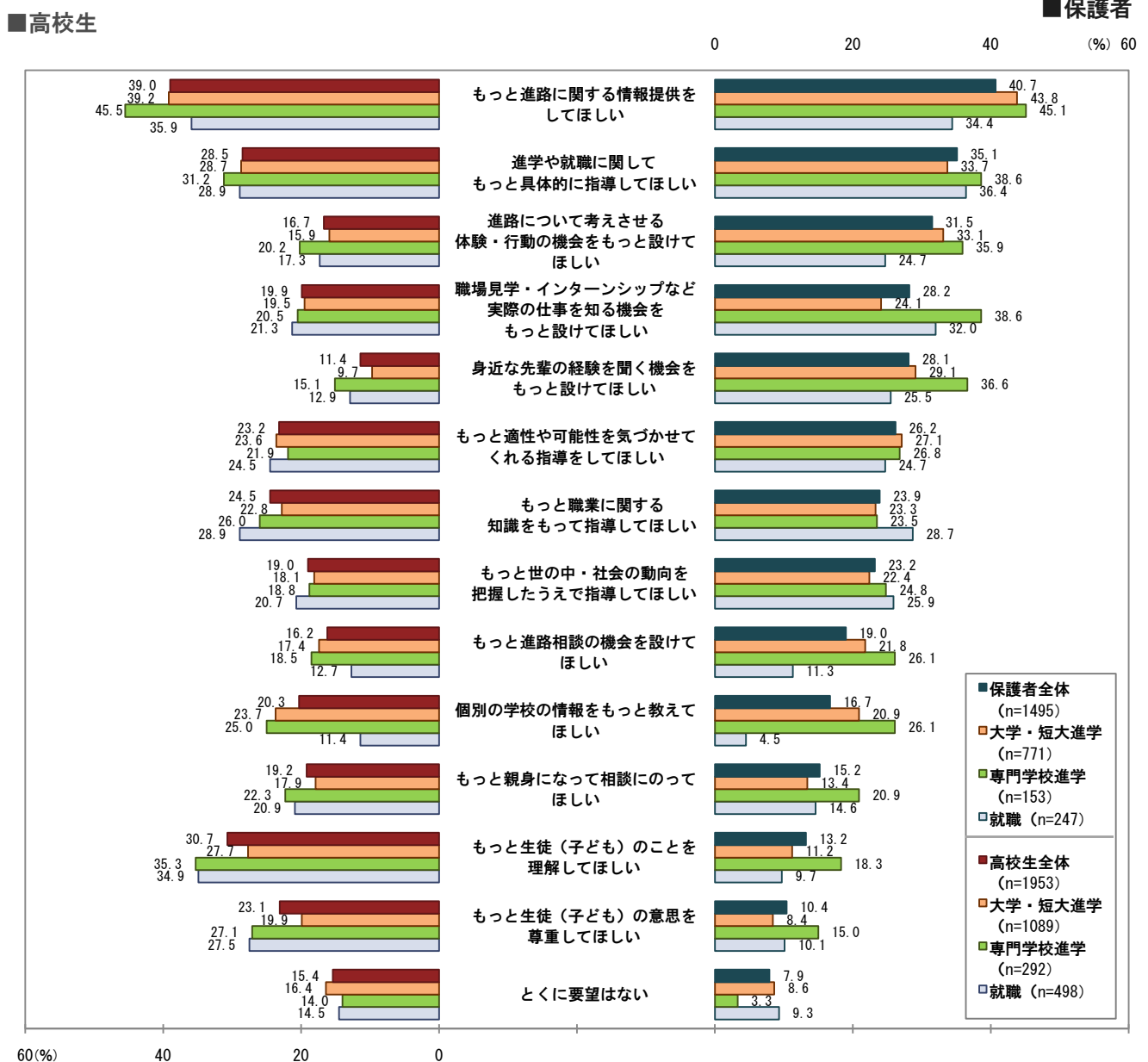
35. 進路指導への要望

■「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」という高校生は39%、保護者は41%

■理解や共感求める専門学校進学・就職希望者

高校の進路指導についての要望を、高校生と保護者に質問した(図53)。両者とも最も要望しているのは「進路に関する情報提供をしてほしい」だったが、それ以下の順位は異なる結果となった。まず高校生は2番目が「生徒のことを理解してほしい」。「生徒の意思を尊重してほしい」も少なくなく、自分の気持ちや考えに共感してほしいという要望が強いようだ。希望進路別に見ると、その傾向は専門学校進学希望者と就職希望者に強い。一方、保護者の2番目以降は「進学や就職に関して具体的に指導してほしい」「体験・行動の機会を設けてほしい」「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会を設けてほしい」と続く。単なる情報提供にとどまらない、個別の指導や体験などの充実を求めているようだ。希望進路別に見ると、多くの項目で専門学校進学希望の数値の高さが目立った。

図53 高校の進路指導にどのようなことを要望するか(複数回答)



≫ 高校や教師に対する意見や要望【保護者】

- 高校の大学進学率の体裁のための指導ではなく、本人の意思を尊重した進路指導をしてもらいたい(石川・母親、女子)
- 一人ひとりの特性をよく見て個々の指導をしてほしい(愛媛・母親、男子)
- この時期の子どもはあまり素直に親に話をしないので、せめて先生には何でも相談できる存在になってほしいです(京都・母親、男子)
- 生徒との会話の時間をもっとつくり、子どもの気持ちを引き出せる時

- 間があればうれしいです(鹿児島・母親、男子)
- どのような活動をして、子どもたちに達成感をもて、自信になるような体験が増えるといいと思う(愛媛・母親、女子)
- 先生方には団結して教育にあたってほしい(埼玉・父親、男子)
- 熱意を感じられる教育をしてほしい。なぜ教育の場にいるのか忘れて(薄れて)しまっている教師もいるのではないかな(北海道・母親、女子)

36. キャリア教育の認知と期待

■キャリア教育の認知率は28%とほぼ前回並み

■普通科に最も多い趣旨への賛同

「キャリア教育」という言葉を聞いたことがあるかと保護者に質問したところ、「ある」が28%で、前回とほぼ同じ結果だった(図54)。家庭におけるキャリア教育の認知度は、2年間でほとんど進んでいないのかもしれない。父親の認知率は比較的高いが、やはり前回と差はない。また、所属学科別では総合学科の認知率が46%と高く、前回の28%から大幅なアップとなった。

次に、キャリア教育の定義を下記(※)のように示し、それが推進されることについてたずねると、「非常に良いことだと思う」は44%で「まあまあ良いことだと思う」と合わせると83%にのぼった(図55)。言葉はあまり知られていないものの、その趣旨には賛同や期待が寄せられているようだ。前回と比べて「非常に良い」という高い評価が増えた点に、期待感の高まりも感じられる。所属学科別に見ると、普通科で「良いことだと思う」が最も多かった。

図54 「キャリア教育」という言葉を聞いたことがあるか

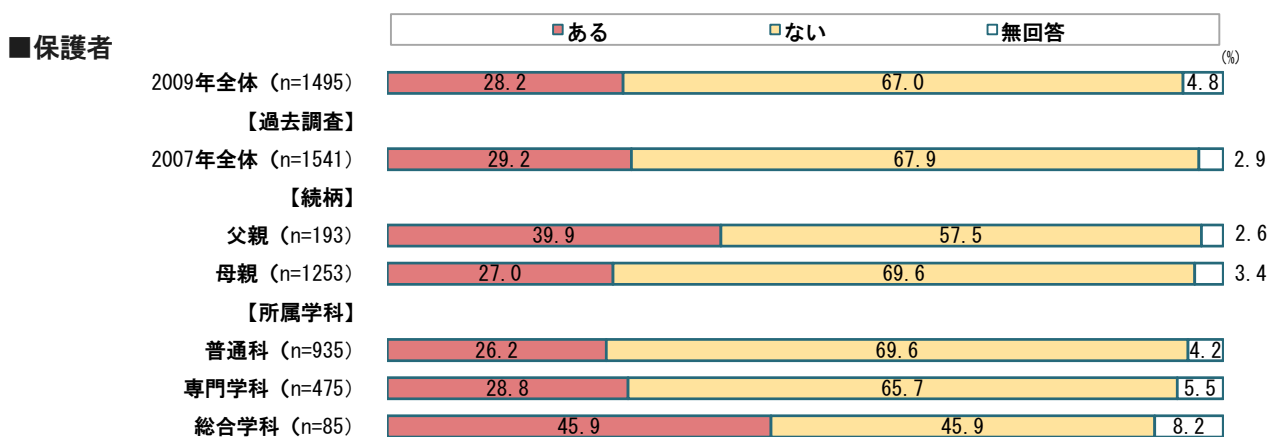
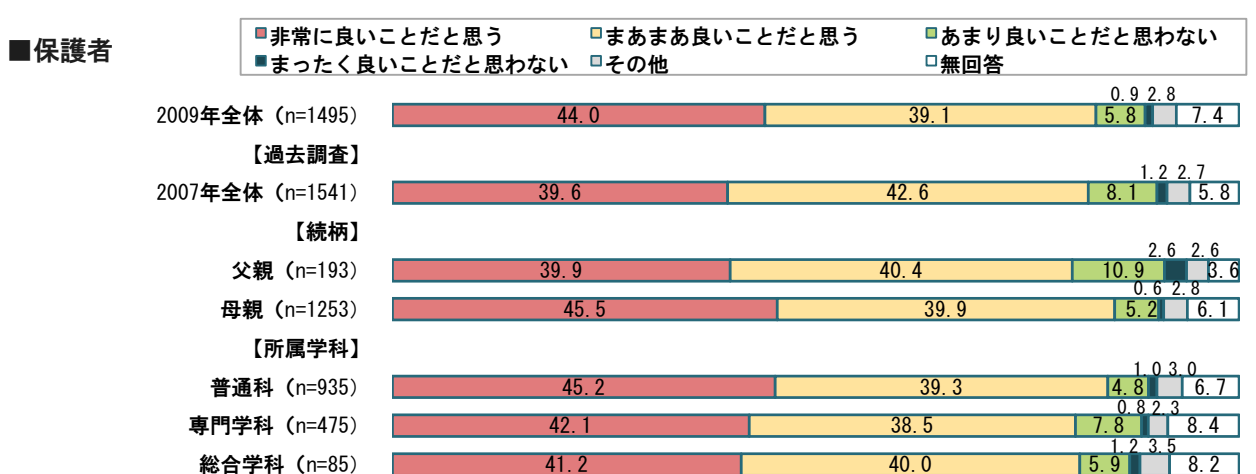


図55 「キャリア教育」が推進されていくことをどう思うか



※「生徒一人一人のキャリア(生き方・働き方)を形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」をキャリア教育の定義とし、示した

≫ キャリア教育に対する意見や要望【保護者】

○キャリアという言葉は、最近聞くようになったのですが、人間としての大事な教育のひとつとして、取り入れてみても良いと思います(山形・母親、男子)
 ○子どもの可能性を伸ばしてほしい(東京・母親、男子)
 ○具体的にはわかりませんが、一人ひとりが意欲をもてるようになればいいと思う(愛媛・母親、女子)
 ○夢が夢だけで終わらないよう、希望のもてる教育であってほしいと思います(石川・母親、女子)
 ○社会・企業が求めるものを十分理解し、把握しておくことが必要(石川・父親、男子)
 ○マニュアル化された指導でなく、柔軟な感性を大切にしてほしい(東

京・母親、男子)

○とてもすばらしいが、指導できる教員がいるのか？(北海道・母親、男子)

○こういうことを実施するならば地域・家庭・学校の密着がより重視されるように思う(石川・母親、男子)

○小さい頃からあまり決め付けしないで、本人がいろいろなものを見て聞いて、生き方を決めてほしいので、どういう教育か心配(石川・母親、女子)

○学校で建前のようにする「○○教育」にはうんざりです。どれだけの成果が…？ 成果があるような教育ができればいいと思う(愛媛・母親、男子)

調査結果を見て保護者が感じたこと

第4回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」を今回で行った(社)全国高等学校PTA連合会と(株)リクルートは、データ集計を終えた2009年12月に各会を相手、今回の調査を振り返り、
本誌掲載データと同様のものを見ながら、保護者としてこれを見て受け止め、今後どう生かすかを率直に語ってもらった。
この調査結果を保護者会などで活用する際の参考にしていただきたい。

＜会議参加者＞

■(社)全国高等学校PTA連合会 高間専逸(会長) 田村二葉(本部事務局長) 【進路支援委員会】 小出邦彦(委員長) 中村信仁(調査委員) 成川誠文(担当役員)
岸靖博(山形) 山田明美(埼玉) 芝田直樹(東京) 三國広美(石川) 下里優希(三重) 佐藤英子(京都) ■小誌編集部

※以下、◆は父親 ◆は母親を指している

1章 6

相談相手、影響を受ける人について

◆調査全体では親子のコミュニケーションがよくとれている印象を受けましたが、私が残念だったのは、「進路選択の相談相手」(15p図9)で父親の存在感が薄かったことです。母親だけでなく友人にもおついているという事実が、同じ父親として悲しいですね。仕事に

かまけて、子どもと話す時間をとっていない父親が多いのではないかと。

◆私の子どもも父親との会話より、私との会話のほうが多いと感じます。でも子どもと父親が頻りに話しているという印象はなく、私が子どもと話したことを次に話し、次の考えを今度は子どもに伝えるという役回りをしています。そんなことから母親がバリエーションになっている家庭もあるでしょうから、この調査では母親が目立っていますが、かならずしも父親の存在感が薄いとはいえないと感じます。

◆こちらもまさにさへいへい感じでした。私も子どもと直接話さず、母親を通して、大事なことは母親に話し、それを子どもに伝えてもらっている、単純に思っています。子どもを育てて、私が子どもと話すのは「眠る前」の15分程度です。子どもにも、父・母・祖父母・父親はだれにやらなければならないと聞くと、「そんなことお母さんでいいわー」と言われたくなります。同じ男として、父親でもらうべき父親威厳もあると思うんですが、あまり話しかけられず、話を聞かなくて、私も

ついつい自分中心にものを言ってしまうところがあります。..

◆私は父親が少なく、母親が多いと感じたことを問題視する必要はないと思えますね。トータルで見て父母のどちらかが子どもとコミュニケーションをとれていればそれでいいんじゃないでしょうか。むしろ私は進路についての親子の相談は、はえはえのほめ合いで思っているんですけどね。話せば解はさることも自分の考えを方向に誘導しようとするが、それは子どもにとって強要につながるでしょう。その点、友人や先輩の教訓がもっと多くてもいいと感じました。自分の時代を振り返れば、私は親ではなく友人と相談していました。「あいつが大学に行くなら自分も」ということで、当時は友人や先輩後輩がお互いに良い影響を与えあっていたように感じます。

◆子どもたちの友達でもあっても最近ではわかっていないと感じます。今の子は考え方がしっかりしているかわかりませんが、人の人生にあまり首を突っ込まない、責任を負いたくないという意識が強いですね。そういうムードは、何か淋しい気がします。

1章 7

保護者の関わり方について

◆親は子どもがかわいから、ついつい干渉しがちになると思いますが、「干渉度をどう感じているか」(16p図11)の結果を見ると、子どもから見てもつ

つに8割ほど、思っているほど多くはない印象でした。「ついつい干渉しすぎる傾向があるか」(16p図12)も、めったに干渉しているか60%で、親としてはほつちしました。

◆しかし、13歳未満の子どもと無関心と見られてしまう親がいることは問題ですね。親が子どもをしっかりと看とらなければいけない時代になっているのに、これは残念です。

◆「子どものことをよく見てほしい」(16p図13)のところにはわかれわれの区別なく意見が寄せられますね。項目を一つ一つ、子どもにあまり干渉させないでほしいという声が多いです。

◆高校生が親に区別するといった、それまでの親子の会話に問題があるのだと思います。私の経験からすると、小中学校の頃から子どもとコミュニケーションをとっていたら、子どもが高校生になっても大学生になっても、ずっと変わらずコミュニケーションをとります。そうではなく、進路や進路についていきなり親が話したがるという、子どもが区別するのは当然ではないでしょうか。

1章 14・15

進路選択・働くことの気かりについて

◆「働くことについての気かり」を会話の頻度別にみると、親子の会話がある子どもは不安はない、会話がない子はかなりの深刻で、「働くことについて考えたこと

をなら」についての回答も出てくる。会話の重要性が、わからぬかもしれませんが、会話の中でついに子どもの不安を取り除いていくのが聞かれています。かもしませる。

1章 17

保護者のアドバイスについて

◆28p図13を見ると、子どもへのアドバイスが難しいう原因として、社会が変化しているのを予測できず、かわいがる回答も最も多かったのですが、これなどは今の保護者の本音に即答を要していると感じます。ついでに保護者の不安を子どもに伝える態度に感ずる、それが子ども自身の不安にもつながるのではないかという。

◆保護者として、子どもに何をいふべきかわからず、困っている親の話を聞いてあげて、その中から子どもにアドバイスしたい方向性を示して、親が悩まれている気がします。子どもへの適切なアドバイスは、わが家という環境に合ったものであり、親の経験や価値観に左右されます。だから親のアドバイスが、子どもの進路に大きな影響を与えることは、決して避けられない。

◆私としては、親も子どもが社会生活や仕事に慣れていく、自分の進路を自分で見極めていけるように思っています。だから親のアドバイスが、子どもの進路に大きな影響を与えることは、決して避けられない。子どもが、アドバイスを受けることができるように思っています。



●進路についてのもじめなコミュニケーションはわからない重要だと感じますが、善段のたあいもない、などともな話を大切だと思えます。学校の話や進路の話はその延長線上に出くるものですからね。しかも、親子コミュニケーションは不良だといふんじ、コミュニケーションの多い子どもほど望ましい結果が出ているといふことが、今回の調査からしっかり確認できたのはなによりです。親として、今後も子どもとしっかり話をしたいといふへ意気込みが感じられます。

いと思えます。

●しかし、なぜ字が、働くかといった問題は、これまでは対話よりも親の書中で見せてきたんじゃないですかね。「家庭と学校の役割」（36p図49）の中に〈働く意義について教える〉という項目があります。テーマによればこれを家庭の役割だと考える保護者が多く、私も同感ですが、子どもに無理にわからせるようなものではない気がします。言葉よりは感じるもの、感じてもらうものとして伝えるのがベストではないでしょうか。

●例えば私の地域の中学校では、保護者の会社で職場体験をするという行事を行っています。そういう機会に子どもたちをあらためて感じるものは多いでしょうね。

●私の子どもの高校は専門技能をもつ保護者を集めて、授業で実演をしたり、講演会を行ったりしています。校長先生はじめ、先生たちもいろいろ頑張っているようです。

●私は進路子どもに私の考えを話すようにしています。仕事というものはうまくいく時もある、いかない時もあるものだが、好きな仕事につけることも限らないし、つけだとしても人間関係を拒否したり試練もある、それが社会に出るということ。そういうものを乗り越えないとあなたの成長はない、なると時たままじめな話をするんです。やるとしたら必ずやうとまじような奮闘を要するので、たまには濃密なコミュニケーションも必要だなと私自身気づくことがあります。

V 章 21・22 自立について

●自立については経済的にも、精神的にも、高校生は比較的早く親から自立したいと考えているようで（33p図43・44）、母親の本音としては「もうちょっと甘えてくれてもらいたい」という気持ちも少なくはありません。今の子は頼もしいなあと感心してしまうます。しかしそういう理解はありながらも、養育は子どもたちは結構もがいているんじゃないかなと思えます。だからこそ、親や先生の助言をうまく取り入れてほしいですね。

V・VI 章 家庭教育・家庭の役割について

●なぜ字が、なぜ働くかに関する親子の対話についての設問があります（30p図38・39）、こういうテーマを親子で話し合うというのはいかなる難しんじゃないでしょうか。

●でも、私はそのあたりの数値の低さは非常に驚になりました。こういうテーマを親子で話さないのが当たり前になつてしまつたら、社会的に問題だと感じます。ネットやアバターを受容する層が増えているように（22～23p）、私はあまり容認すべきではない



三國広美（石川）

下里義治（三重）

佐藤洋子（京都）

